



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容                      | 到達目標 (SBOs)               | 講義形態  |
|----|----|---------------------------|---------------------------|-------|
| 前期 | 1  | 細胞の基本構造と生命活動              | 細胞の基本構造の特徴と生命活動について説明できる。 | 講義    |
|    | 2  | 細胞の構成 (水、タンパク質、脂質、糖質、無機物) |                           | 講義    |
|    | 3  | 生命活動を支える物質 (酵素と代謝、ATP)    | 生命維持のエネルギーと供給源を学ぶ。        | 講義    |
|    | 4  | 生命の維持機構① (内部環境の恒常性)       | 生命維持のしくみについて説明できる。        | 講義    |
|    | 5  | 生命の維持機構② (神経による調節)        |                           | 講義    |
|    | 6  | 生命の維持機構③ (ホルモンによる調節)      |                           | 講義    |
|    | 7  | 生命の維持機構④ (血液)             |                           | 講義    |
|    | 8  | 生命の維持機構⑤ (循環)             |                           | 講義    |
|    | 9  | 生命の維持機構⑥ (外呼吸・内呼吸)        |                           | 講義    |
|    | 10 | 生命の維持機構⑦ (細胞呼吸)           |                           | 講義    |
|    | 11 | 生命の維持機構⑧ (消化と吸収、栄養)       |                           | 講義    |
|    | 12 | 生命の維持機構⑨ (消化と吸収、栄養)       |                           | 講義    |
|    | 13 | 生命の維持機構⑩ (尿の生成)           |                           | 講義    |
|    | 14 | 生命の維持機構⑪ (体温調節)           |                           | 講義    |
|    | 15 | 生命維持機構のまとめ (到達目標達成確認)     |                           | 講義・試験 |

【分野】 基礎分野 科学的思考の基盤人間と生活

【科目】 総合基礎 I (生物 II)

## 【基本情報】

|      |      |         |         |      |
|------|------|---------|---------|------|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員    | とどき かずお |      |
| 単位数  | 2 単位 |         | 塗々木 和男  |      |
| 開講学期 | 後期   | 授業形態・回数 | 講義      | 15 回 |

## 【授業情報】

|               |   |
|---------------|---|
| 授業概要          | 生物とは生きているもの、生命活動を営むものをいう。生命活動とは①自己保存（自身の生命を維持すること）と、②種族保存（子孫を残すこと、つまり生殖）のことである。生物 I では①植物機能（つまり生命維持に必要な機能：呼吸、循環、消化、排泄）について、生物 II では②動物機能（つまり積極的な生命活動の活用する機能：運動、感覚、免疫、生殖）と③生命の終焉についてのトピックスを交えて分かりやすく解説します。 |
| 授業の一般目標 (G10) | ヒトを対象とした生物学を学び、生命活動における動物機能の「運動」「感覚」「自己の防御」および生命の連続機能である「細胞分裂」「生殖・発生」と「遺伝」についての基礎的仕組みを理解する。   |

## 【担当教員から】

|              |   |
|--------------|---|
| 教科書          |   |
| 参考書          | 高校教科書の「生物」あるいは参考書   |
| 成績評価基準       | 定期試験：シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題（レポート・小テスト等）：レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。   |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準（評価割合 (%)）<br>期末（到達目標達成確認）試験成績 ――― 95 %<br>（課題等を行わなかった場合は 100 %）<br>課題等 ――― 5 %（課題等を行った場合の加算割合）  |
| 履修の条件<br>留意点 | 期末（到達目標達成確認）試験、課題の評価を合計して 60 % 以上で履修とする。<br>この科目は基礎分野・科学的思考の基盤人間と生活・生物 II の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の 70 % 以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。   |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）<br>本講義はとくに人体の機能（生理学）を理解しやすくするための基礎的知識習得を目標としています。授業後は復習の習慣をつけることが大事であります。予習→授業→復習のサイクルを守るように。質問は授業中でも大歓迎ですが、時間が十分に取れない場合があります。Eメール（todoki@kdu.ac.jp）でも受け付けますので利用してください。<br>楽しく、活発な授業にしていきたいと考えています。 |
| オフィスアワー      | 授業開講日の 9 : 15 ~ 12 : 40 Eメール（todoki@kdu.ac.jp）  |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容                        | 到達目標 (SBOs)                                | 講義形態  |    |
|----|----|-----------------------------|--|---|----|
| 後期 | 1  | 環境への適応① (筋肉の収縮と調節)          | 身体の支持と運動について説明できる。                         | 講義  |    |
|    | 2  | 環境への適応② (運動と姿勢調節：反射)        |  | 講義  |    |
|    | 3  | 環境への適応③ (体性感覚)              | 外部環境からの情報受容 (感覚) と<br>防衛 (生体防御) について説明できる。 | 講義  |    |
|    | 4  | 環境への適応④ (内臓感覚)              |  | 講義  |    |
|    | 5  | 環境への適応⑤ (嗅覚と味覚)             |  | 講義  |    |
|    | 6  | 環境への適応⑥ (聴覚と前庭感覚)           |  | 講義  |    |
|    | 7  | 環境への適応⑦ (嗅覚)                |  | 講義  |    |
|    | 8  | 環境への適応⑧ (嗅覚)                |  | 講義  |    |
|    | 9  | 環境への適応⑨ (生体防御)              |  | 講義  |    |
|    | 10 | 生命の連続性① (体細胞分裂と減数分裂)        |  | 生命の継続のしくみ<br>(細胞分裂・生殖・発生・遺伝) について<br>説明できる。 | 講義 |
|    | 11 | 生命の連続性② (有性生殖と無性生殖)         |  |   | 講義 |
|    | 12 | 生命の連続性③ (メンデルの遺伝の法則)        | 講義   |   |    |
|    | 13 | 生命の連続性④ (遺伝情報とその発現)         | 講義   |   |    |
|    | 14 | 生命の連続性⑤ (生命の終焉、老化・寿命)       | 講義   |   |    |
|    | 15 | 動物性機能と生命の連続性のまとめ (到達目標達成確認) | 講義・試験                                      |   |    |

【分野】 基礎分野 科学的思考の基盤人間と生活

【科目】 総合基礎 I (コミュニケーション心理学)

## 【基本情報】

|      |      |         |         |      |
|------|------|---------|---------|------|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員    | つのだ さとこ |      |
| 単位数  | 2 単位 |         | 津野田 聡子  |      |
| 開講学期 | 後期   | 授業形態・回数 | 講義      | 15 回 |

## 【授業情報】

|               |  |
|---------------|--|
| 授業概要          | 心理学の基礎的な知見を習得することで心の問題に関する科学的視点を養い、深い人間理解を目指す。             |
| 授業の一般目標 (G10) | コミュニケーションと、それに関わる諸問題を理解した上で、実習をまじえコミュニケーション・スキルの獲得、上達を目指す。 |

## 【担当教員から】

|              |   |
|--------------|---|
| 教科書          | 必要に応じてプリントの配布、資料の提示などを行う。   |
| 参考書          | 参考書に関しては必要に応じて、授業中に指示する。  |
| 成績評価基準       | 定期試験：シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題(レポート・小テスト等)：レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。   |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準 (評価割合%)<br>期末(到達目標達成確認)試験成績-----95%<br>(課題等を行わなかった場合は100%)<br>課題等-----5% (課題等を行った場合の加算割合)   |
| 履修の条件<br>留意点 | 期末(到達目標達成確認)試験、課題の評価を合計して60%以上で履修とする。<br>この科目は基礎分野・科学的思考の基盤人間と生活・コミュニケーション心理学の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。 |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容 (担当者からのメッセージ)<br>授業中は積極的にメモを取ること。そして、授業で学んだことを元に、日常生活における心理学的な事柄について考察する姿勢を受講生に求めます。心理学ではどの様にして「心を理解しようとしているか」を考えながら授業に臨んで下さい。               |
| オフィスアワー      | 授業開講日の9:15~12:40 3F職員室  |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容                        | 到達目標 (SBOs)           | 講義形態 |
|----|----|-----------------------------|-----------------------|------|
| 前期 | 1  | オリエンテーション                   | 心理学という学問に対する正しい理解を得る。 | 講義   |
|    | 2  | 心理学の歴史                      |                       | 講義   |
|    | 3  | 進化と心                        |                       | 講義   |
|    | 4  | 発達：乳幼児期の発達                  |                       | 講義   |
|    | 5  | 発達段階説, life cycle, identity |                       | 講義   |
|    | 6  | 性格と知能：理論と検査                 |                       | 講義   |
|    | 7  | 感覚と知覚：外界をしめるメカニズム、錯視        |                       | 講義   |
|    | 8  | 動機づけ                        |                       | 講義   |
|    | 9  | 学習：条件づけ                     |                       | 講義   |
|    | 10 | 記憶：記憶の理論と特性                 |                       | 講義   |
|    | 11 | 臨床心理：ストレス、心理病理等             | 心の問題に対する論理的な思考を身につける。 | 講義   |
|    | 12 | 社会心理                        |                       | 講義   |
|    | 13 | 神経心理：脳損傷と心的機能               |                       | 講義   |
|    | 14 | 試験(到達目標達成確認)                |                       | 試験   |
|    | 15 | 試験の解説・まとめ                   |                       | 講義   |

【分野】 基礎分野 科学的思考の基盤人間と生活

【科目】 総合基礎 I (文章表現・読解法)

## 【基本情報】

|      |      |         |         |      |
|------|------|---------|---------|------|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員    | かわい けんじ |      |
| 単位数  | 2 単位 |         | 河井 謙治   |      |
| 開講学期 | 前期   | 授業形態・回数 | 講義      | 15 回 |

## 【授業情報】

|               |   |
|---------------|---|
| 授業概要          | 1) 文章作成の実践指導及び小論。<br>2) 文の添削・批評を中心に展開する。したがって、学生主体に繰り広げたいと考えているので、積極的な参加と不断の努力を望む。<br>3) その場で「読み・書き」の課題（テーマ）を出す。主に前半は読解に努め、後半は各自に作文してもらう。 |
| 授業の一般目標 (G10) | 昔から「読み・書き・そろばん」が教育の根本だと言われる。そこで本科目では多様なジャンルの小品を読み（読解）、筆者の主張のまとめ及びそれに対する各自の主張を書くこと（表現）ができるようにしたい。つまり、事実を正確に伝える文章力の養成を目標とする。                |

## 【担当教員から】

|   |  |
|---|--|
| 教科書   | 教科書などは使用せず、必要に応じて関連のプリントを配布する。   |
| 参考書   | 国語辞典、場合によっては漢和辞典は必携です  |
| 成績評価基準  | 1) 課題等の提出状況及び小論文（ループリック評価等）<br>2) 1)とは別に隔週一回、新聞のコラム欄を使って、要旨のまとめ、その論に対する各自の考えをまとめて提出してもらいます（自宅学習用）。   |
| 成績評価方法  | 成績評価の基準（評価割合％）<br>課題（レポート等）提出——100％<br>※上記の1)～2)の総合成績で評価する。  |
| 履修の条件<br>留意点  | 課題の評価を合計して60％以上で履修とする。<br>この科目は基礎分野・科学的思考の基盤人間と生活・文章表現・読解法の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70％以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。       |
| 担当教員  | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）<br>「ものを読み、あるテーマについて書く」という行為は、実は大変な難行苦行を伴うものであり、一朝一夕には会得できないものです。したがって、常に興味・関心事を集めるためのアンテナを張り巡らし、知識や情報を収集することが肝要です。 |
|  |  |
| オフィスアワー   | 授業開講日の9：15～12：40 3F職員室   |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容                  | 到達目標 (SBOs)                          | 講義形態                           |    |
|----|----|-----------------------|--------------------------------------|--------------------------------|----|
| 後期 | 1  | ガイダンス・小論文「自己を見つめる」    | 書くための基礎力、構成力、文章の展開と表現力をつける。          | 講義                             |    |
|    | 2  | 友人関係。小論文「友達との付き合い方」   |                                      | 講義                             |    |
|    | 3  | 自分の立ち位置を考える。敬語の学習①    |                                      | 講義                             |    |
|    | 4  | 自分の立ち位置を考える。敬語の学習①    |                                      | 講義                             |    |
|    | 5  | 人口問題。小論文「高齢化社会」漢字演習   |                                      | 講義                             |    |
|    | 6  | 現代に生きる四字熟語とことわざ。漢字演習  |                                      | 講義                             |    |
|    | 7  | 怪我を考える。小論文「痛みに耐える」    | 現代社会での現象について状況を分析し、自分の意見を持ち、それを表現する。 | 講義                             |    |
|    | 8  | 社会生活。小論文「受動喫煙」。漢字演習   |                                      | 講義                             |    |
|    | 9  | これからの未来。小論文「AI・自動運転」  |                                      | 講義                             |    |
|    | 10 | 現代社会を考える。小論文「マナーと規範」  |                                      | 講義                             |    |
|    | 11 | 手紙の学習。演習「未来の自分を設定する」  |                                      | 講義                             |    |
|    | 12 | 小論文「男女平等の考え方」。漢字演習    |                                      | 講義                             |    |
|    | 13 | 小論文「海外志向の動向と意見」。漢字演習  |                                      | 講義                             |    |
|    | 14 | 俳句川柳の鑑賞と創作。古典の学習。     |                                      | 現代社会を俳句・川柳で表現し、多様な考え方を共有し認め合う。 | 講義 |
|    | 15 | 創作川柳の講評・社会を見つめる態度を養う。 |                                      |                                | 講義 |

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 人体構造学 I

## 【基本情報】

|      |                |         |           |      |
|------|----------------|---------|-----------|------|
| 配当年次 | 1 学年           | 担当教員    | なかかわじ けんじ |      |
| 単位数  | 3 単位           |         | 中川路 健司    |      |
| 開講学期 | 1 学期・2 学期・3 学期 | 授業形態・回数 | 講義        | 36 回 |

## 【授業情報】

|               |  |
|---------------|--|
| 授業概要          | 解剖学を学ぶ意義を理解して、人体の部位に関する正しい用語が使用でき、各器官系における特徴・作用について理解する。また各器官系の関連性についても講義を通じて行っていく。<br>2 年次に行う臨床科目と結びつくように内臓器・泌尿器・生殖器の構造を主体に展開していく。                      |
| 授業の一般目標 (G10) | 解剖学総論では、解剖学への興味と学ぶべき必要性を述べることができる。<br>解剖学各論では内臓器系、泌尿器系、生殖器系の正常な構造を系統的に理解し、説明することができる。また、解剖学 I では正常な構造学が主体となるが、併せて各器官の機能 (生理学) も結びつけて理解し、特徴を簡潔に述べることができる。 |

## 【担当教員から】

|              |  |
|--------------|--|
| 教科書          | 「解剖学」 改訂第 2 版 (社) 全国柔整学校協会監修 (株) 医歯薬出版   |
| 参考書          | 人体系統解剖学 (南山堂) 吉川文雄著 スネル ー臨床解剖学ー  |
| 成績評価基準       | 定期試験: シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題 (レポート・小テスト等): レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。   |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準 (評価割合 (%))<br>期末 (到達目標達成確認) 試験成績 (年度末試験含む) ー ー ー 9 5 %<br>(課題等を行わなかった場合は 1 0 0 %)<br>課題等 ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー 5 % (課題等を行った場合の加算割合)  |
| 履修の条件<br>留意点 | 期末 (到達目標達成確認) 試験、課題の評価を合計して 6 0 % 以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門基礎分野・人体の構造と機能・人体構造学 I の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の 7 0 % 以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。           |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容 (担当者からのメッセージ)<br>授業では系統解剖学を主体に行い、同時に局所解剖学ならびに臨床解剖学的観点も加味して講義していきます。授業後は復習の習慣をつけることが大事であります。予習→授業→復習のサイクルを守るように。<br>・解剖学はもっとも基本となる科目であるため、授業の予習・復習をして授業に臨むなど、積極的な学習態度が望まれます。 |
| オフィスアワー      | 授業開講日の 9 : 1 5 ~ 1 2 : 4 0 3F 職員室  |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容                  | 到達目標 (SBOs)  | 講義形態 |
|----|----|-----------------------|--|------|
| 1期 | 1  | 解剖学の歴史と意義             |  | 講義   |
|    | 2  | 人体の構成                 | 1 人体の部位に関する正しい用語が使用できる。  | 講義   |
|    | 3  | 人体の外形と部位、人体内部の区分と用語   |  | 講義   |
|    | 4  | 細胞の基本構造と分化            | 1 細胞小器官（ミトンドリア、小胞体、ゴルジ装置など）の名前、働きを説明することができる。  | 講義   |
|    | 5  | 細胞と組織                 |  | 講義   |
|    | 6  | 組織の種類と発生              | 1 細胞、組織、器官、器官系の関係を分類できる。   | 講義   |
|    | 7  | 組織と器官                 |  | 講義   |
|    | 8  | 器官と器官系                |  | 講義   |
|    | 9  | 内臓系総論                 | 1 内臓器系を構成する臓器の名称を挙げ説明できる。  | 講義   |
|    | 10 | 消化器系総論                |  | 講義   |
|    | 11 | 口腔・咽頭の構造              |  | 講義   |
|    |    | 12                    | 1期期末(到達目標達成確認)試験   |      |
| 2期 | 13 | 1期期末試験の解説・解答 口腔、咽頭の構造 | 1 口腔・咽頭の形態を描ける。  | 講義   |
|    | 14 | 食道の形態、構造              | 1 消化器系臓器の名称を挙げ機能を説明できる。<br>2 各臓器の解剖学的な位置を示せる。<br>3 消化器系の構成臓器の位置関係を説明し、連続的なつながりが図示できる。<br>4 各臓器の構造が説明できる。<br>5 各臓器の消化管壁の構造が説明できる。<br>6 消化管壁の構造と機能の関係が説明できる。<br>7 肝、脾など実質臓器の内景の特徴を挙げ説明できる。<br>8 肝臓の機能の概略が説明できる。<br>9 脾臓の機能の概略が説明できる。 | 講義   |
|    | 15 | 胃の形態、構造               |  | 講義   |
|    | 16 | 十二指腸、空腸、回腸の形態、構造      |  | 講義   |
|    | 17 | 十二指腸、空腸、回腸の形態、構造      |  | 講義   |
|    | 18 | 大腸、肛門の形態、構造           |  | 講義   |
|    | 19 | 大腸、肛門の形態、構造           |  | 講義   |
|    | 20 | 肝臓と胆嚢の位置、外景と内景、腸管との連絡 |  | 講義   |
|    | 21 | 肝臓と胆嚢の位置、外景と内景、腸管との連絡 |  | 講義   |
|    | 22 | 脾臓の位置、外景と内景、腹膜との関係    |  | 講義   |
|    | 23 | 脾臓の位置、外景と内景、腹膜との関係    | 講義   |      |
|    |    | 24                    | 2期期末(到達目標達成確認)試験   |      |
| 3期 | 25 | 2期期末試験の解説・解答 呼吸器系総論   | 1 呼吸器系臓器の名称と機能の概略、解剖学的な位置が説明できる。<br>2 呼吸器系の構成臓器の位置関係が説明できる。  | 講義   |
|    | 26 | 鼻腔・喉頭・気管              |  | 講義   |
|    | 27 | 気管支・肺・胸膜・縦隔           | 1 泌尿器の構成臓器の種類を挙げられる。<br>2 泌尿器系各臓器の位置、形態を説明し図示できる。<br>3 泌尿器系各臓器の機能の概略が説明できる。<br>4 生殖器の構成臓器が挙げられる。<br>5 生殖器系各臓器の位置、形態を説明、図示できる。<br>6 生殖器系各臓器の機能の概略が説明できる。  | 講義   |
|    | 28 | 泌尿器・生殖器総論             |  | 講義   |
|    | 29 | 腎臓の位置、外景、内景           |  | 講義   |
|    | 30 | 腎実質の微細構造              |  | 講義   |
|    | 31 | 尿管の構成と構造              |  | 講義   |
|    | 32 | 膀胱・尿道の構成と構造           |  | 講義   |
|    | 33 | 男性の生殖器の構成と構造、内生殖器     | 講義   |      |
|    | 34 | 女性の生殖器の構成と構造、内生殖器     | 講義   |      |
|    |    | 35                    | 3期期末(到達目標達成確認)試験   |      |
|    | 36 | 3期期末試験の解説・解答 まとめ      |  | 講義   |
|    | 37 | 年度末試験                 |  | 試験   |

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 人体機能学 I

## 【基本情報】

|      |                |         |          |      |
|------|----------------|---------|----------|------|
| 配当年次 | 1 学年           | 担当教員    | はしぐち としお |      |
| 単位数  | 3 単位           |         | 橋口 利雄    |      |
| 開講学期 | 1 学期・2 学期・3 学期 | 授業形態・回数 | 講義       | 36 回 |

## 【授業情報】

|               |   |
|---------------|---|
| 授業概要          | 生理学の学ぶ意味から始まり、細胞内小器官の名称と機能、血液の役割と各血液成分の機能・血液凝固の機序、血液型、心臓と血管の構造と機能および循環調節の仕組み、呼吸器系の構造、機能および換気の仕組みとその調節、消化器系を構成している各部位の構造と機能および吸収の仕組み、代謝の仕組みと体温の産生とその調節、腎臓の役割および尿生成と排泄の仕組み、各種ホルモンの作用と分泌調節の仕組みを挙げ、人体においてどのように機能しているかを講義する。 |
| 授業の一般目標 (G10) | 個体を構成する細胞の仕組みと機能を理解し、各臓器・器官・器官系の全体としての人体における役割と調節機序を理解していく。   |

## 【担当教員から】

|              |  |
|--------------|--|
| 教科書          | 「生理学」 改訂第3版(社)全国柔整学校協会監修 南江堂   |
| 参考書          | ガイトン生理学 原著第13版 (エルゼビアジャパン)   |
| 成績評価基準       | 定期試験: シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題(レポート・小テスト等): レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。  |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準 (評価割合(%))<br>期末(到達目標達成確認) 試験成績(年度末試験含む) ——— 95%<br>(課題等を行わなかった場合は100%)<br>課題等 ————— 5% (課題等を行った場合の加算割合)  |
| 履修の条件<br>留意点 | 期末(到達目標達成確認) 試験、課題の評価を合計して60%以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門基礎分野・人体の構造と機能・人体機能学 I の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。        |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容 (担当者からのメッセージ)<br>・ 予習→復習→復習のサイクルを守るように。<br>・ 授業では、板書をノートに写すだけでなく話をよく聞き書きとどめる。<br>・ 外傷や疾患を知る上で必要となる科目であるので、予習・復習をして授業に臨んだり、理解の浅い項目に対して担当者に質問するなど、積極的な学習姿勢が望まれます。 |
| オフィスアワー      | 授業開講日の9:15~12:40 3F職員室   |



【授業計画】

| 学期 | 回数               | 講義内容                 | 到達目標 (SBOs)                          | 講義形態 |
|----|------------------|----------------------|--------------------------------------|------|
| 1期 | 1                | 生理学の意義               | 1 各細胞内小器官の機能が説明できる。                  | 講義   |
|    | 2                | 細胞・生体の物理化学的基礎        | 2 細胞膜を通しての物質の移動原理の種類とその仕組みが説明できる。    | 講義   |
|    | 3                | 体液の区分を水のバランス         | 1 体液の区分、イオン組成、ホメオスタシスを維持する仕組みを説明できる。 | 講義   |
|    | 4                | 体液ナトリウムイオン量の調節と体液量   | 2 体内のナトリウムイオンが身体に与える影響、調節機構が説明できる。   | 講義   |
|    | 5                | 体液酸塩基平衡の調節           | 3 体内の水素イオンとPHとの関係が説明できる。             | 講義   |
|    | 6                | 体液の調節                | 4 アンダーシスとアルカローシスを説明できる。              | 講義   |
|    | 7                | 血液の組成 赤血球 白血球 血小板 血漿 | 1 血液の役割が説明できる。                       | 講義   |
|    | 8                | 血液凝固 血液型 リンパ         | 2 赤血球・白血球・血小板・血漿の機能と特徴が説明できる。        | 講義   |
|    | 9                | 循環の一般                | 3 血液型と凝集原、凝集素の関係ならびに凝集反応の機序が説明できる。   | 講義   |
|    | 10               | 心臓の構造                | 1 大循環、小循環の構成を説明できる。                  | 講義   |
|    | 11               | 心臓の機能・調節             | 2 心臓の構造と機能が説明できる。                    | 講義   |
|    | 12               | 1期期末(到達目標達成確認)試験     |                                      | 試験   |
| 2期 | 13               | 1期試験の解説・解答           |                                      | 講義   |
|    | 14               | 血管系の構造と機能            |                                      | 講義   |
|    | 15               | 循環の調節                | 1 心電図の波形の意味が説明できる。                   | 講義   |
|    | 16               | リンパ循環                | 2 各血管の構造と機能が説明できる。                   | 講義   |
|    | 17               | 呼吸器系の構造と機能           | 3 血圧の仕組みと測定法が説明できる。                  | 講義   |
|    | 18               | 呼吸運動 換気量             |                                      | 講義   |
|    | 19               | ガス交換とガス運搬            | 1 呼吸器の構造と機能を説明できる。                   | 講義   |
|    | 20               | 循環と呼吸運動の調節 呼吸の異常     | 2 換気の仕組みを説明できる。                      | 講義   |
|    | 21               | 消化器系の構造と機能           | 3 ガス交換の仕組みを説明できる。                    | 講義   |
|    | 22               | 口腔内の消化               | 4 呼吸運動の神経性調節を説明できる。                  | 講義   |
|    | 23               | 胃内・小腸内の消化            |                                      | 講義   |
|    | 24               | 2期期末(到達目標達成確認)試験     |                                      | 試験   |
| 3期 | 25               | 2期期末試験の解説・解答         |                                      | 講義   |
|    | 26               | 大腸内の消化、排便            |                                      | 講義   |
|    | 27               | 腸管吸収の機序              | 1 大腸の消化の特徴を説明できる。                    | 講義   |
|    | 28               | 各種栄養素の吸収             | 2 栄養素の消化と吸収の仕組みについて説明できる。            | 講義   |
|    | 29               | 消化管ホルモン              | 3 消化管ホルモンの種類とその働きについて説明できる。          | 講義   |
|    | 30               | 肝臓の機能                | 4 肝臓の働きを上げ、説明ができる。                   | 講義   |
|    | 31               | 中間代謝                 | 1 代謝について分類し説明ができる。                   | 講義   |
|    | 32               | エネルギー代謝              | 2 ATP・中間代謝・エネルギー代謝の説明ができる。           | 講義   |
|    | 33               | 体温の調節 発熱             |                                      | 講義   |
|    | 34               | 体温の調節 発熱             | 1 体熱の産生、放熱の仕組みが説明できる。                | 講義   |
|    | 35               | 3期期末(到達目標達成確認)試験     |                                      | 試験   |
| 36 | 3期期末試験の解説・解答 まとめ |                      | 講義                                   |      |
| 37 | 年度末試験            |                      | 試験                                   |      |

## 【科目】 健康の意義

## 【基本情報】

|      |                |         |          |      |
|------|----------------|---------|----------|------|
| 配当年次 | 1 学年           | 担当教員    | はやし たかむね |      |
| 単位数  | 3 単位           |         | 林 孝宗     |      |
| 開講学期 | 1 学期・2 学期・3 学期 | 授業形態・回数 | 講義       | 36 回 |

## 【授業情報】

|               |   |
|---------------|---|
| 授業概要          | 衛生統計、疫学、健康の概念、疾病の予防と健康管理、感染症と消毒、環境衛生、労働衛生等の事項を資料に基づいて学習する。<br>母子・学校保健、成人・老人保健、精神衛生、生活環境・食品衛生活動、保健医療制度等の事項を概括的に学ぶ。 |
| 授業の一般目標 (G10) | 柔道整復師として、日常業務を安全かつ衛生的に遂行する上での規準・規定を理解する。日常生活で健康を維持、増進するために意義のある事項を知る。   |

## 【担当教員から】

|              |  |
|--------------|--|
| 教科書          | 衛生学・公衆衛生学  |
| 参考書          | 国民衛生の動向（厚生統計協会）  |
| 成績評価基準       | 定期試験：シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題（レポート・小テスト等）：レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。  |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準（評価割合（%））<br>期末（到達目標達成確認）試験成績（年度末試験含む）――― 95%<br>（課題等を行わなかった場合は 100%）<br>課題等――― 5%（課題等を行った場合の加算割合）  |
| 履修の条件<br>留意点 | 期末（到達目標達成確認）試験、課題の評価を合計して 60%以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門基礎分野・保健医療福祉と柔道整復の理念・健康の意義の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為に、授業の 70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。         |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）<br>○授業中はノートをとるだけでなく、内容をよく理解しながら聞くこと。<br>○分からないことがあったときは、すぐに解決するようにする。<br>予習、復習は欠かさないこと。協力は惜しみません。<br>○病理学、一般臨床医学、外科学の科目と密接に関わってくるため、総合的に学習していくことが望ましい。 |
| オフィスアワー      | 授業開講日の 9：15～12：40 3F職員室  |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容                | 到達目標 (SBOs)                              | 講義形態 |    |
|----|----|---------------------|--|------|----|
| 1期 | 1  | 衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動 | 1 WHOの健康の定義・国際障害分類を挙げ、意味合いを説明できる。        | 講義   |    |
|    | 2  | 健康の概念・健康指標          | 2 衛生統計の種類を挙げ、意味合いを説明できる。                 | 講義   |    |
|    | 3  | 慢性疾患と生活             | 3 衛生統計による現在の傾向が判り、意味付けができる。              | 講義   |    |
|    | 4  | 静態統計 動態統計           |  | 講義   |    |
|    | 5  | 疾病の自然史と予防段階         | 1 疾病自然史に対応する予防のステージを挙げられる。               | 講義   |    |
|    | 6  | 健康維持上の生活習慣          | 2 生活習慣病を説明・要因を挙げられる。                     | 講義   |    |
|    | 7  | 健康管理の活動と構成          | 3 健康管理の意味合いが解る。<br>4 集団検診の概要が説明できる。      | 講義   |    |
|    | 8  | 感染症の概要              | 1 感染症とはどのようなものが説明できる。                    | 講義   |    |
|    | 9  | 感染源・感染経路 感染症の予防対策   | 2 感染症成立の条件や予防対策の原則が例を挙げて説明できる。           | 講義   |    |
|    | 10 | 消毒の概要               | 1 消毒法の意義と基本的知識を理解する。                     | 講義   |    |
|    | 11 | 理学的消毒法・化学的消毒法       | 2 消毒対象物別に適した消毒法を理解する。                    | 講義   |    |
|    |    | 12                  | 1期期末(到達目標達成確認)試験                         |      | 試験 |
| 2期 | 13 | 試験解説 環境とは 環境問題      | 1 環境問題や人体に影響を及ぼす因子を説明できる。                | 講義   |    |
|    | 14 | 物理的環境要因 化学的環境要因     | 2 公害の定義を挙げ、関係法規が説明できる。                   | 講義   |    |
|    | 15 | 空気・水・土壌などの衛生        | 3 地球環境維持のための行政の取り組みが説明できる。               | 講義   |    |
|    | 16 | 公害 環境政策             |  | 講義   |    |
|    | 17 | 母子保健の現状             | 1 母子保健の主要統計の意味と傾向が説明できる。                 | 講義   |    |
|    | 18 | 母子保健対策              | 2 母子保健の行政システムとその対応が説明できる。                | 講義   |    |
|    | 19 | 学校保健                | 1 学校保健・産業保健の組織、運営の形、取り組み内容を説明できる。        | 講義   |    |
|    | 20 | 産業保険の現状と対策          | 2 学校保健・産業保健の主要統計について説明できる。               | 講義   |    |
|    | 21 | 成人保健の現状と対策          | 1 各保健の主要統計の意味と傾向が説明できる。                  | 講義   |    |
|    | 22 | 老人保健                | 2 各保健の行政の取組が説明できる。                       | 講義   |    |
|    | 23 | 精神保健の現状 対策          | 1 精神保健の定義と経緯が説明できる。<br>2 精神保健の主要統計のわかる。  | 講義   |    |
|    |    | 24                  | 2期期末(到達目標達成確認)試験                         |      | 試験 |
| 3期 | 25 | 試験解説 水・衣服・住居        | 1 上・下水道、衣服や住居の適環境への関与が説明できる。             | 講義   |    |
|    | 26 | 食品・栄養               | 2 食品が疾病をもたらす要素、また健康増進をもたらす要素を理解する。       | 講義   |    |
|    | 27 | 地域保健・地域社会のとらえ方      | 1 プライマリーヘルスケアの説明ができる。                    | 講義   |    |
|    | 28 | 地域保健活動の特徴と現状        | 2 地域保健活動の特徴を説明できる。                       | 講義   |    |
|    | 29 | WHOの活動              | 3 WHOの活動を説明できる。                          | 講義   |    |
|    | 30 | 衛生行政機構 衛生行政の現状      | 1 衛生行政に関する憲法を理解する。<br>2 衛生行政組織の概略を知っている。 | 講義   |    |
|    | 31 | 医療保険制度              | 3 医療保険制度・介護保健制度の意味合いを理解する。               | 講義   |    |
|    | 32 | 国民医療費               | 4 国民医療費の内訳と、問題点が挙げられる。                   | 講義   |    |
|    | 33 | 健康づくり政策             | 5 健康づくり政策の概要を挙げられる。                      | 講義   |    |
|    | 34 | 疫学の意義 疫学調査          | 1 疫学の意義、調査の必要性、方法、特徴の説明やその結果を説明できる。      | 講義   |    |
|    |    | 35                  | 3期期末(到達目標達成確認)試験                         |      | 試験 |
|    |    | 36                  | 3期期末試験の解説・解答 まとめ                         |      | 講義 |
|    | 37 | 年度末試験               |  | 試験   |    |

## 【科目】 柔道 I

## 【基本情報】

|      |       |         |               |      |
|------|-------|---------|---------------|------|
| 配当年次 | 1 学年  | 担当教員    | さくらい たろう      |      |
| 単位数  | 2 単位  |         | 櫻井 太郎 (実務経験有) |      |
| 開講学期 | 前期・後期 | 授業形態・回数 | 実習            | 32 回 |

## 【授業情報】

|               |  |
|---------------|--|
| 授業概要          | 接骨院と柔道場を経営しており、その経験を活かして、主に柔道について教授する。学生はこの授業を通じて、柔道の歴史、礼法、受け身、投げ技、固め技、形などを修得する。<br>①礼法：目的・立礼・坐礼を実技指導する。②受け身：目的・基本の受け身・後受け身・横受け身・前回受け身の実技指導および投げ技に対する受け身 ③投げ技：組み方・姿勢・吊り手・引き手・足の運び・膝の使い方について基本の技を中心に実技指導 ④固め技：基本の技 ⑤形：技の成り立ち・形の流れ・諸動作について実技指導をする。 |
| 授業の一般目標 (G10) | 柔道の基本的動作を体得する。<br>柔道を通して精神・身体の修養と鍛錬、世に補益することを目標とする。  |

## 【担当教員から】

|              |   |
|--------------|---|
| 教科書          |   |
| 参考書          | 柔道入門 (山本秀雄著)・寝技で勝つ柔道 (柏崎克彦著)・投の形 (講道館) DVD  |
| 成績評価基準       | 期末試験：シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>観察記録：技能・態度・習慣を観察して適宜記録し判定資料とする。   |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準 (評価割合 (%))<br>期末 (到達目標達成確認) 試験成績----- 95 %<br>観察記録----- 5 %   |
| 履修の条件<br>留意点 | 期末 (到達目標達成確認) 試験、観察記録の評価を合計して60%以上で履修とする。<br>この科目は専門基礎分野・保健医療福祉と柔道整復の理念・柔道 I の単位として認定されます。【認定実技試験対象科目】なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかりと行い、授業の出欠には充分注意してください。  |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容 (担当者からのメッセージ)<br>・柔道整復を学ぶ上での基礎となる科目です。ケガをしないようよく準備運動を行い、身体を暖めてから実技にはいるようにすること。<br>・分からないことがあったときは、すぐに解決するようにする。協力は惜しみません。<br>・柔道整復師にとってこの科目ができないことはあってはならないことです。自分自身のために授業の予習・復習をして授業に臨むなど、積極的な学習姿勢が望まれます。 |
| オフィスアワー      | 授業開講日の 11:10~21:10 (3階教員室もしくは5階柔道場)   |



【授業計画】

| 学期 | 回数                | 講義内容                     | 到達目標(SBOs)   | 講義形態                             |
|----|-------------------|--------------------------|--|----------------------------------|
| 前期 | 1                 | 柔道の意義 服装 道場とは            | 1 柔道の意義・道場の規定、柔道衣を正しく着用できる。  | 実技                               |
|    | 2                 | 礼法(座礼 立礼)                | 1 礼法の意義と目的が説明できる。<br>2 各場面に応じて正しく行える。  | 実技                               |
|    |                   | スタビライゼーション・ドローabilityの概説 | スタビライゼーション・ドローabilityの概要を説明できる。  | 企業連携                             |
|    | 3                 | 後受け身 横受け身 前受け身           | 1 受け身の目的が説明できる。<br>2 各種基本の受け身が正しくできる。  | 実技                               |
|    | 4                 | 前回り受け身 各受け身の復習           | 3 各受け身の動作が正しく、自然な動作としてできる。   | 実技                               |
|    | 5                 | 自然本体 右・左自然体              | 1 自然本体・左右自然体がとれる。<br>2 正しい体裁きと体移動ができる。   | 実技                               |
|    | 6                 | 身体移動(足の運び)               | 1 つぎ足が正しくできる。  | 実技                               |
|    | 7                 | 組み手                      | 1 基本的な組み手が説明できる。<br>2 正しく組み合うことができる。   | 実技                               |
|    | 8                 | 投げ技に対する受け身(手技に対し)        | 1 受け身の安全性が説明できる。<br>2 各投げ技に対して受け身がとれる。<br>3 連続した投げ技に対して自然に受け身がとれる。                               | 実技                               |
|    | 9                 | 投げ技に対する受け身(足技に対し)        |  | 実技                               |
|    | 10                | 投げ技に対する受け身の復習            |  | 実技                               |
|    | 11                | 引き手 釣り手 足の位置             | 1 引き手、釣り手の意義を理解し、正しい位置で組める。  | 実技                               |
|    | 12                | 間合い 崩しと作り・掛け             | 2 正しい間合いがとれる。  | 実技                               |
|    | 13                | 足の運び方 バランス               | 3 正しい崩しと掛けができる。<br>4 正しい足の運びができる。  | 実技                               |
|    | 14                | 投げ技 手技(背負投・体落)           | 1 各技の崩しと造りができる。<br>2 手技(背負投・体落)・腰技(大腰・釣込腰)・足技(送足払・支釣込足)が正しい形で入れる。                                | 実技                               |
|    | 15                | 腰技(大腰・釣込腰) 足技(送足払・支釣込足)  |  | 実技                               |
| 16 | 前期実技(到達目標達成確認) 試験 |                          | 試験   |                                  |
| 後期 | 17                | 打ち込み 投げ込み                | 1 安全に投げ技を行うことができる。   | 実技                               |
|    | 18                | 抑え技(袈裟固・肩固)              | 1 抑え技の説明できる。<br>2 抑え技(袈裟固・肩固・上四方固・横四方固)が正しくできる。  | 実技                               |
|    | 19                | 抑え技(上四方固・横四方固)           |  | 実技                               |
|    | 20                | 投の形・手技(浮落)               | 1 投の形(手技)を挙げ説明できる。<br>2 投の形(腰技)を挙げ説明できる。<br>3 投の形(足技)を挙げ説明できる。<br>4 全ての形で正しい間合い・礼法ができる。          | 実技                               |
|    | 21                | 投の形・手技(背負投)              |  | 実技                               |
|    | 22                | 投の形・手技(肩車)               |  | 実技                               |
|    | 23                | 投の形・腰技(浮腰・払腰・釣込腰)        |  | 実技                               |
|    | 24                | 投の形・足技(送足払・支釣込足・内股)      |  | 実技                               |
|    | 25                | 絞め技・活法                   |  | 1 絞め技の種類と約束事を理解する。<br>2 活法を理解する。 |
|    | 26                | 裸絞 送衿絞 片羽絞(攻め方 逃れ方)      | 1 各絞め技の攻め方・逃れ方ができる。  | 実技                               |
|    | 27                | 並十字絞 片十字絞 逆十字絞(攻め方 逃れ方)  |  | 実技                               |
|    | 28                | 投げ技(崩しと造り 投げと受け身)        | 1 正しく投げ、正しく受身がとれる。<br>2 各種の技を使い乱取りができる。<br>3 柔道競技のルールを説明できる。<br>4 反則技を説明できる。<br>5 ルールを理解し競技ができる。 | 実技                               |
|    | 29                | 背負投(打込 乱取)               |  | 実技                               |
|    | 30                | 体落(打込 乱取) 大外刈(打込 乱取)     |  | 実技                               |
|    | 31                | 腰技(打込 乱取) 捨身技(打込 乱取)     |  | 実技                               |
|    | 32                | 後期実技(到達目標達成確認) 試験        |  | 試験                               |

【分野】 専門分野 基礎柔道整復学

【科目】 運動器学

## 【基本情報】

|      |                |         |               |      |
|------|----------------|---------|---------------|------|
| 配当年次 | 1 学年           | 担当教員    | ほんだ しゅうじ      |      |
| 単位数  | 3 単位           |         | 本多 修二 (実務経験有) |      |
| 開講学期 | 1 学期・2 学期・3 学期 | 授業形態・回数 | 講義            | 36 回 |

## 【授業情報】

|               |   |
|---------------|---|
| 授業概要          | 接骨院勤務の経験を活かし、主に柔道整復に根本となる運動器について教授する。運動器の異常である骨折、脱臼、捻挫などの外傷をみる柔道整復師にとって、運動器の正常な構造の熟知は必須である。学生はこの授業を通じて、柔道整復に特に必要な人体の器官となる運動器（骨、関節、筋、末梢神経）系を主体に基礎的知識を修得する。 |
| 授業の一般目標 (G10) | 柔道整復に必要な四肢の骨、関節、筋の構造を理解し、各々の関節の運動と、その運動に関与する筋が解る。また四肢を支配する末梢神経の支配領域が説明でき、正常の機能を失った場合、どのような症状が出るか考えられる。  |

## 【担当教員から】

|              |   |
|--------------|---|
| 教科書          | 柔道整復学を学ぶための運動器基礎知識 (学校法人 呉竹学園)  |
| 参考書          | カパンディ関節の生理学・機能解剖学 (医歯薬出版)   |
| 成績評価基準       | 定期試験：シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題(レポート・小テスト等)：レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。   |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準 (評価割合(%))<br>期末(到達目標達成確認)試験成績(年度末試験含む) --- 95%<br>(課題等を行わなかった場合は100%)<br>課題等----- 5% (課題等を行った場合の加算割合)   |
| 履修の条件<br>留意点 | 期末(到達目標達成確認)試験、課題の評価を合計して60%以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門分野・基礎柔道整復学・運動器学の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為に、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。  |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ)<br>・人体の正常な構造と機能を学習し、柔道整復学がより理解しやすいように行われる科目です。予習、復習は欠かさないこと。<br>・授業中はノートをとるだけでなく、内容をよく理解しながら聞くこと。<br>・分からないことがあったときは、すぐに解決するようにする。<br>協力は惜しみません。<br>・運動器学は2、3年次に必要な知識の基となる科目です。<br>自分自身のために授業の予習・復習をして授業に臨むなど、積極的な学習姿勢が望まれます。 |
| オフィスアワー      |   |



【授業計画】

| 学期 | 回数               | 講義内容                     | 到達目標 (SBOs)   | 講義形態 |
|----|------------------|--------------------------|---|------|
| 1期 | 1                | 科目の概要・人体の構成（細胞）          | 1 細胞と組織の関係が説明できる。   | 講義   |
|    | 2                | 人体の構成（組織・器官・器官系）         | 2 各組織を挙げ、特徴を挙げられる。<br>3 器官・器官系の機能を説明できる。  | 講義   |
|    | 3                | 骨の役割、骨の形状分類、骨の構造         | 1 骨の構造・役割が説明できる。  | 講義   |
|    | 4                | 骨の発生と成長                  | 2 骨の発生と成長の概要が説明できる。   | 講義   |
|    | 5                | 肩甲骨 鎖骨 上腕骨               | 1 上肢・下肢・頭蓋・体幹の骨を挙げられる。<br>2 骨格模型で上肢・下肢・頭蓋・体幹の骨の局所の名称が言える。<br>3 上肢・下肢・頭蓋・体幹の骨の形態的特徴が説明できる。<br>4 上肢・下肢・頭蓋・体幹の骨の役割が説明できる。          | 講義   |
|    | 6                | 前腕骨 手の骨                  |   | 講義   |
|    | 7                | 寛骨 大腿骨 膝蓋骨               |   | 講義   |
|    | 8                | 下腿骨 足の骨                  |   | 講義   |
|    | 9                | 頭蓋 顔面の骨                  |   | 講義   |
|    | 10               | 体幹の骨                     |   | 講義   |
|    | 11               | 骨の連結の種類と構造               | 1 骨連結を種類別に構造の説明ができる。  | 講義   |
|    | 12               | 1期期末(到達目標達成確認)試験         |   | 試験   |
| 2期 | 13               | 1期試験の解説・解答 胸鎖関節 肩鎖関節 肩関節 | 1 骨格模型で各関節を示せる。<br>2 各関節を構成する骨が言える。<br>3 各関節の構造の概略が説明できる。<br>4 各関節の機能的特徴が説明できる。<br>5 各関節の運動が説明できる。                              | 講義   |
|    | 14               | 肘関節 遠位橈尺関節 手の関節          |   | 講義   |
|    | 15               | 骨盤周囲の骨の連結 股関節            |   | 講義   |
|    | 16               | 膝関節 足部の関節                |   | 講義   |
|    | 17               | 頭蓋・顔面・体幹の骨連結             |   | 講義   |
|    | 18               | 筋組織の分類、筋の役割              | 1 筋の構造・性質による分類ができる。<br>2 筋・腱の種類及び構造が説明できる。<br>3 骨格筋の構造的な特徴が説明できる。   | 講義   |
|    | 19               | 骨格筋の構造、骨格筋の役割            | 1 各筋を部位別に挙げられる。<br>2 各筋の付着部・走行を示せる。<br>3 各筋の関節運動を説明できる。<br>4 関節運動の主動作筋を示せる。<br>5 各筋の支配神経を示せる。                                   | 講義   |
|    | 20               | 浅胸筋 浅背筋                  |   | 講義   |
|    | 21               | 上肢帯の筋 上腕の筋               |   | 講義   |
|    | 22               | 前腕の筋                     |   | 講義   |
|    | 23               | 手の筋                      |   | 講義   |
|    | 24               | 2期期末(到達目標達成確認)試験         |   | 試験   |
| 3期 | 25               | 2期期末試験の解説・解答 下肢帯筋        | 1 各筋を部位別に挙げられる。<br>2 各筋の付着部・走行を示せる。<br>3 各筋の関節運動を説明できる。<br>4 関節運動の主動作筋を示せる。<br>5 各筋の支配神経を示せる。                                   | 講義   |
|    | 26               | 大腿の筋 下腿の筋                |   | 講義   |
|    | 27               | 足の筋                      |   | 講義   |
|    | 28               | 頭蓋・顔面における筋               |   | 講義   |
|    | 29               | 体幹における筋                  |   | 講義   |
|    | 30               | 神経総論 末梢神経総論              | 1 中枢・末梢神経の構造的・機能的差異を説明できる。<br>2 中枢・末梢神経の役割が説明できる。<br>3 身体運動における神経の役割が説明できる。<br>4 神経叢と関連する末梢神経を言える。<br>5 四肢に分布する重要な神経の名称・走行を示せる。 | 講義   |
|    | 31               | 四肢に分布する神経                |   | 講義   |
|    | 32               | 頸神経叢                     |   | 講義   |
|    | 33               | 腕神経叢                     |   | 講義   |
|    | 34               | 腰神経叢 仙骨神経叢               |   | 講義   |
|    | 35               | 3期期末(到達目標達成確認)試験         |   | 試験   |
| 36 | 3期期末試験の解説・解答 まとめ |                          | 講義  |      |
| 37 | 年度末試験            |                          | 試験  |      |

【分野】 専門分野 基礎柔道整復学

【科目】 骨損傷学基礎

## 【基本情報】

|      |                |         |               |      |
|------|----------------|---------|---------------|------|
| 配当年次 | 1 学年           | 担当教員    | くどう だいすけ      |      |
| 単位数  | 3 単位           |         | 工藤 大介 (実務経験有) |      |
| 開講学期 | 1 学期・2 学期・3 学期 | 授業形態・回数 | 講義            | 36 回 |

## 【授業情報】

|               |  |
|---------------|--|
| 授業概要          | 接骨院勤務の経験を活かし、主に柔道整復の総論について教授する。学生はこの授業を通じて、骨の構造・機能、骨折の意義・分類・症状など骨折診断の基礎項目を知り、骨折整復・固定・後療など骨折治療の一般原則の講義、個別、骨折治療への基礎を修得する。また、骨折に起こりうる合併症・治療の原則、異常経過発生防止、後療の重要性、後療を進める上での注意事項、後療法で併用される理学療法・運動療法の重要性についても修得する。 |
| 授業の一般目標 (G10) | 骨の構造と機能を理解し、構造上の弱点と損傷の関係を系統的に考察できる。<br>また、骨折の発生機序と損傷形態との関係を解析し、骨折の治癒過程および治癒に対する影響因子との関係を示すことができる。  |

## 【担当教員から】

|              |  |
|--------------|--|
| 教科書          | 柔道整復学 (理論編・実技編) (全国柔整学校協会監修 南江堂)   |
| 参考書          | 神中整形外科学 (南山堂)、一人で学べる柔整理論 (呉竹学園編)   |
| 成績評価基準       | 定期試験: シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題 (レポート・小テスト等): レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。   |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準 (評価割合 (%))<br>期末 (到達目標達成確認) 試験成績 (年度末試験含む) --- 95 %<br>(課題等を行わなかった場合は 100 %)<br>課題等 ----- 5 % (課題等を行った場合の加算割合)   |
| 履修の条件<br>留意点 | 期末 (到達目標達成確認) 試験、課題の評価を合計して 60 % 以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門分野・基礎柔道整復学・骨損傷学基礎の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為に、授業の 70 % 以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。 |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容 (担当者からのメッセージ)<br>・柔道整復学の総論となる科目です。授業の予習、復習を欠かさないこと。<br>・授業中はノートをとるだけでなく、内容をよく理解しながら聞くこと。<br>・分からないことがあったときは、すぐに解決するようにする。協力は惜しみません。                       |
| オフィスアワー      |  |



【授業計画】

| 学期 | 回数               | 講義内容                             | 到達目標 (SBOs)   | 講義形態           |
|----|------------------|----------------------------------|---|----------------|
| 1期 | 1                | 柔道整復の定義                          | 1 柔道整復の定義を想起し説明できる。   | 講義             |
|    | 2                | 骨の構造と機能                          | 1 骨の形状に従って分類できる。<br>2 骨の構造の概略が説明できる。<br>3 骨の機能が説明できる。   | 講義             |
|    | 3                | 骨の構造と機能                          |   | 講義             |
|    | 4                | 骨折の定義                            |   | 1 骨折の定義を説明できる。 |
|    | 5                | 骨折の性状による分類                       | 1 骨折の分類と治療法との関係の概要が説明できる。<br>2 発生機序による分類と他分類との関連が説明できる。<br>3 不全骨折の種類を挙げ説明できる。<br>4 外力の働き方による分類と骨折線との関連性を説明できる。<br>5 部位による分類及び代表的冠名骨折を挙げられる。                                 | 講義             |
|    | 6                | 骨折の性状による分類                       |   | 講義             |
|    | 7                | 骨折の程度・骨折線の方法による分類                |   | 講義             |
|    | 8                | 骨折数・軟部組織損傷の有無による分類               |   | 講義             |
|    | 9                | 外力の働いた部位・働き方による分類                |   | 講義             |
|    | 10               | 外力の働き方による分類                      |   | 講義             |
|    | 11               | 骨折の部位・経過による分類                    |   | 講義             |
|    | 12               | 1期期末(到達目標達成確認)試験                 |   | 試験             |
| 2期 | 13               | 1期試験の解説・解答 骨片転位                  | 1 骨折の骨片転位について説明できる。<br>2 炎症の5大徴候を挙げ説明できる。<br>3 骨折の一般症状・固有症状・全身症状を挙げ、診断上の意義とその特徴を説明できる。  | 講義             |
|    | 14               | 骨折の一般症状                          |   | 講義             |
|    | 15               | 骨折の固有症状                          |   | 講義             |
|    | 16               | 骨折の全身症状                          |   | 講義             |
|    | 17               | 併発症(関節・軟部組織・内臓損傷)                | 1 骨折の併発症を挙げ説明できる。<br>2 各併発症と骨折の関連を説明できる。<br>3 併発症の確認と根拠が説明できる。<br>4 骨折続発症を挙げ説明できる。<br>5 各続発症と治療法を説明できる。<br>6 続発症の確認と根拠が説明できる。<br>7 続発症発生予防の概要が説明できる。<br>8 併発症と続発症の関連を説明できる。 | 講義             |
|    | 18               | 併発症(血管・脳・脊髄・末梢神経損傷)              |   | 講義             |
|    | 19               | 続発症(外傷性皮下気腫・脂肪塞栓・仮骨の軟化・再骨折)      |   | 講義             |
|    | 20               | 続発症(遷延治癒・コンパートメント症候群・長期臥床による続発症) |   | 講義             |
|    | 21               | 後遺症(過剰仮骨形成・偽関節)                  | 1 骨折の後遺症を挙げ説明できる。<br>2 各後遺症と骨折の関連を説明できる。<br>3 後遺症の確認と根拠が説明できる。<br>4 後遺症発生予防の概要が説明できる。   | 講義             |
|    | 22               | 後遺症(偽関節)                         |   | 講義             |
|    | 23               | 後遺症(偽関節)                         |   | 講義             |
|    | 24               | 2期期末(到達目標達成確認)試験                 |   | 試験             |
| 3期 | 25               | 2期期末試験の解説・解答 後遺症(阻血性骨壊死)         | 1 骨折の後遺症を挙げ説明できる。<br>2 各後遺症と骨折の関連を説明できる。<br>3 後遺症の確認と根拠が説明できる。<br>4 後遺症発生予防の概要が説明できる。   | 講義             |
|    | 26               | 後遺症(阻血性骨壊死)                      |   | 講義             |
|    | 27               | 後遺症(変形治癒・骨萎縮)                    |   | 講義             |
|    | 28               | 後遺症(関節運動障害・外傷性骨化性筋炎)             |   | 講義             |
|    | 29               | 後遺症(フォルクマン拘縮)                    |   | 講義             |
|    | 30               | 骨折の治癒経過・骨折の癒合日数                  | 1 骨折治癒機転の概要を説明できる。  | 講義             |
|    | 31               | 治癒に影響を与える因子・小児骨折の特徴              | 1 骨折治癒障害を挙げ概要を説明できる。  | 講義             |
|    | 32               | 小児・高齢者骨折の特徴                      | 1 小児・高齢者骨折の特徴を説明できる。  | 講義             |
|    | 33               | 治療法                              | 1 骨折の治療法の概要を説明できる。<br>2 指導管理の概要を説明できる。  | 講義             |
|    | 34               | 指導管理                             |   | 講義             |
|    | 35               | 3期期末(到達目標達成確認)試験                 |   | 試験             |
| 36 | 3期期末試験の解説・解答 まとめ |                                  | 講義  |                |
| 37 | 年度末試験            |                                  | 試験  |                |

【分野】 専門分野 基礎柔道整復学

【科目】 関節損傷学基礎

## 【基本情報】

|      |             |         |              |      |
|------|-------------|---------|--------------|------|
| 配当年次 | 1 学年        | 担当教員    | あかおか しほ      |      |
| 単位数  | 3 単位        |         | 赤岡 志保（実務経験有） |      |
| 開講学期 | 1学期・2学期・3学期 | 授業形態・回数 | 講義           | 36 回 |

## 【授業情報】

|               |   |
|---------------|---|
| 授業概要          | 接骨院勤務の経歴があり、その経験を活かし、主に柔道整復の総論について教授する。学生はこの授業を通じて、関節の種類、関節構成組織の分類、それぞれの機能について学習し、脱臼・捻挫についてその特徴など総論的に修得する。また、関節構成組織の損傷程度・損傷内容を特定するための検査法も含めて展開していく。 |
| 授業の一般目標 (G10) | 関節の構造と機能を理解し、構造上の弱点と損傷の関係を系統的に考察する。また、脱臼の発生機序と損傷形態・捻挫の発生機序と損傷形態との関係を解析できる。  |

## 【担当教員から】

|              |   |
|--------------|---|
| 教科書          | 柔道整復学（理論編・実技編）（全国柔整学校協会監修 南江堂）  |
| 参考書          | 神中整形外科学（南山堂）、一人で学べる柔整理論（呉竹学園編）  |
| 成績評価基準       | 定期試験：シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題（レポート・小テスト等）：レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。   |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準（評価割合（%））<br>期末（到達目標達成確認）試験成績（年度末試験含む）――― 95%<br>（課題等を行わなかった場合は100%）<br>課題等――― 5%（課題等を行った場合の加算割合）  |
| 履修の条件<br>留意点 | 期末（到達目標達成確認）試験、課題の評価を合計して60%以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門分野・基礎柔道整復学・関節損傷学基礎の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為に、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。 |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）<br>・柔道整復学の総論となる科目です。授業の予習、復習を欠かさないこと。<br>・授業中はノートをとるだけでなく、内容をよく理解しながら聞くこと。<br>・分からないことがあったときは、すぐに解決するようにする。協力は惜しみません。                 |
| オフィスアワー      |   |



【授業計画】

| 学期 | 回数    | 講義内容                   | 到達目標 (SBOs)                      | 講義形態 |
|----|-------|------------------------|----------------------------------|------|
| 1期 | 1     | 関節の概要 分類・構成 脱臼の概念・定義   |                                  | 講義   |
|    | 2     | 脱臼の分類 (時期・関節の性状・程度・位置) | 1 脱臼の概念及び定義の説明ができる。              | 講義   |
|    | 3     | 脱臼の分類 (位置・数・創部との交通)    | 2 外傷性・病的脱臼の重要な相違点を指摘、説明できる。      | 講義   |
|    | 4     | 脱臼の分類 (外力・経過)          | 3 脱臼を発生機序・程度・脱臼方向・数等により分類し説明できる。 | 講義   |
|    | 5     | 脱臼の分類 (頻度・発生機序)        |                                  | 講義   |
|    | 6     | 関節の構造・機能               |                                  | 講義   |
|    | 7     | 関節の付属装置 (靭帯・関節軟骨・関節唇)  | 1 関節構造の概略が説明できる。                 | 講義   |
|    | 8     | 関節の付属装置 (掌側板・滑液包・余剰骨)  | 2 関節の構成・分類に関し説明できる。              | 講義   |
|    | 9     | 関節の付属装置 (関節周囲の神経・血管)   | 3 関節の種別に機能の説明ができる。               | 講義   |
|    | 10    | 関節の種類 (可動結合)           | 4 関節包及び靭帯の機能を説明できる。              | 講義   |
|    | 11    | 関節の種類 (不動結合)           | 5 関節円板の機能が説明できる。                 | 講義   |
|    | 12    | 1期期末 (到達目標達成確認) 試験     | 6 関節機能における付属組織の説明できる。            | 試験   |
|    |       | 7 付属組織と関節機能との関係が説明できる。 | 講義                               |      |
| 2期 | 13    | 1期試験の解説・解答 脱臼の一般症状     | 1 脱臼の一般症状を挙げ説明できる。               | 講義   |
|    | 14    | 脱臼の固有症状                | 2 脱臼の固有症状を挙げ説明できる。               | 講義   |
|    | 15    | 脱臼の合併症 (骨折)            | 1 脱臼に併発する合併症を各々挙げ、説明できる。         | 講義   |
|    | 16    | 脱臼の合併症 (神経損傷)          | 2 脱臼に続発する合併症を各々挙げ、説明できる。         | 講義   |
|    | 17    | 脱臼の合併症 (血管損傷)          | 3 脱臼の合併症の有無の確認と根拠を説明できる。         | 講義   |
|    | 18    | 脱臼の合併症 (軟部組織損傷)        | 4 脱臼の合併症における発生予防の概要が説明できる。       | 講義   |
|    | 19    | 脱臼の合併症 (内臓損傷)          |                                  | 講義   |
|    | 20    | 脱臼の整復障害                | 1 脱臼の整復障害を説明できる。                 | 講義   |
|    | 21    | 脱臼の整復障害                | 2 脱臼治癒機転の概要を説明できる。               | 講義   |
|    | 22    | 脱臼の整復障害                | 3 脱臼の異常経過を挙げ説明できる。               | 講義   |
|    | 23    | 脱臼の治癒経過と予後             | 4 正常経過・異常経過の特徴的な相違点を挙げられる。       | 講義   |
|    | 24    | 2期期末 (到達目標達成確認) 試験     | 5 予後に影響を与える因子を挙げられる。             | 試験   |
|    |       | 6 因子と予後の関係を説明できる。      | 講義                               |      |
| 3期 | 25    | 2期期末試験の解説・解答 筋の構成・筋損傷  | 1 筋損傷・腱損傷の概要が説明できる。              | 講義   |
|    | 26    | 腱損傷                    | 2 捻挫の重要な分類を挙げ説明できる。              | 講義   |
|    | 27    | 腱の修復                   | 3 受傷関節の周辺組織が受ける影響の概要が説明できる。      | 講義   |
|    | 28    | 骨折・脱臼の整復法              | 1 徒手整復法を挙げ説明ができる。                | 講義   |
|    | 29    | 骨折・脱臼の整復法              | 2 徒手整復・観血整復の特徴を示せる。              | 講義   |
|    | 30    | 骨折・脱臼の整復法              | 3 徒手整復法の原則を示せる。                  | 講義   |
|    | 31    | 骨折・脱臼・関節損傷の後療法 (手技療法)  | 4 骨折や脱臼固定法の種類・特徴・適応の概略を説明できる。    | 講義   |
|    | 32    | 骨折・脱臼・関節損傷の後療法 (物理療法)  | 1 各外傷における後療法の種類を挙げ説明ができる。        | 講義   |
|    | 33    | 骨折・脱臼・関節損傷の後療法 (運動療法)  | 2 手技療法・物理療法・運動療法の適応と禁忌、特徴を説明できる。 | 講義   |
|    | 34    | まとめ                    |                                  | 講義   |
|    | 35    | 3期期末 (到達目標達成確認) 試験     |                                  | 試験   |
|    | 36    | 3期期末試験の解説・解答 まとめ       |                                  | 講義   |
| 37 | 年度末試験 |                        | 試験                               |      |

【分野】 専門分野 柔道整復実技

【科目】 基本的治療法

## 【基本情報】

|      |       |         |               |      |
|------|-------|---------|---------------|------|
| 配当年次 | 1 学年  | 担当教員    | なかむら ひさし      |      |
| 単位数  | 2 単位  |         | 中村 尚志 (実務経験有) |      |
| 開講学期 | 前期・後期 | 授業形態・回数 | 講義            | 32 回 |

## 【授業情報】

|               |  |
|---------------|--|
| 授業概要          | 接骨院や整形外科勤務の経験があり、その経験を活かし、主に包帯法について教授する。学生はこの授業を通じて、柔道整復で用いる基本的な固定材料および治療機器の使用、また計測法・徒手検査法の基本を修得する。基本包帯法に始まり各関節の包帯法、厚紙副子・金属副子の作り方、絆創膏を使った固定法、ギプス、プラスチックキャストの扱い方等について講義を含め実施していく。 |
| 授業の一般目標 (G10) | 柔道整復師にとって最も重要な施術技術である患部の固定ができるようになる。この時の固定材料として、包帯・副木・厚紙副子・金属副子・絆創膏・プライトンなどがあるが、これらを用いて的確な固定ができるようになる事を目的とする。また、診断補助の手段としての計測法、徒手検査技術も理解、使用できるようになることを目的とする。                     |

## 【担当教員から】

|              |   |
|--------------|---|
| 教科書          | 「包帯固定学」 改訂第2版(社)全国柔整学校協会監修 南江堂「柔道整復学・実技」  |
| 参考書          | 「柔道整復実技 一新訂版」 学校法人 呉竹学園篇  |
| 成績評価基準       | <p>期末試験：シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。</p> <p>観察記録：技能・態度・習慣を観察して適宜記録し判定資料とする。</p>  |
| 成績評価方法       | <p>成績評価の基準（評価割合(%)）</p> <p>期末(到達目標達成確認)試験成績――― 95%</p> <p>観察記録――― 5%</p>  |
| 履修の条件<br>留意点 | <p>期末(到達目標達成確認)試験、観察記録の評価を合計して60%以上で履修とする。</p> <p>この科目は専門分野・柔道整復実技・基本的治療法の単位として認定されます。【認定実技試験対象科目】なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。</p>   |
| 担当教員         | <p>★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な包帯法の実際に行う科目です。自主的に手を動かして何回も繰り返すことが大事であり授業の予習、復習を欠かさないこと。</li> <li>・授業中はノートをとるだけでなく、内容をよく理解しながら聞くこと。</li> <li>・分からないことがあったときは、すぐに解決するようにする。協力は惜しみません。</li> <li>・実際の臨床現場において基となる技術を習得し、自分自身のために授業の予習・復習をして授業に臨むなど、積極的な学習姿勢が望まれます。</li> </ul> |
| オフィスアワー      |   |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容                          | 到達目標 (SBOs)                                  | 講義形態 |
|----|----|-------------------------------|--|------|
| 前期 | 1  | 柔道整復の概要および包帯の種類の説明            | 1 柔道整復の概要を説明できる。<br>2 包帯の目的と概略を説明できる。        | 実技   |
|    | 2  | 巻軸包帯の作成                       | 1 晒で巻軸包帯の作成できる。<br>2 巻軸包帯の使用目的が説明できる。        | 実技   |
|    | 3  | 巻軸包帯の作成                       |  | 実技   |
|    | 4  | 環行帯、蛇行帯を巻く                    | 1 環行帯と蛇行帯が説明できる。<br>2 適応部位に環行帯と蛇行帯が巻ける。      | 実技   |
|    | 5  | 麦穂帯、亀甲帯を巻く                    | 1 麦穂帯と亀甲帯が説明できる。<br>2 適応部位に麦穂帯と亀甲帯が巻ける。      | 実技   |
|    | 6  | 麦穂帯、亀甲帯を巻く                    |  | 実技   |
|    | 7  | 折転帯を巻く                        | 1 折転帯の適応部位が説明できる。<br>2 適応部位に折転帯が巻ける。         | 実技   |
|    | 8  | 手指・足指の包帯を巻く                   | 1 各適応部位に包帯を巻くことができる。                         | 実技   |
|    | 9  | 足関節・膝関節の包帯を巻く                 |  | 実技   |
|    | 10 | 背十字帯を巻く                       | 1 背十字帯の適応部位が説明できる。<br>2 適応部位に背十字帯が巻ける。       | 実技   |
|    | 11 | 冠名包帯法（ヴェルポー包帯）を巻く             | 1 ヴェルポー包帯が説明できる。<br>2 適応部位にヴェルポー包帯が巻ける。      | 実技   |
|    | 12 | 冠名包帯法（ジュール包帯）を巻く              | 1 ジュール包帯が説明できる。<br>2 適応部位にジュール包帯が巻ける。        | 実技   |
|    | 13 | 冠名包帯法（デゾー包帯）を巻く               | 1 デゾー包帯が説明できる。<br>2 適応部位にデゾー包帯が巻ける。          | 実技   |
|    | 14 | 厚紙副子固定の基礎                     | 1 厚紙副子固定の使用目的が説明でき、<br>部位に適した厚紙副子が作成できる。     | 実技   |
|    | 15 | 厚紙副子の作成と固定（肋骨）                | 1 体幹部に適した厚紙副子が作成でき、<br>厚紙副子で体幹部の固定ができる。      | 実技   |
|    | 16 | 前期実技(到達目標達成確認)試験              |  | 試験   |
| 後期 | 17 | 厚紙副子の作成と固定（足関節）               | 1 足関節に適した厚紙副子が作成でき、<br>厚紙副子で足関節の固定ができる。      | 実技   |
|    | 18 | 厚紙副子の作成と固定（足関節）               |  | 実技   |
|    | 19 | 金属副子固定の基礎                     | 1 金属副子固定の使用目的を説明でき、<br>部位に適した金属副子が作成できる。     | 実技   |
|    | 20 | 下腿金属副子による固定（下腿骨幹部）            | 1 下腿骨幹部に適した金属副子を<br>作成し、下腿骨幹部の固定ができる。        | 実技   |
|    | 21 | 下腿金属副子による固定（下腿骨幹部）            |  | 実技   |
|    | 22 | 下腿金属副子による固定（アキレス腱部）           | 1 アキレス腱部に適合した金属副子<br>を作成し、アキレス腱部の固定が<br>できる。 | 実技   |
|    | 23 | 下腿金属副子による固定（アキレス腱部）           |  | 実技   |
|    | 24 | 絆創膏固定の基礎                      | 1 絆創膏固定の使用目的・適応・非適応<br>特徴を説明できる。             | 実技   |
|    | 25 | 足関節絆創膏固定（バスケットウィーブ）           | 1 バスケットウィーブによる足関節<br>絆創膏固定を実施できる。            | 実技   |
|    | 26 | 足関節絆創膏固定（バスケットウィーブ）           |  | 実技   |
|    | 27 | 足関節絆創膏固定<br>（フィギュアエイト・ヒールロック） | 1 フィギュアエイト・ヒールロック<br>による足関節絆創膏固定を実施<br>できる。  | 実技   |
|    | 28 | 足関節絆創膏固定<br>（フィギュアエイト・ヒールロック） |  | 実技   |
|    | 29 | 膝関節絆創膏固定（Xサポート）               | 1 Xサポートによる膝関節絆創膏固定<br>を実施できる。                | 実技   |
|    | 30 | 膝関節絆創膏固定（Xサポート）               |  | 実技   |
|    | 31 | 肩鎖関節脱臼の固定<br>（ロバート・ジョーンズ固定）   | 1 ロバート・ジョーンズの絆創膏固定<br>を実施できる。                | 実技   |
|    | 32 | 後期実技(到達目標達成確認)試験              |  | 試験   |

【分野】 専門分野 柔道整復実技

【科目】 総合柔道整復演習(柔道整復業務概論)

## 【基本情報】

|      |       |         |               |      |
|------|-------|---------|---------------|------|
| 配当年次 | 1 学年  | 担当教員    | あかおか しほ       |      |
| 単位数  | 2 単位  |         | 赤岡 志保 (実務経験有) |      |
| 開講学期 | 前期・後期 | 授業形態・回数 | 講義            | 32 回 |

## 【授業情報】

|               |  |
|---------------|--|
| 授業概要          | 接骨院での勤務経験があり、その経験を活かし、主に柔道整復師の業務について教授する。<br>学生はこの授業を通じて、解剖生理学の概要から始まり、柔道の歴史や理念、柔道整復師法の体系を学び、関連法規、医療人としての柔道整復師が持つべき倫理的思考も修得する。                           |
| 授業の一般目標 (G10) | 柔道整復師法について理解を深める。<br>身体の構造や機能、柔道整復や柔道の歴史的背景や医療人としての倫理を体得し、社会に貢献できる柔道整復のあり方を思考でき、現代医学が成立した過程を知り、自らの置かれている立場を理解できる。<br>また、受領委任払いの仕組みを適切に理解でき、業務の概要と倫理観を養う。 |

## 【担当教員から】

|          |   |
|----------|---|
| 教科書      | 「関係法規」改訂第2版(社)全国柔整学校協会監修・医歯薬出版 配布プリント<br>「解剖学」改訂第2版(社)全国柔整学校協会監修・医歯薬出版<br>「生理学」改訂第3版(社)全国柔整学校協会監修 南江堂   |
| 参考書      | 柔道整復理論 改訂第4版(社)全国柔整学校協会・教科書専門委員会編集  |
| 成績評価基準   | 定期試験：シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題(レポート・小テスト等)：レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。<br>観察記録：技能・態度・習慣を観察して適宜記録し判定資料とする。  |
| 成績評価方法   | 成績評価の基準(評価割合%)<br>期末(到達目標達成確認)試験成績――90%<br>(課題等を行わなかった場合は95%)<br>観察記録――5%<br>課題等――5% (課題等を行った場合の加算割合)   |
| 履修の条件留意点 | 期末(到達目標達成確認)試験、課題・観察記録の評価を合計して60%以上で履修とする。<br>この科目は専門分野・柔道整復実技・柔道整復業務概論(総合柔道整復演習)の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。   |
| 担当教員     | ★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ)<br>・授業は、教員と学生の双方向のコミュニケーションの場です、積極的に授業に参加して下さい。<br>・予習→授業→復習のサイクルを守るようにして下さい。<br>・授業ではノートをとるだけでなく、講義をよく聞き、内容を理解するようにして下さい。<br>・柔道整復業務の基本となる科目で。授業の予習・復習をして授業に臨むなどして、積極的な授業態度が望まれます。 |
| オフィスアワー  |   |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容                     | 到達目標(SBOs)  | 講義形態 |
|----|----|--------------------------|---|------|
| 前期 | 1  | 解剖生理学（人体とは）              | 1 各臓器の構造を理解し、説明できる。<br>2 各臓器の機能を理解し、説明できる。                  | 講義   |
|    | 2  | 解剖生理学（人体とは）              |   | 講義   |
|    | 3  | 解剖生理学（人体とは）              |   | 講義   |
|    | 4  | 柔道整復師の業務概要・法の意義と体系       | 1 柔道整復師の業務概要・法の意義や目的について説明できる。                              | 講義   |
|    | 5  | 柔道整復と患者の権利（インフォームドコンセント） | 1 患者の権利やインフォームドコンセントの説明ができる。                                | 講義   |
|    | 6  | 柔道整復師免許                  | 1 免許の資格要件等を説明できる。   | 講義   |
|    | 7  | 柔道整復師名簿                  | 1 名簿について説明できる。  | 講義   |
|    | 8  | 柔道整復師国家試験・業務・業務範囲        | 1 国家試験の受験に関して説明できる。<br>2 柔道整復師が業務の説明ができる。                   | 講義   |
|    | 9  | 守秘義務・親告罪                 | 1 柔道整復師が守秘義務・親告罪の説明ができる。                                    | 講義   |
|    | 10 | 施術所・雑則                   | 1 施術所の開設等や構造設置基準・広告制限・名称制限について説明できる。                        | 講義   |
|    | 11 | 罰則・指定登録期間、指定試験機関         | 1 各罰則や登録機関等の説明できる。  | 講義   |
|    | 12 | 医師法・歯科医師法・薬剤師法           | 1 医師・歯科医師・薬剤師の業務等説明ができる。                                    | 講義   |
|    | 13 | 保健師・助産師・看護師法、医療関係法規      | 1 各医療従事者の業務等説明ができる。   | 講義   |
|    | 14 | 医療法                      | 1 医療法について説明できる。   | 講義   |
|    | 15 | 社会福祉関係法                  | 1 社会福祉法等の概要を説明できる。<br>2 障害者・老人福祉法の説明できる。                    | 講義   |
|    |    | 16                       | 前期期末(到達目標達成確認)試験  |      |
| 後期 | 17 | 社会保険関係法規                 | 1 社会保険関係法規について説明できる。  | 講義   |
|    | 18 | 療養費受領委任協定                | 1 療養費制度や受領委任払いの概要を説明できる。                                    | 講義   |
|    | 19 | 施術録・療養費支給申請書             | 1 施術録に関する説明ができる。<br>2 療養費支給申請書の説明できる。                       | 講義   |
|    | 20 | 算定基準（通則）                 | 1 算定基準を説明できる。   | 講義   |
|    | 21 | 算定基準（初検料・初検時相談支援料）       | 1 初検料・初検時相談支援料の算定ができる。                                      | 講義   |
|    | 22 | 算定基準（往療料・再検料）            | 1 往療料・再検料の算定ができる。   | 講義   |
|    | 23 | 算定基準（時間外加算・難路及び暴風雪加算）    | 1 初検料・往療料に関する加算の算定ができる。                                     | 講義   |
|    | 24 | 算定基準（骨折の部・不全骨折の部）        | 1 骨折、不全骨折の料金算定ができる。<br>2 関節近接部位の算定を説明できる。                   | 講義   |
|    | 25 | 算定基準（脱臼の部、打撲・捻挫の部）       | 1 各脱臼・打撲・捻挫の算定ができる。<br>2 算定可能な捻挫の部位を説明できる。                  | 講義   |
|    | 26 | 算定基準（罨法料、長期・多部位・近接部位）    | 1 各施術料の算定ができる。<br>2 近接部位の負傷例を説明できる。                         | 講義   |
|    | 27 | 算定方法練習                   | 1 各症例の具体例をあげ、患者一部負担金について算定法ができる。<br>2 初検時加算および往療加算の請求法ができる。 | 講義   |
|    | 28 | 算定方法練習                   |   | 講義   |
|    | 29 | 算定方法練習                   |   | 講義   |
|    | 30 | 柔道の歴史・柔道の理念              | 1 柔道の歴史や理念を理解し、説明できる。                                       | 講義   |
|    | 31 | 審判規定・礼法・受身               | 1 柔道の規定に関する事が説明できる。<br>2 礼法・受身について説明できる。                    | 講義   |
|    |    | 32                       | 後期期末(到達目標達成確認)試験  |      |

【分野】 専門分野 柔道整復実技

【科目】 総合柔道整復演習(医療概論)

## 【基本情報】

|      |      |         |               |      |
|------|------|---------|---------------|------|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員    | かわぐち ひろのぶ     |      |
| 単位数  | 1 単位 |         | 川口 央修 (実務経験有) |      |
| 開講学期 | 前期   | 授業形態・回数 | 講義            | 16 回 |

## 【授業情報】

|               |  |
|---------------|--|
| 授業概要          | 接骨院や整形外科勤務の経験があり、その経験を活かし、主に柔道整復の医療体系における役割について教授する。医学を学ぶ初学者として、柔道整復の医療体系における役割や意義を理解し、代表的な臨床症状とその病態について学習することで、柔道整復の地域医療における役割について修得する。 |
| 授業の一般目標 (G10) | 医療人の初年度教育として、柔道整復の歴史と変遷から培われた技術が現行の医療体系の中でどのように機能するかを説明できる。  |

## 【担当教員から】

|              |   |
|--------------|---|
| 教科書          | 一般臨床医学 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版   |
| 参考書          | 医療面接 丹澤章八編著 医道の日本社<br>臨床教育マニュアル 南山堂   |
| 成績評価基準       | 定期試験: シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題(レポート・小テスト等): レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。<br>観察記録: 技能・態度・習慣を観察して適宜記録し判定資料とする。               |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準 (評価割合(%))<br>期末(到達目標達成確認)試験成績 --- 90%<br>(課題等を行わなかった場合は95%)<br>観察記録 ----- 5%<br>課題等 ----- 5% (課題等を行った場合の加算割合)                                       |
| 履修の条件<br>留意点 | 期末(到達目標達成確認)試験、課題・観察記録の評価を合計して60%以上で履修とする。<br>この科目は専門分野・柔道整復実技・医療概論(総合柔道整復演習)の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。 |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ)<br>初学者に対して興味をそそるように進めていきたいと考えている。<br>この科目の理解を深めるためには翌週の講義までに前回の内容を復習しておくことが望ましい。<br>課題の提出期限は厳守してください。期限を過ぎた課題は受理しません。           |
| オフィスアワー      | 3F教員室   |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容                               | 到達目標 (SBOs)   | 講義形態     |
|----|----|------------------------------------|---|----------|
| 前期 | 1  | 概説及びガイドライン                         | 1 医療人として身につけるべき態度や、地域医療の一環として一次医療や医接連携について説明できる。      | 講義       |
|    | 2  | 柔道整復の歴史と変遷<br>施術者の心構えと雰囲気作り        | 1 患者が示しやすい態度や心理状態を理解し、医療面接の対人距離とその効果を説明できる。           | 講義       |
|    | 3  | 診察法 診察の意義                          | 1 診察の概要と意義・診察の種類を説明できる。                               | 講義       |
|    | 4  | 診察法 種類・診断へのプロセス                    | 1 診察の進め方と問診する項目を説明できる。                                | 講義       |
|    | 5  | プレコーション概説及びガイドライン                  | 1 施術をおこなうにあたり、基本的な知識のひとつである清潔・不潔の概念を説明できる。            | 実技       |
|    | 6  | プレコーション技法                          | 1 医療機関で使用される消毒の方法・手洗いの方法を実践できる。                       | 実技       |
|    | 7  | プレコーション技法                          |   | 実技       |
|    | 8  | プレコーション技法のまとめ・データ解析とレポート作製方法       | 1 データの取扱や統計学的処理をもとにレポート作成することができる。                    | 実技       |
|    | 9  | サービス介助の概説                          | 1 相手の立場を考え行動するための「ホスピタリティ・マインド」を向上させ、「正しい介助知識」を実践できる。 | 企業連携     |
|    | 10 | 診察法 生命徴候                           | 1 生命徴候を挙げ正常値を示せる。                                     | 講義       |
|    | 11 | 診察法 視診 顔貌・顔色                       | 1 体格・体型での視診項目を挙げ栄養状態などによる変化を説明できる。                    | 講義       |
|    | 12 | 診察法 視診 姿勢                          | 1 体位・姿勢での視診項目を挙げ意義を説明できる。                             | 講義       |
|    | 13 | 診察法 視診 異常運動                        | 1 異常運動での視診項目を挙げ意義を説明できる。                              | 講義       |
|    | 14 | 診察法 視診 歩行                          | 1 歩行での視診項目を挙げ意義を説明できる。                                | 講義       |
|    | 15 | 期末(到達目標達成確認)評価<br>臨床実習前施術実技試験(見学型) | 1 医の倫理・態度・付帯業務・6大関節の運動について説明できる。                      | 試験       |
|    | 16 | まとめ                                |   | 講義<br>実技 |

【分野】 専門分野 柔道整復実技

【科目】 総合柔道整復演習(医療面接演習)

## 【基本情報】

|      |      |         |               |      |
|------|------|---------|---------------|------|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員    | かわぐち ひろのぶ     |      |
| 単位数  | 1 単位 |         | 川口 央修 (実務経験有) |      |
| 開講学期 | 後期   | 授業形態・回数 | 講義            | 16 回 |

## 【授業情報】

|               |  |
|---------------|--|
| 授業概要          | 接骨院や整形外科勤務の経験があり、その経験を活かし、主に医療現場における医療面接について教授する。学生はこの授業を通じて、診察の概念と適切な実施方法を学習することで、POS(患者志向型の医療)の概念を理解する。医療現場における実際の事例を取り上げながら、患者・医療従事者双方の立場から「自分だったら…」と考えさせ、適宜ディスカッションを交えて、当事者としての自覚と問題意識を修得する。 |
| 授業の一般目標 (G10) | 地域における一次医療(プライマリ・ケア)の担い手としての自覚とPOS(患者指向型医療)への理解を深め、その実現のための知識や技術を実践できる。  |

## 【担当教員から】

|   |  |
|---|--|
| 教科書   |  |
| 参考書   | 医療面接 丹澤章八編著 医学的面接のしかた 医歯薬出版(株)<br>医療面接法ガイド メディカル・サイエンス・インターナショナル<br>臨床教育マニュアル 南山堂<br>医療面接 丹澤章八編著 医学的面接のしかた 医歯薬出版(株)<br>医療面接法ガイド メディカル・サイエンス・インターナショナル<br>臨床教育マニュアル 南山堂 |
| 成績評価基準  | 定期試験:シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題(レポート・小テスト等):レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。<br>観察記録:技能・態度・習慣を観察して適宜記録し判定資料とする。                             |
| 成績評価方法  | 成績評価の基準(評価割合%)<br>期末(到達目標達成確認)試験成績――90%<br>(課題等を行わなかった場合は95%)<br>観察記録――5%<br>課題等――5% (課題等を行った場合の加算割合)  |
| 履修の条件<br>留意点  | 期末(到達目標達成確認)試験、課題・観察記録の評価を合計して60%以上で履修とする。<br>この科目は専門分野・柔道整復実技・医療面接演習(総合柔道整復演習)の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。          |
| 担当教員  | ★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ)<br>初学者に対して興味を唆るように進めていきたいと考えている。<br>この科目の理解を深めるためには翌週の講義までに前回の内容を復習しておくことが望ましい。<br>課題の提出期限は厳守してください。期限を過ぎた課題は受理しません。                       |
|  |  |
| オフィスアワー   | 3F教員室  |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容                              | 到達目標 (SBOs)  | 講義形態     |
|----|----|-----------------------------------|--|----------|
| 後期 | 1  | 概説及びガイドライン                        | 1 医療面接の歴史と変遷を説明できる。  | 講義       |
|    | 2  | 診察法 測定法の実際                        | 1 医療面接における記録方法の基礎を身につける。<br>2 身体各部のランドマークを示し、四肢の計測方法を実践し説明できる。 | 講義       |
|    | 3  | 診察法 四肢計測の実際                       |  | 実技       |
|    | 4  | 診察法 四肢計測の実際                       |  | 実技       |
|    | 5  | 診察法 打診 反射検査                       | 1 打診の意義と方法ならびに打診音の種類と意義を実践し説明できる。                              | 講義       |
|    | 6  | 診察法 打診 反射検査                       | 1 反射検査の意義を理解し実践できる。  | 実技       |
|    | 7  | 診察法 聴診 血圧測定                       | 1 血圧の意義と測定を実践し概略が説明で   | 実技       |
|    | 8  | 診察法 触診                            | 1 触診の意義と方法ならびに身体各部の触診所見が示す臨床的意義を説明できる。                         | 講義       |
|    | 9  | 診察法 感覚検査                          | 1 知覚の種類を挙げ、表在性知覚検査・深部知覚検査・と複合知覚検査と異常所見を説明できる。                  | 実技       |
|    | 10 | コミュニケーションの概要と実際 情報収集・ラポールの確立・動機づけ |  | 講義       |
|    | 11 | 施術者の心構えと雰囲気作り(予診表の活用) 施術効果とエビデンス  | 1 医療面接に必要な雰囲気作りを理解し対人距離とその効果を例示出来る。                            | 講義       |
|    | 12 | 医療面接の導入と実際 質問(開かれた質問と閉ざされた質問)の技法  | 1 医療面接の場面で実感される問題点や難しさについて体験的な気付きを得る。                          | 講義       |
|    | 13 | 解釈モデルの実際と患者の特性に応じた医療面接            | 1 グループ学習を通じた相互フィードバックにより医療面接の課題を共有する。                          | 講義       |
|    | 14 | 医療面接の学習法                          | 1 学習で得られた問題点に対し、以後も継続して考察を続ける姿勢を身につけさせる。                       | 講義       |
|    | 15 | 期末(到達目標達成確認)評価 臨床実習前施術実技試験(参加型)   | 1 予診表・医療面接・一般的身体診察・ROM・MMTについて説明ならびに実施することができる。                | 試験       |
|    | 16 | まとめ                               |  | 講義<br>実技 |

【分野】 専門分野 柔道整復実技

【科目】 総合柔道整復演習(身体計測演習)

## 【基本情報】

|      |      |         |               |      |
|------|------|---------|---------------|------|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員    | ほんだ しゅうじ      |      |
| 単位数  | 1 単位 |         | 本多 修二 (実務経験有) |      |
| 開講学期 | 前期   | 授業形態・回数 | 講義            | 16 回 |

## 【授業情報】

|               |   |
|---------------|---|
| 授業概要          | 接骨院勤務の経歴があり、その経験を活かし、主に柔道整復に根本となる運動器について教授する。柔道整復師にとって必要不可欠な「運動器の基礎的知識」の理解がこの科目の目標であるため、まず総論として人体を構成する細胞、組織、器官、器官系の構造と機能（主に組織学）について修得する。また、器官としての骨（上肢骨・下肢骨・体幹の骨・頭蓋骨）の局所の名称、位置関係、各関節の構造と機能も修得する。 |
| 授業の一般目標 (G10) | 骨折・脱臼などの怪我は身体の異常であり、この異常を判断するためには身体の正常な構造と機能の理解が必要不可欠となる。その為に人体を構成する組織についての総論と柔道整復に必要な四肢の骨、関節、筋の構造を理解し、各々の関節の運動と、その運動に関与する筋が分かる為の基礎として筋の付着部となる骨の局所の名称を説明できる。                                    |

## 【担当教員から】

|              |   |
|--------------|---|
| 教科書          | 柔道整復学を学ぶための運動器基礎知識 (学校法人 呉竹学園)  |
| 参考書          | カパンディ関節の生理学・機能解剖学 (医歯薬出版)   |
| 成績評価基準       | 定期試験: シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題(レポート・小テスト等): レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。<br>観察記録: 技能・態度・習慣を観察して適宜記録し判定資料とする。   |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準 (評価割合(%))<br>期末(到達目標達成確認)試験成績(年度末試験含む) --- 90%<br>(課題等を行わなかった場合は95%)<br>観察記録 --- 5%<br>課題等 --- 5% (課題等を行った場合の加算割合)  |
| 履修の条件<br>留意点 | 期末(到達目標達成確認)試験、課題・観察記録の評価を合計して60%以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門分野・柔道整復実技・身体計測演習(総合柔道整復演習)の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。   |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ)<br>・人体の正常な構造と機能を学習し、柔道整復学がより理解しやすいように行われる科目です。予習、復習は欠かさないこと。<br>・授業中はノートをとるだけでなく、内容をよく理解しながら聞くこと。<br>・分からないことがあったときは、すぐに解決するようにする。<br>協力は惜しみません。<br>・運動器学は2、3年次に必要な知識の基となる科目です。<br>自分自身のために授業の予習・復習をして授業に臨むなど、積極的な学習姿勢が望まれます。 |
| オフィスアワー      |   |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容                      | 到達目標(SBOs)   | 講義形態   |    |
|----|----|---------------------------|--|--|----|
| 前期 | 1  | 人体の構成(細胞) 人体の構成(組織)       | 1 細胞と組織の関係が説明できる。  | 講義   |    |
|    | 2  | 人体の構成(器官系)                | 2 各組織を挙げ、特徴を挙げられる。<br>3 器官・器官系の機能を説明できる。   | 講義   |    |
|    | 3  | 骨の役割、形状分類、構造、発生と成長        | 1 骨の構造・役割が説明できる。<br>2 骨の発生と成長の概要が説明できる。  | 講義   |    |
|    | 4  | 上肢帯・上肢骨 1) 肩甲骨 鎖骨 上腕骨     | 1 上肢・下肢・頭蓋・体幹の骨を挙げられる。<br>2 骨格模型で上肢・下肢・頭蓋・体幹の骨の局所の名称が言える。<br>3 上肢・下肢・頭蓋・体幹の骨の形態的特徴が説明できる。<br>4 上肢・下肢・頭蓋・体幹の骨の役割が説明できる。 | 講義   |    |
|    | 5  | 上肢帯・上肢骨 2) 前腕骨 手の骨        |  | 講義   |    |
|    | 6  | 下肢帯・下肢骨 1) 寛骨 大腿骨 膝蓋骨     |  | 講義   |    |
|    | 7  | 下肢帯・下肢骨 2) 下腿骨 足の骨        |  | 講義   |    |
|    | 8  | 頭蓋、顔面の骨                   |  | 講義   |    |
|    | 9  | 体幹の骨                      |  | 講義   |    |
|    | 10 | 骨の連結の種類と構造                |  | 1 骨連結を種類別に説明ができる。  | 講義 |
|    | 11 | 上肢骨の連結 1) 胸鎖関節 肩鎖関節 肩関節   |  | 1 骨格模型で各関節を示せる。<br>2 各関節を構成する骨が言える。<br>3 各関節の構造の概略が説明できる。<br>4 各関節の機能的特徴が説明できる。<br>5 各関節の運動が説明できる。 | 講義 |
|    | 12 | 上肢骨の連結 2) 肘関節 遠位橈尺関節 手の関節 |  |  | 講義 |
|    | 13 | 下肢骨の連結 1) 骨盤周囲の骨の連結 股関節   |  |  | 講義 |
|    | 14 | 下肢骨の連結 2) 膝関節 足部の関節       | 講義   |  |    |
|    | 15 | 頭蓋・顔面・体幹の骨の連結             | 講義   |  |    |
|    | 16 | 期末(到達目標達成確認)試験            | 試験   |  |    |
|    | 17 | 年度末試験                     | 試験   |  |    |

【分野】 専門分野 柔道整復実技

【科目】 総合柔道整復演習(運動器学演習)

## 【基本情報】

|      |      |         |               |      |
|------|------|---------|---------------|------|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員    | ほんだ しゅうじ      |      |
| 単位数  | 1 単位 |         | 本多 修二 (実務経験有) |      |
| 開講学期 | 後期   | 授業形態・回数 | 講義            | 16 回 |

## 【授業情報】

|               |   |
|---------------|---|
| 授業概要          | 接骨院勤務の経歴があり、その経験を活かし、主に柔道整復に根本となる運動器について教授する。柔道整復師にとって必要不可欠な「運動器の基礎的知識」の理解がこの科目の目標であるため、身体計測演習で学んだ骨・関節を基盤として、(上肢・下肢・体幹・頭蓋)の骨格筋について、付着部、支配神経、作用を修得する。また、外傷により起こりえる神経損傷を理解するための基礎として、主に骨格筋に分布している正常な脊髄神経の走行や運動枝、感覚枝の理解が出来るよう展開していく。 |
| 授業の一般目標 (G10) | 医療・スポーツ現場等で外傷の処置を行う柔道整復師にとって特に必要となる正常な四肢の骨、関節の構造を理解し、各々の関節の運動と、その運動に関与する筋や神経領域が理解できる。   |

## 【担当教員から】

|              |   |
|--------------|---|
| 教科書          | 柔道整復学を学ぶための運動器基礎知識 (学校法人 呉竹学園)  |
| 参考書          | カパンディ関節の生理学・機能解剖学 (医歯薬出版)   |
| 成績評価基準       | 定期試験: シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題(レポート・小テスト等): レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。<br>観察記録: 技能・態度・習慣を観察して適宜記録し判定資料とする。   |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準 (評価割合(%))<br>期末(到達目標達成確認)試験成績(年度末試験含む) --- 90%<br>(課題等を行わなかった場合は95%)<br>観察記録 --- 5%<br>課題等 --- 5% (課題等を行った場合の加算割合)  |
| 履修の条件<br>留意点 | 期末(到達目標達成確認)試験、課題・観察記録の評価を合計して60%以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門分野・柔道整復実技・運動器学演習(総合柔道整復演習)の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。   |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ)<br>・人体の正常な構造と機能を学習し、柔道整復学がより理解しやすいように行われる科目です。予習、復習は欠かせないこと。<br>・授業中はノートをとるだけでなく、内容をよく理解しながら聞くこと。<br>・分からないことがあったときは、すぐに解決するようにする。協力は惜しみません。<br>・運動器学は2、3年次に必要な知識の基となる科目です。自分自身のために授業の予習・復習をして授業に臨むなど、積極的な学習姿勢が望まれます。 |
| オフィスアワー      |   |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容             | 到達目標 (SBOs)   | 講義形態  |    |
|----|----|------------------|---|---|----|
| 後期 | 1  | 筋組織の分類、筋の役割      | 1 筋の構造・性質による分類ができる。   | 講義  |    |
|    | 2  | 骨格筋の構造、骨格筋の役割    | 2 筋・腱の種別及び構造が説明できる。<br>3 骨格筋の構造的な特徴が説明できる。  | 講義  |    |
|    | 3  | 1) 浅胸筋 浅背筋 上肢帯の筋 | 1 各筋を部位別に挙げられる。<br>2 各筋の付着部・走行を示せる。<br>3 各筋の関節運動を説明できる。<br>4 関節運動の主動作筋を示せる。<br>5 各筋の支配神経を示せる。 | 講義  |    |
|    | 4  | 2) 上腕の筋 前腕の筋     |   | 講義  |    |
|    | 5  | 3) 手の筋           |   | 講義  |    |
|    | 6  | 1) 下肢帯筋・大腿の筋     |   | 講義  |    |
|    | 7  | 2) 下腿の筋          |   | 講義  |    |
|    | 8  | 3) 足の筋           |   | 講義  |    |
|    | 9  | 頭蓋・顔面・体幹の筋       |   | 講義  |    |
|    | 10 | 神経総論             |   | 1 中枢・末梢神経の構造的・機能的差異を説明できる。<br>2 中枢・末梢神経の役割が説明できる。<br>3 身体運動における神経の役割が説明できる。<br>4 神経叢と関連する末梢神経を言える。<br>5 四肢に分布する重要な神経の名称・走行を示せる。 | 講義 |
|    | 11 | 末梢神経総論           |   |   | 講義 |
|    | 12 | 四肢に分布する神経        | 講義  |   |    |
|    | 13 | 腕神経叢             | 講義  |   |    |
|    | 14 | 腰神経叢・仙骨神経叢       | 講義  |   |    |
|    | 15 | 後期期末(到達目標達成確認)試験 |   | 試験  |    |
|    | 16 | 後期期末試験の解説・解答 まとめ |   | 講義  |    |
|    | 17 | 年度末試験            |   | 試験  |    |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容                  | 到達目標 (SBOs)                              | 講義形態 |
|----|----|-----------------------|--|------|
| 前期 | 1  | 後療法の目的と種類 1 手技療法      | 1 目的と種類, 実施上の注意点を説明できる。                  | 講義   |
|    | 2  | 後療法の目的と種類 2 物理療法      | 1 物理療法のもたらす生理的効果を学ぶ。                     | 講義   |
|    | 3  | 後療法の目的と種類 3 運動療法      | 1 運動療法の適応と禁忌が説明できる。                      | 講義   |
|    | 4  | 手技療法の実際 (前腕の軽摩・揉捏法)   | 1 前腕の手技の特徴・手順を実施できる。                     | 実技   |
|    | 5  | 手技療法の実際 (下腿の軽摩・揉捏法 1) | 1 下腿の手技の特徴・手順を実施できる。                     | 実技   |
|    | 6  | 手技療法の実際 (下腿の軽摩・揉捏法 2) | 1 下腿の手技の特徴・手順を実施できる。                     | 実技   |
|    | 7  | 手技療法の実際 (肩背部の押圧と揉捏 1) | 1 肩背部の手技の特徴・手順を実施できる                     | 実技   |
|    | 8  | 手技療法の実際 (肩背部の押圧と揉捏 2) | 1 肩背部の手技の特徴・手順を実施できる                     | 実技   |
|    | 9  | 手技療法の実際 (腰部の押圧と揉捏)    | 1 腰部の手技の特徴・手順を実施できる。                     | 実技   |
|    | 10 | 手技療法の実際 (全身の押圧と揉捏 1)  | 1 全身の手技の特徴・手順を実施できる。                     | 実技   |
|    | 11 | 手技療法の実際 (全身の押圧と揉捏 2)  | 1 全身の手技の特徴・手順を実施できる。                     | 実技   |
|    | 12 | 高齢者の機能訓練指導            | 1 バランス訓練・姿勢保持等が実施できる                     | 実技   |
|    | 13 | 競技者のコンディショニング         | 1 筋力増強・俊敏制訓練等が実施できる。                     | 実技   |
|    | 14 | 半期のまとめ                | 1 後療法の概要・手技療法を体得できる。                     | 実技   |
|    | 15 | 期末(到達目標達成確認)試験        | 1 臨床的実践において想定される様々な事象の問題点を見いだし、「気付き」を得る。 | 試験   |
|    | 16 | 追再試験および総括             |  | 試験   |
|    |    | リンパ浮腫の概説              | 1 リンパ浮腫に対する施術概要を説明でき                     | 企業連携 |

【分野】 専門分野 柔道整復実技

【科目】 総合柔道整復演習(救急蘇生法演習)

## 【基本情報】

|      |      |         |               |      |
|------|------|---------|---------------|------|
| 配当年次 | 1 学年 | 担当教員    | くどう だいすけ      |      |
| 単位数  | 1 単位 |         | 工藤 大介 (実務経験有) |      |
| 開講学期 | 後期   | 授業形態・回数 | 講義            | 16 回 |

## 【授業情報】

|               |  |
|---------------|--|
| 授業概要          | 接骨院勤務をしていた経験や、応急手当普及員の資格を有しており、その経験をいかして BLS (一次救命処置) の基本について教授していく。学生はこの授業を通じて、医療従事者にふさわしい知識と技術を修得する。また、医療・スポーツ現場等で発生しうる運動器外傷の応急手当に必要な知識と技術も修得する。 |
| 授業の一般目標 (G10) | BLS (一次救命処置) の意義とその流れについて理解し自信を持って実践できる。<br>成人と乳児・小児の BLS の違いについて理解し実践できる。<br>様々な外傷に対する正しい知識と処置法を実践できる。<br>必要に応じて安全を図るために疾病者の運搬を適切に行える。            |

## 【担当教員から】

|              |  |
|--------------|--|
| 教科書          | 「柔道整復師のための救急医学」 (社) 全国柔整学校協会監修 (株) 南江堂   |
| 参考書          | 「救急隊員標準テキスト」改訂第9版 救急救命士標準テキスト編集委員会 (株) へ   |
| 成績評価基準       | 定期試験: シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題(レポート・小テスト等): レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。<br>観察記録: 技能・態度・習慣を観察して適宜記録し判定資料とする。  |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準 (評価割合(%))<br>期末(到達目標達成確認) 試験成績 --- 90%<br>(課題等を行わなかった場合は 95%)<br>観察記録 ----- 5%<br>課題等 ----- 5% (課題等を行った場合の加算割合)  |
| 履修の条件<br>留意点 | 期末(到達目標達成確認) 試験、課題・観察記録の評価を合計して 60% 以上で履修とする。<br>この科目は専門分野・柔道整復実技・救急蘇生法演習(総合柔道整復演習)の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の 70% 以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。  |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容 (担当者からのメッセージ)<br>近年、AED の普及とともに一般市民の間でも BLS を身に付けようという機運が急速に高まっている。医療従事者である柔道整復師は地域医療の現場ではむしろそのリーダーとして活躍できるようでなければなりません。<br>現場に遭遇して実際に動けるかどうかはひとえに「自信」にかかっています。自信は正しい知識と技術を反復練習することで初めて身につくものだと思われ、積極的・能動的に授業に関わって欲しいと思います。 |
| オフィスアワー      | 授業開講日の 9:00~21:00 (3階 教員室)   |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容                  | 到達目標 (SBOs)                             | 講義形態 |
|----|----|-----------------------|---|------|
| 前期 | 1  | 柔道整復師における救急蘇生法の意義     | 1 救命処置の意義を理解する。                         | 講義   |
|    | 2  | 現場で行う救命処置の重要性         | 2 救命処置の必要性・重要性を理解する。                    | 講義   |
|    | 3  | 傷病者とのファーストコンタクト       | 3 突然死に繋がる疾病を理解する。                       | 講義   |
|    | 4  | BLS (一次救命処置) (1)      | 1 周囲の安全確認の必要性が理解できる。                    | 講義   |
|    | 5  | BLS (一次救命処置) (2)      | 2 意識レベルの確認、周囲への応援要請(119番通報・AEDの要請)ができる。 | 講義   |
|    | 6  | BLS (一次救命処置) (3)      | 3 気道確保・呼吸の確認・人工呼吸の必要性を理解できる。            | 講義   |
|    | 7  | BLS (一次救命処置) (4)      | 4 胸骨圧迫・AEDを用いた除細動の必要性を理解できる。            | 講義   |
|    | 8  | BLS (一次救命処置) (5) 実技演習 | 1 周囲の安全確認ができる。                          | 実技   |
|    | 9  | BLS (一次救命処置) (6) 実技演習 | 2 反応の確認・気道確保ができる。                       | 実技   |
|    | 10 | BLS (一次救命処置) (7) 実技演習 | 3 人工呼吸・胸骨圧迫ができる。                        | 実技   |
|    | 11 | 実技(到達目標達成確認)試験 (BLS)  | 4 AEDを適切に使用できる。                         | 試験   |
|    | 12 | 子どものBLS・気道異物除去        | 5 救急隊員に正確に申し送りができる。                     | 試験   |
|    | 13 | 応急手当 傷病者管理・止血法        | 1 成人と小児のBLSの相違点を理解する。                   | 講義   |
|    | 14 | 応急手当 固定法・運搬法          | 2 傷病者の管理(体位・保温)を理解する。                   | 講義   |
|    | 15 | 応急手当 外傷の手当て           | 3 代表的な止血法を理解する。                         | 講義   |
|    | 16 | 期末(到達目標達成確認)試験        | 4 外傷(創傷)に対しての応急処置ができる。                  | 試験   |
|    |    | 5 傷病者を安全な場所に移すことができる。 | 講義                                      |      |
|    |    | 6 気道異物除去の技術を習得する。     | 講義                                      |      |

【分野】 専門分野 臨床実習

【科目】 臨地実習 I (事業所実習 I)

## 【基本情報】

|      |       |         |              |      |
|------|-------|---------|--------------|------|
| 配当年次 | 1 学年  | 担当教員    |              |      |
| 単位数  | 1 単位  |         | 各事業所の臨床実習指導者 |      |
| 開講学期 | 前期・後期 | 授業形態・回数 | 実習           | 23 回 |

## 【授業情報】

|               |  |
|---------------|--|
| 授業概要          | 認定された実習施設において臨床実習指導者が、臨床現場での実習を教授する。全体として患者に対する接遇、安全性・清潔保持の重要性を各実習先事業所の実習を通して体験する。実習先事業所として大きく 2 分野の事業所に実習に行く形態をとり、自分自身の将来像の形成にも役立つ。 |
| 授業の一般目標 (G10) | 実際の臨床現場で習熟した医師や柔道整復師の患者の状態に即した対応を見学し、専門的思考過程を展開する経験を知る。柔道整復の臨床現場に必要な救急の知識及び技能を修得する。医師・開業柔道整復師の実態を知り、自身の柔道整復師観を形成する。                  |

## 【担当教員から】

|              |   |
|--------------|---|
| 教科書          |   |
| 参考書          |   |
| 成績評価基準       | 1) 事業所評価：シラバスで明示した到達目標を基本とし、第三者（実習指導者）が、客観的に達成できているかを実習評価表の項目に則り評価する。<br>2) 実習レポート・デイリーノート・ポートフォリオ：ルーブリック評価を用いて評価する。  |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準（評価割合 (%)）<br>事業所評価表----- 50 %<br>実習レポート----- 30 %<br>デイリーノート・ポートフォリオ----- 20 %  |
| 履修の条件<br>留意点 | 事業所評価・実習レポート・デイリーノート・ポートフォリオの評価を合計して 60 % 以上で履修とする。この科目は専門分野・臨床実習・臨地実習 I の単位として認定されます。なお、本科目は、実習の 100 % の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、実習の出欠には充分注意してください。                         |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）<br>外部の事業所に出向く際の目的を明確にし、実際の業務内容と柔道整復師を目指す者として今後必要となるものは何かを見つけ、認識してもらうことが必要となります。また、将来を見据えて、各事業所の臨床実習指導者の指導により様々なことを経験、吸収し、自身の柔道整復師観を形成して下さい。 |
| オフィスアワー      |   |



ILLUSTRATION © ROBIN KOPPEL

【授業計画】

| 学期       | 回数 | 講義内容                | 到達目標 (SBOs)  | 講義形態 |
|----------|----|---------------------|--|------|
| 前期<br>後期 | 1  | 患者対応の実際Ⅰ（各事業所臨地実習Ⅰ） | 1 実習先へ出向く際の目的を明確化できる。<br>2 時間の管理が出来る。<br>3 柔道整復師を目指す者としてふさわしい身なり、行動ができる。<br>4 各事業所スタッフや患者と良好な人間関係を築くことが出来る。<br>5 困難な問題は指導者に適切に相談することができる。<br>6 守秘義務・個人情報の管理が出来る。<br>7 診療前の準備が出来る。<br>8 受付業務の流れが分かる。<br>9 診療業務の補助が出来る。<br>10 患者とのコミュニケーションがとれる。<br>11 患者の安全を確保する方法を示せる。 | 実習   |
|          | 2  | 患者対応の実際Ⅰ（各事業所臨地実習Ⅰ） |  | 実習   |
|          | 3  | 患者対応の実際Ⅰ（各事業所臨地実習Ⅰ） |  | 実習   |
|          | 4  | 患者対応の実際Ⅰ（各事業所臨地実習Ⅰ） |  | 実習   |
|          | 5  | 患者対応の実際Ⅰ（各事業所臨地実習Ⅰ） |  | 実習   |
|          | 6  | 患者対応の実際Ⅰ（各事業所臨地実習Ⅰ） |  | 実習   |
|          | 7  | 患者対応の実際Ⅰ（各事業所臨地実習Ⅰ） |  | 実習   |
|          | 8  | 患者対応の実際Ⅰ（各事業所臨地実習Ⅰ） |  | 実習   |
|          | 9  | 患者対応の実際Ⅰ（各事業所臨地実習Ⅰ） |  | 実習   |
|          | 10 | 患者対応の実際Ⅰ（各事業所臨地実習Ⅰ） |  | 実習   |
|          | 11 | 患者対応の実際Ⅰ（各事業所臨地実習Ⅰ） |  | 実習   |
|          | 12 | 患者対応の実際Ⅱ（各事業所臨地実習Ⅱ） | 1 実習先へ出向く際の目的を明確化できる。<br>2 時間の管理が出来る。<br>3 柔道整復師を目指す者としてふさわしい身なり、行動ができる。<br>4 各事業所スタッフや患者と良好な人間関係を築くことが出来る。<br>5 困難な問題は指導者に適切に相談することができる。<br>6 守秘義務・個人情報の管理が出来る。<br>7 診療前の準備が出来る。<br>8 受付業務の流れが分かる。<br>9 診療業務の補助が出来る。<br>10 患者とのコミュニケーションがとれる。<br>11 患者の安全を確保する方法を示せる。 | 実習   |
|          | 13 | 患者対応の実際Ⅱ（各事業所臨地実習Ⅱ） |  | 実習   |
|          | 14 | 患者対応の実際Ⅱ（各事業所臨地実習Ⅱ） |  | 実習   |
|          | 15 | 患者対応の実際Ⅱ（各事業所臨地実習Ⅱ） |  | 講義   |
|          | 16 | 患者対応の実際Ⅱ（各事業所臨地実習Ⅱ） |  | 実習   |
|          | 17 | 患者対応の実際Ⅱ（各事業所臨地実習Ⅱ） |  | 実習   |
|          | 18 | 患者対応の実際Ⅱ（各事業所臨地実習Ⅱ） |  | 実習   |
|          | 19 | 患者対応の実際Ⅱ（各事業所臨地実習Ⅱ） |  | 実習   |
|          | 20 | 患者対応の実際Ⅱ（各事業所臨地実習Ⅱ） |  | 実習   |
|          | 21 | 患者対応の実際Ⅱ（各事業所臨地実習Ⅱ） |  | 実習   |
|          | 22 | 患者対応の実際Ⅱ（各事業所臨地実習Ⅱ） |  | 実習   |
|          | 23 | 患者対応の実際Ⅱ（各事業所臨地実習Ⅱ） |  | 実習   |

【分野】 基礎分野 科学的思考の基盤人間と生活

【科目】 総合基礎Ⅱ(化学)

## 【基本情報】

|      |      |         |          |      |
|------|------|---------|----------|------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員    | ねぎし ひでゆき |      |
| 単位数  | 2 単位 |         | 根岸 秀幸    |      |
| 開講学期 | 前期   | 授業形態・回数 | 講義       | 15 回 |

## 【授業情報】

|               |  |
|---------------|--|
| 授業概要          | 元素名と元素記号、さらに化学式を学び、物質の構造、状態変化・化学変化と物理変化の相違を説明できるように展開していく。また、生理学に結びつける事を念頭におき、酸性・アルカリ性とpHや無機化合物と有機化合物の相違も講義に取り入れて行く。 |
| 授業の一般目標 (G10) | まず、物質の性質やいろいろな反応などについての基礎的な化学知識を身につける。そして、専門基礎分野並びに専門分野へ繋がる幅広い知識を修得する。   |

## 【担当教員から】

|              |   |
|--------------|---|
| 教科書          |   |
| 参考書          | 改訂版 視覚でとらえる「フォトサイエンス 化学図録」数研出版編集部 編著  |
| 成績評価基準       | 定期試験: シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題(レポート・小テスト等): レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。   |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準(評価割合(%))<br>期末(到達目標達成確認)試験成績-----95%<br>(課題等を行わなかった場合は100%)<br>課題等-----5% (課題等を行った場合の加算割合)  |
| 履修の条件<br>留意点 | 期末(到達目標達成確認)試験、課題の評価を合計して60%以上で履修とする。<br>この科目は基礎分野・科学的思考の基盤人間と生活・化学の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。 |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ)<br>授業後は復習の習慣をつけることが大事であります。予習→授業→復習のサイクルを守るように。分らない事をそのままにしないで、きちんと学習して、基礎的な知識を身につけましょう。                              |
| オフィスアワー      | 授業開講日の9:15~12:40 3F職員室  |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容                           | 到達目標 (SBOs)            | 講義形態               |
|----|----|--------------------------------|------------------------|--------------------|
| 前期 | 1  | サイエンスと化学(数値精度, 単位)             | 元素名と元素記号、さらに化学式を記述できる。 | 講義                 |
|    | 2  | 元素・原子・分子(原子の構造)                |                        | 講義                 |
|    | 3  | 物質の構成と化学結合(物質の構成, 化学結合)        | 物質の構成や構造を説明できる。        | 講義                 |
|    | 4  | 物質の状態(1)(状態の定義)                | 物質の状態変化を説明できる。         | 講義                 |
|    | 5  | 物質の状態(2)(気体, 液体, 固体)           |                        | 講義                 |
|    | 6  | 溶液の化学(1)(溶液の定義, 濃度)            | 化学変化と物理変化の相違を説明できる。    | 講義                 |
|    | 7  | 溶液の化学(2)(溶液の性質)                |                        | 講義                 |
|    | 8  | コロイド化学(1)(コロイド溶液の定義)           |                        | 講義                 |
|    | 9  | コロイド化学(2)(コロイド溶液の性質)           |                        | 講義                 |
|    | 10 | 酸と塩基(1)(酸と塩基の定義)               |                        | 酸性・アルカリ性とpHを説明できる。 |
|    | 11 | 酸と塩基(2)(pHの定義, 中和反応)           | 講義                     |                    |
|    | 12 | 酸と塩基(3)(緩衝溶液)                  | 講義                     |                    |
|    | 13 | 酸化と還元(酸化還元反応の定義)               | 講義                     |                    |
|    | 14 | 有機化学(有機化合物とは何か)                | 無機・有機化合物の相違を説明できる。     | 講義                 |
|    | 15 | 高分子化学(高分子化合物とは何か)・試験(到達目標達成確認) |                        | 講義・試験              |

## 【科目】 総合基礎Ⅱ(医用英語Ⅰ)

## 【基本情報】

|      |      |         |          |      |
|------|------|---------|----------|------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員    | やまかわ よりこ |      |
| 単位数  | 2 単位 |         | 山川 より子   |      |
| 開講学期 | 前期   | 授業形態・回数 | 講義       | 15 回 |

## 【授業情報】

|               |  |
|---------------|--|
| 授業概要          | 教科書を中心にする。授業の内容を理解した上で、ペアワークやグループワークも取り入れて、外国人の患者とコミュニケーションをはかる練習をする。  |
| 授業の一般目標 (G10) | グローバルな時代を迎え、医療の現場でも外国人と接する機会が増えてきている。また、最新の医学論文は英文で記されていることが多い。コミュニケーションの手段と医学知識の吸収のためにも、医療の現場で用いられる、英語の専門用語や表現を十分理解し修得する。 |

## 【担当教員から】

|              |   |
|--------------|---|
| 教科書          | 「鍼灸師、柔道整復師、受付係のための英会話入門 第2版」(山川より子 著)   |
| 参考書          |   |
| 成績評価基準       | 定期試験:シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。  |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準(評価割合(%))<br>期末(到達目標達成確認)試験成績-----95%<br>(課題等を行わなかった場合は100%)<br>課題等-----5%(課題等を行った場合の加算割合)   |
| 履修の条件<br>留意点 | 期末(到達目標達成確認)試験、課題の評価を合計して60%以上で履修とする。<br>この科目は基礎分野・科学的思考の基盤人間と生活・医用英語Ⅰの単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為に、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。 |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ)<br>ペアワークやグループワークに積極的に参加すること。授業後は復習の習慣をつけることが大事であります。予習→授業→復習のサイクルを守るように。  |
| オフィスアワー      | 授業開講日の9:15~21:10 3F職員室  |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容  | 到達目標 (SBOs)                        | 講義形態  |
|----|----|---|------------------------------------|-------|
| 前期 | 1  | 講義概要, 自己紹介, ①Parts of the Body (1)            | 医療現場の英語に習熟し、またそれを臨床の場面などで使うことが出来る。 | 講義    |
|    | 2  | ①Parts of the Body (2)                        |                                    | 講義    |
|    | 3  | ②In the Clinic etc. 1. Appointment            |                                    | 講義    |
|    | 4  | ②2. At the entrance                           |                                    | 講義    |
|    | 5  | ②3. At the reception desk                     |                                    | 講義    |
|    | 6  | ②4. Preliminary examination                   |                                    | 講義    |
|    | 7  | ②5. In the consultation room                  |                                    | 講義    |
|    | 8  | ②6. At the cashier                            |                                    | 講義    |
|    | 9  | ③Useful Expressions. 1. Pain; Ache; Sore      |                                    | 講義    |
|    | 10 | ③2. Instructions                              |                                    | 講義    |
|    | 11 | Strengthening of Muscle to Backache           |                                    | 講義    |
|    | 12 | Everyday Ways to Lower-back Pain              |                                    | 講義    |
|    | 13 | Stretching for Elderly③3. Diagnosis           |                                    | 講義    |
|    | 14 | ③4. The cause of ache or pain/復習/試験(到達目標達成確認) |                                    | 講義・試験 |
|    | 15 | 試験解説  |                                    | 講義    |

## 【科目】 総合基礎Ⅱ(医用英語Ⅱ)

## 【基本情報】

|      |      |         |          |      |
|------|------|---------|----------|------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員    | やまかわ よりこ |      |
| 単位数  | 2 単位 |         | 山川 より子   |      |
| 開講学期 | 後期   | 授業形態・回数 | 講義       | 15 回 |

## 【授業情報】

|               |  |
|---------------|--|
| 授業概要          | 教科書を中心にする。授業の内容を理解した上で、ペアワークやグループワークも取り入れて、外国人の患者とコミュニケーションをはかる練習をする。  |
| 授業の一般目標 (G10) | グローバルな時代を迎え、医療の現場でも外国人と接する機会が増えてきている。また、最新の医学論文は英文で記されていることが多い。コミュニケーションの手段と医学知識の吸収のためにも、医療の現場で用いられる、英語の専門用語や表現を十分理解し修得する。 |

## 【担当教員から】

|              |  |
|--------------|--|
| 教科書          | 「鍼灸師、柔道整復師、受付係のための英会話入門 第2版」(山川より子 著)  |
| 参考書          |  |
| 成績評価基準       | 定期試験: シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。  |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準 (評価割合(%))<br>期末(到達目標達成確認) 試験成績----- 95%<br>(課題等を行わなかった場合は100%)<br>課題等----- 5% (課題等を行った場合の加算割合)   |
| 履修の条件<br>留意点 | 期末(到達目標達成確認) 試験、課題の評価を合計して60%以上で履修とする。<br>この科目は基礎分野・科学的思考の基盤人間と生活・医用英語Ⅱの単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為に、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。 |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ)<br>ペアワークやグループワークに積極的に参加すること。授業後は復習の習慣をつけることが大事であります。予習→授業→復習のサイクルを守るように。   |
| オフィスアワー      | 授業開講日の9:15~21:10 3F職員室   |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容                                      | 到達目標 (SBOs)                        | 講義形態  |
|----|----|---|------------------------------------|-------|
| 前期 | 1  | ③Useful Expressions 5. Symptoms           | 医療現場の英語に習熟し、またそれを臨床の場面などで使うことが出来る。 | 講義    |
|    | 2  | ③6. Checks & treatment (1)                |                                    | 講義    |
|    | 3  | ③6. Checks & treatment (2) 7. After 6.    |                                    | 講義    |
|    | 4  | Basic Stretching Exercise for the Knees   |                                    | 講義    |
|    | 5  | ⑥Expressions 1. Fracture 2. Dislocation   |                                    | 講義    |
|    | 6  | ⑥3. Sprain, strain, twist, wrench; crick  |                                    | 講義    |
|    | 7  | ⑥4. Injury, contusion[bruise]etc.         |                                    | 講義    |
|    | 8  | Exercises to Maintain Suppleness          |                                    | 講義    |
|    | 9  | ⑥5. Judotherapy words (1-4)               |                                    | 講義    |
|    | 10 | ⑥5 (5-8) physical test words and phrases  |                                    | 講義    |
|    | 11 | ⑦Case Studies. Sprained Ankle and Pain(1) |                                    | 講義    |
|    | 12 | ⑦Case Studies. Sprained Ankle and Pain(2) |                                    | 講義    |
|    | 13 | ⑦Case Studies. A Torn Achilles Tendon     |                                    | 講義    |
|    | 14 | 復習/試験(到達目標達成確認)                           |                                    | 講義・試験 |
|    | 15 | 試験解説                                      |                                    | 講義    |

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 人体構造学Ⅱ

## 【基本情報】

|      |                |         |           |      |
|------|----------------|---------|-----------|------|
| 配当年次 | 2 学年           | 担当教員    | なかかわじ けんじ |      |
| 単位数  | 3 単位           |         | 中川路 健司    |      |
| 開講学期 | 1 学期・2 学期・3 学期 | 授業形態・回数 | 講義        | 36 回 |

## 【授業情報】

|               |   |
|---------------|---|
| 授業概要          | 解剖学を学ぶ意義を理解して、人体の部位に関する正しい用語が使用でき、各器官系における特徴・作用について理解する。また各器官系の関連についても行っていく。臨床科目と結びつくように内分泌系・神経系・感覚器系・脈管系の構造を主体に展開していく。 |
| 授業の一般目標 (G10) | 内分泌系・神経系・感覚器系・脈管系の正常な構造と体表解剖が主体となるが、形態と作用を一括して理解し、説明することができる。最終的には構造と機能をリンクして解剖学を動的に理解し、特徴を簡潔に述べるができる。                  |

## 【担当教員から】

|              |   |
|--------------|---|
| 教科書          | 「解剖学」 改訂第2版(社)全国柔整学校協会監修 (株) 医歯薬出版  |
| 参考書          | 人体系統解剖学(南山堂) 吉川文雄著 スネル ー臨床解剖学ー  |
| 成績評価基準       | 定期試験: シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題(レポート・小テスト等): レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。   |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準(評価割合%)<br>期末(到達目標達成確認)試験成績(年度末試験含む) --- 95%<br>(課題等を行わなかった場合は100%)<br>課題等----- 5% (課題等を行った場合の加算割合)  |
| 履修の条件<br>留意点 | 期末(到達目標達成確認)試験、課題の評価を合計して60%以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門基礎分野・人体の構造と機能・人体構造学Ⅱの単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為に、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。                       |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ)<br>授業では系統解剖学を主体に行い、同時に局所解剖学ならびに臨床解剖学的観点も加味して講義していきます。授業後は復習の習慣をつけることが大事であります。予習→授業→復習のサイクルを守るように。<br>・解剖学はもっとも基本となる科目であるため、授業の予習・復習をして授業に臨むなど、積極的な学習態度が望まれます。 |
| オフィスアワー      | 授業開講日の9:15~12:40 3F職員室  |



【授業計画】

| 学期 | 回数               | 講義内容                  | 到達目標 (SBOs)  | 講義形態                                 |    |
|----|------------------|-----------------------|--|--------------------------------------|----|
| 1期 | 1                | 心・血管系の構成とリンパ系         | 1 循環器系の構成を説明できる。   | 講義                                   |    |
|    | 2                | 心臓の構造・刺激伝導系・機能血管・栄養血管 | 2 血液循環とリンパの循環の連続性を図示できる。   | 講義                                   |    |
|    | 3                | 頭頸部の動脈                | 1 主要血管の走行と分布を提示できる。<br>2 免疫系の要素である骨髄、脾臓、胸腺と免疫担当細胞の概略を説明できる。<br>3 循環調節に関わる神経との関連を説明できる。 | 講義                                   |    |
|    | 4                | 上肢の動脈                 |  | 講義                                   |    |
|    | 5                | 胸腹部の動脈                |  | 講義                                   |    |
|    | 6                | 下肢と骨盤の動脈              |  | 講義                                   |    |
|    | 7                | 上大静脈とその根、奇静脈          |  | 講義                                   |    |
|    | 8                | 門脈系、下大静脈とその根 下肢と骨盤の静脈 |  | 講義                                   |    |
|    | 9                | 胎児循環 リンパ系             |  | 講義                                   |    |
|    | 10               | 内分泌系総論 松果体・下垂体・甲状腺    |  | 1 内分泌系構成臓器が挙げられる。<br>2 解剖学的位置を図示できる。 | 講義 |
|    | 11               | 上皮小体・副腎・膵臓・性腺         |  | 3 各臓器の機能の概略が説明できる。                   | 講義 |
|    | 12               | 1期期末(到達目標達成確認)試験      |  | 試験                                   |    |
| 2期 | 13               | 1期試験解説解答 神経系概要・神経系の構成 | 1 中枢神経系の外観と区分を図示できる。   | 講義                                   |    |
|    | 14               | 中枢神経と末梢神経             | 2 ニューロンの概念図を書き、シナプスや運動終板の概略を図示できる。   | 講義                                   |    |
|    | 15               | ニューロン・シナプス            | 講義   |                                      |    |
|    | 16               | 大脳の内部構造とその意義          | 1 脳の外形と区分を描くことが出来る。  | 講義                                   |    |
|    | 17               | 基底核・大脳皮質の線維的連絡の概念     | 2 脳の機能局在の概略を説明できる。   | 講義                                   |    |
|    | 18               | 脳幹の部位と区分、内部構造         | 3 脳幹の部位と区分・内部構造の概略が説明できる。  | 講義                                   |    |
|    | 19               | 下垂体と視床の内景、神経核、伝導路     | 4 中脳外形と神経核の概略が説明できる。   | 講義                                   |    |
|    | 20               | 神経核・伝導路               | 5 橋と延髄の神経核、伝導路の概略が説明できる。   | 講義                                   |    |
|    | 21               | 中脳と神経核・松果体、四丘体、伝導路    | 6 小脳の外形と区分を描ける。  | 講義                                   |    |
|    | 22               | 橋と延髄、その内景と神経核、伝導路     | 7 基底核と大脳皮質の線維的連絡の概略が説明できる。   | 講義                                   |    |
|    | 23               | 小脳の外形と内景、神経核と神経線維の連絡  | 8 神経系と内分泌系の神経線維による連絡の概略が説明できる。   | 講義                                   |    |
|    | 24               | 2期期末(到達目標達成確認)試験      |  | 試験                                   |    |
| 3期 | 25               | 2期期末試験の解説・解答 脳神経Ⅰ～Ⅵ   | 1 脳神経の名称、起始核、走行、頭蓋骨の通過部を挙げ説明できる。   | 講義                                   |    |
|    | 26               | 脳神経Ⅶ～Ⅻ                | 2 経過中の神経節の所在、分布を挙げ説明できる。   | 講義                                   |    |
|    | 27               | 脊髄・脊髄神経               | 3 各脳神経の性状と機能が説明できる。  | 講義                                   |    |
|    | 28               | 感覚器 外皮                | 1 感覚器の種類を挙げ、機能の概略を説明できる。   | 講義                                   |    |
|    | 29               | 視覚器                   | 2 特殊感覚器の構造概略を図示できる。  | 講義                                   |    |
|    | 30               | 聴覚器および平衡器             | 3 受容器の構造と求心神経路を示せる。  | 講義                                   |    |
|    | 31               | 味覚器                   | 4 筋、腱、内臓に存在する感覚受容器の種類、部位、  | 講義                                   |    |
|    | 32               | 体幹の体表解剖               | 1 体表から触察できる骨、筋について説明できる。   | 講義                                   |    |
|    | 33               | 上肢の体表解剖               | 2 拍動に触れる動脈を示せる。  | 講義                                   |    |
|    | 34               | 下肢の体表解剖               | 3 圧痛点と神経麻痺の好発部位について説明できる。  | 講義                                   |    |
|    | 35               | 3期期末(到達目標達成確認)試験      |  | 試験                                   |    |
| 36 | 3期期末試験の解説・解答 まとめ |                       | 講義   |                                      |    |
| 37 | 年度末試験            |                       | 試験   |                                      |    |

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 人体機能学Ⅱ

## 【基本情報】

|      |             |         |          |      |
|------|-------------|---------|----------|------|
| 配当年次 | 2 学年        | 担当教員    | はしぐち としお |      |
| 単位数  | 3 単位        |         | 橋口 利雄    |      |
| 開講学期 | 1学期・2学期・3学期 | 授業形態・回数 | 講義       | 36 回 |

## 【授業情報】

|               |  |
|---------------|--|
| 授業概要          | 性分化の仕組みと女性生殖器のホルモンによる周期的変化男性生殖器では精子形成の仕組み、心臓と血管の構造と機能および循環調節の仕組み、カルシウム代謝に関与する各種ホルモンの働き、神経興奮の発生と伝導の仕組み・機能別に異なる神経の各組織や器官の協調による統制機能の仕組みに対しての関わり方、筋肉の構造と興奮収縮連関の仕組み |
| 授業の一般目標 (G10) | 人体構造の成り立ちと機能を関連付けて考え、各臓器・器官・器官系の働きとその調節機序を理解する。  |

## 【担当教員から】

|              |  |
|--------------|--|
| 教科書          | 「生理学」 改訂第3版(社)全国柔整学校協会監修 南江堂   |
| 参考書          | ガイトン生理学 原著第13版 (エルゼビアジャパン)   |
| 成績評価基準       | 定期試験: シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題(レポート・小テスト等): レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。  |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準(評価割合%)<br>期末(到達目標達成確認)試験成績(年度末試験含む) --- 95%<br>(課題等を行わなかった場合は100%)<br>課題等 --- 5% (課題等を行った場合の加算割合)  |
| 履修の条件<br>留意点 | 期末(到達目標達成確認)試験、課題の評価を合計して60%以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門基礎分野・人体の構造と機能・人体機能学Ⅱの単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為に、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。        |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ)<br>・予習→復習→復習のサイクルを守るように。<br>・授業では、板書をノートに写すだけでなく話をよく聞き書きとどめる。<br>・外傷や疾患を知る上で必要となる科目であるので、予習・復習をして授業に臨んだり、理解の浅い項目に対して担当者に質問するなど、積極的な学習姿勢が望まれます。 |
| オフィスアワー      | 授業開講日の9:15~12:40 3F職員室   |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容                 | 到達目標 (SBOs)                         | 講義形態 |
|----|----|----------------------|-------------------------------------|------|
| 1期 | 1  | 腎臓の構造と役割             | 1 腎臓と糸球体の機能が説明でき、ろ過されるものを区別できる。     | 講義   |
|    | 2  | ろ過・再吸収・分泌            | 2 尿細管の各部位の機能的特徴と各部位で再吸される物質を挙げられる。  | 講義   |
|    | 3  | 尿の組成 排尿              | 3 排尿の仕組みを説明ができる。                    | 講義   |
|    | 4  | 神経系の機能 伝導と伝達         |                                     | 講義   |
|    | 5  | 神経系の分類と機能            | 1 神経系を機能別に分類でき、その働きが説明できる。          | 講義   |
|    | 6  | 自律神経の機能              | 2 自律神経の解剖学的特徴と両者の機能面の相違を説明できる。      | 講義   |
|    | 7  | 自律神経の内臓支配・内臓反射       |                                     | 講義   |
|    | 8  | 筋肉の構造と機能、筋の特徴の比較     | 1 骨格筋の構造を説明できる。                     | 講義   |
|    | 9  | 神経 筋接合部と終板電位         | 2 筋収縮の仕組みが説明できる。                    | 講義   |
|    | 10 | 興奮収集連関と収縮の様式         | 3 骨格筋収縮様式と特徴が説明できる。                 | 講義   |
|    | 11 | 筋収縮の代謝・エネルギー         | 4 筋収縮にATPがどのように関わっているかを説明できる。       | 講義   |
|    | 12 | 1期期末(到達目標達成確認)試験     | 5 骨格筋、心筋、平滑筋のそれぞれの特徴が説明できる。         | 試験   |
| 2期 | 13 | 1期試験の解説・解答           |                                     | 講義   |
|    | 14 | 脊髄反射・固有受容器による感覚を含む   |                                     | 講義   |
|    | 15 | 脳幹の反射、内耳の前庭感覚        |                                     | 講義   |
|    | 16 | 小脳の機能 皮質-小脳ループ       |                                     | 講義   |
|    | 17 | 基底核の機能 皮質-基底核ループ     | 1 小脳と大脳基底核の機能を説明できる                 | 講義   |
|    | 18 | 新皮質運動野の機能・新皮質の機能分化   | 2 大脳皮質の機能局在を説明できる。                  | 講義   |
|    | 19 | サーカディアンリズムと睡眠        | 3 脳波を分類し、特徴が説明できる。                  | 講義   |
|    | 20 | 新皮質の機能 記憶と学習         | 4 レム・ノンレム睡眠を説明できる。                  | 講義   |
|    | 21 | 新皮質運動野の機能・新皮質の機能分化   | 5 連合野の関係・働きが説明できる。                  | 講義   |
|    | 22 | 興奮発生の仕組み イオンチャネル     | 1 静止膜電位・活動電位の発生が説明できる。              | 講義   |
|    | 23 | 強さ-時間曲線・興奮の伝導        | 2 興奮伝導の特徴が説明できる。                    | 講義   |
|    | 24 | 2期期末(到達目標達成確認)試験     |                                     | 講義   |
| 3期 | 25 | 2期期末試験の解説・解答         |                                     | 講義   |
|    | 26 | 感覚系の構成と機能、一般法則       | 1 感覚の種類を想起し説明できる。                   | 講義   |
|    | 27 | 体性感覚、味覚と嗅覚           | 2 皮膚感覚・深部感覚・内臓感覚の特徴が説明できる。          | 講義   |
|    | 28 | 視覚・聴覚・感覚のまとめ         | 3 味覚・嗅覚・視覚・聴覚の発生機序が説明できる。           | 講義   |
|    | 29 | 内分泌腺 ホルモンの一般的性質      |                                     | 講義   |
|    | 30 | 視床下部・下垂体・甲状腺のホルモン    | 1 内分泌およびホルモンの特性が説明できる。              | 講義   |
|    | 31 | 副腎皮質・副腎髄質・膵臓のホルモン    | 2 ホルモン分泌の調節の仕組みが説明できる。              | 講義   |
|    | 32 | 精巣・卵巣のホルモン           | 3 各ホルモンの名前・作用・分泌調節の仕組みが説明できる。       | 講義   |
|    | 33 | 性染色体・性分化・男性生殖器・女性生殖器 | 1 性分化・精子形成の仕組みが説明できる。               | 講義   |
|    | 34 | 性周期・妊娠と分娩            | 2 卵巣周期と月経周期の成り立ちと関連するホルモンの関係を説明できる。 | 講義   |
|    | 35 | 骨の生理学・カルシウム代謝のホルモン   | 3 妊娠と分娩の仕組みが説明できる。                  | 講義   |
|    | 36 | 3期期末(到達目標達成確認)試験     | 1 各カルシウム代謝に対する働きを説明できる。             | 試験   |
|    | 37 | 年度末試験                |                                     | 試験   |

【分野】 専門基礎分野 疾病と傷害

【科目】 疾病の成り立ち

## 【基本情報】

|      |             |         |          |      |
|------|-------------|---------|----------|------|
| 配当年次 | 2 学年        | 担当教員    | やまもと ひろし |      |
| 単位数  | 3 単位        |         | 山本 寛     |      |
| 開講学期 | 1学期・2学期・3学期 | 授業形態・回数 | 講義       | 36 回 |

## 【授業情報】

|               |   |
|---------------|---|
| 授業概要          | 病理学とは疾病の成り立ちを理解する学問である。<br>疾病の成り立ちの内容は病理学総論であり、病理学の意義、疾病の一般、病因、退行性病変、循環障害、進行性変性、炎症の各分野について学ぶ。                     |
| 授業の一般目標 (G10) | 臨床に通じる病理学として、内科的疾患の診断と治療学・臨床柔道整復学・外科的疾患の診断と治療学・運動器疾患の診断と治療学等の臨床科目や、他の基礎医学系科目との関連を重視して、病気に関しての大まかな知識や概念を述べることができる。 |

## 【担当教員から】

|              |   |
|--------------|---|
| 教科書          | 病理学概論 関根一郎著 医歯薬出版   |
| 参考書          | 病理学 高橋 徹著 金原出版  |
| 成績評価基準       | 定期試験: シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題(レポート・小テスト等): レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。   |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準(評価割合(%))<br>期末(到達目標達成確認)試験成績(年度末試験含む) --- 95%<br>(課題等を行わなかった場合は100%)<br>課題等 --- 5% (課題等を行った場合の加算割合)   |
| 履修の条件<br>留意点 | 期末(到達目標達成確認)試験、課題の評価を合計して60%以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門基礎分野・疾病と傷害・疾病の成り立ちの単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。                |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ)<br>○授業では、ノートをとるだけでなく、話をよく聞くことに努めてください。<br>○疾病各論の基礎となる科目ですので、各論の理解のためにも十分な学習が必要です。そのためにも、教科書は講義内容が理解できるようによく読んで準備してください。また、普段から病気に関して興味を持つように心掛けてください。 |
| オフィスアワー      | 授業開講日の9:15~12:40 3F職員室  |



【授業計画】

| 学期 | 回数               | 講義内容                 | 到達目標 (SBOs)   | 講義形態 |
|----|------------------|----------------------|---|------|
| 1期 | 1                | 病理学について、病理学における観察方法  | 1 病理学の意義・方法を説明できる。  | 講義   |
|    | 2                | 疾病の意義と分類、経過、予後、転帰    | 1 疾病の分類を説明できる。<br>2 症候の意義を説明できる。  | 講義   |
|    | 3                | 内因①(素因と体質、遺伝・内分泌障害)  | 1 疾病の素因を大別し、疾病になりやすい状態を説明できる。<br>2 内因により起こる疾病と発生原因を関係づけることができる。<br>3 外因により起こる疾病と発生原因を関係づけることができる。 | 講義   |
|    | 4                | 内因②(免疫・心因性疾患)        |   | 講義   |
|    | 5                | 外因①(栄養素の供給障害)        |   | 講義   |
|    | 6                | 外因②(物理的病因作用・化学的病因作用) |   | 講義   |
|    | 7                | 外因③(生物学的病因作用)        |   | 講義   |
|    | 8                | 退行性病変①(定義・萎縮)        | 1 退行性病変(代謝障害)・萎縮・変性を分類し、原因を列挙できる。   | 講義   |
|    | 9                | 退行性病変②(変性・代謝障害・老化)   | 4 代謝障害と疾病との関係を述べることができる。  | 講義   |
|    | 10               | 退行性病変③(壊死・死)         | 5 老化の現象について説明できる。   | 講義   |
|    | 11               | まとめ                  | 6 壊死の定義・分類・転帰を説明できる。<br>7 死の定義・判定・変化を説明できる。   | 講義   |
|    | 12               | 2期期末(到達目標達成確認)試験     |   | 試験   |
| 2期 | 13               | 試験解説・循環障害①(充血・うっ血)   | 1 充血・うっ血・虚血・出血・血栓・塞栓・梗塞についての原因や分類、病態、転帰が説明できる。<br>2 浮腫や脱水症・高血圧症を説明できる。                            | 講義   |
|    | 14               | 循環障害②(虚血・貧血・出血)      |   | 講義   |
|    | 15               | 循環障害③(血栓症・塞栓・梗塞)     |   | 講義   |
|    | 16               | 循環障害④(浮腫・脱水症・高血圧症)   |   | 講義   |
|    | 17               | 進行性病変                | 1 肥大、過形成、再生、化生の概略および創傷治癒や組織内異物の処理を説明できる。  | 講義   |
|    | 18               | 創傷治癒、組織内異物の処理、移植     |   | 講義   |
|    | 19               | 炎症の一般・形態学的変化         | 1 炎症の原因や形態学的変化を類別できる。   | 講義   |
|    | 20               | 炎症の分類                | 2 炎症の分類を説明できる。  | 講義   |
|    | 21               | 免疫(抗原・抗体・液性免疫・細胞性免疫) | 1 免疫異常について説明できる。  | 講義   |
|    | 22               | 免疫不全                 |   | 講義   |
|    | 23               | まとめ                  |   | 講義   |
|    | 24               | 2期期末(到達目標達成確認)試験     |   | 試験   |
| 3期 | 25               | 試験解説、自己免疫疾患          | 1 アレルギーの発生機序によりI～V型に分類できる。  | 講義   |
|    | 26               | アレルギー                |   | 講義   |
|    | 27               | 腫瘍とは 肉眼的形態           | 1 腫瘍の定義・腫瘍細胞や良性と悪性の違いについて説明できる。<br>2 腫瘍の発生の機構が説明できる。<br>3 腫瘍の診断・治療・分類を説明できる。                      | 講義   |
|    | 28               | 腫瘍の発育諸段階・生体への影響      |   | 講義   |
|    | 29               | がんの外因・内因             |   | 講義   |
|    | 30               | 癌の診断と治療              |   | 講義   |
|    | 31               | 良性腫瘍                 |   | 講義   |
|    | 32               | 悪性腫瘍                 | 講義  |      |
|    | 33               | 先天性異常総論              | 1 単因子性遺伝疾患を説明できる。   | 講義   |
|    | 34               | 奇形の原因、奇形成立の時期・奇形の種類  | 2 多因子性遺伝疾患を説明できる。<br>3 奇形の原因・種類が説明できる。  | 講義   |
|    | 35               | 3期期末(到達目標達成確認)試験     |   | 試験   |
| 36 | 3期期末試験の解説・解答 まとめ |                      | 講義  |      |
| 37 | 年度末試験            |                      | 試験  |      |

【分野】 専門基礎分野 疾病と傷害

【科目】 運動器診断治療学

## 【基本情報】

|      |             |         |              |      |
|------|-------------|---------|--------------|------|
| 配当年次 | 2 学年        | 担当教員    | ありさわ おさむ     |      |
| 単位数  | 3 単位        |         | 有沢 治 (実務経験有) |      |
| 開講学期 | 1学期・2学期・3学期 | 授業形態・回数 | 講義           | 36 回 |

## 【授業情報】

|               |   |
|---------------|---|
| 授業概要          | 医師免許を有し、臨床現場での経験を活かして、主に整形外科学について教授する。整形外科診断学では診察法に始まり画像診断、血液検査、関節鏡検査などを紹介し、整形外科的治療法の保存療法、観血療法を紹介し柔道整復との相違点を説明していく。また、骨系統疾患、感染性疾患、神経筋系統疾患、腫瘍性疾患等の総論的内容に加え、体幹・上肢・下肢の疾患などを修得する。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 柔道整復は外傷による運動器損傷を取り扱うことを業務としているため、本科目では外傷以外の運動器疾患の診断と治療を中心に学習し、その類似性と相違について理解できる。併せて、外傷による運動器損傷についての整形外科的治療法を理解できることも目標とする。  |

## 【担当教員から】

|              |   |
|--------------|---|
| 教科書          | 整形外科学 南江堂   |
| 参考書          | 標準整形外科学<br>医学書院・神中整形外科 (天児 民和)<br>整形外科学・外傷学 (森崎 直木)<br>骨・関節の外傷 (ワトソンジョーンズ・柏木 大治訳)   |
| 成績評価基準       | 定期試験: シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題 (レポート・小テスト等): レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。  |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準 (評価割合 (%))<br>期末 (到達目標達成確認) 試験成績 (年度末試験含む) ——— 95 %<br>(課題等を行わなかった場合は 10<br>0 %)<br>課題等 ————— 5 % (課題等を行った場合の加算割合)  |
| 履修の条件<br>留意点 | 期末 (到達目標達成確認) 試験、課題の評価を合計して 60 % 以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門基礎分野・疾病と傷害・運動器診断治療学の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の 70 % 以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。   |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容 (担当者からのメッセージ)<br>○運動器損傷を取り扱う柔道整復師にとって整形外科学の知識は必要不可欠です。予習、復習は欠かさないこと。<br>○授業中はノートをとるだけでなく、内容をよく理解しながら聞くこと。<br>○分からないことがあったときは、すぐに解決するようにする。<br>○整形外科学では運動器損傷に対する治療法の柔道整復との相違点の学習、それぞれの疾患の特徴や症状・診断・治療などの理解を深めることを望みます。 |
| オフィスアワー      | 授業開講日の 13 : 15 ~ 15 : 00 3F職員室  |



【授業計画】

| 学期 | 回数               | 講義内容                  | 到達目標(SBOs)                                     | 講義形態 |
|----|------------------|-----------------------|--|------|
| 1期 | 1                | 整形外科の意義、内容、歴史         | 1 整形外科の意義、内容を説明できる。                            | 講義   |
|    | 2                | 骨の基礎知識・関節の基礎知識        | 1 運動器について図示、説明できる。                             | 講義   |
|    | 3                | 筋、神経の基礎知識             | 2 運動器の科学について述べるができる。                           | 講義   |
|    | 4                | 整形外科診察法①(姿勢・体型・計測法)   | 1 正常姿勢の特徴を示せる。                                 | 講義   |
|    | 5                | 整形外科診察法②(跛行・徒手検査法)    | 2 四肢計測・関節可動域・徒手筋力検査知覚反射検査の意義を説明し計測できる。         | 講義   |
|    | 6                | 検査の進め方・X線・CT撮影        | 3 跛行の種類と疾患を説明できる。                              | 講義   |
|    | 7                | 画像検査・骨密度測定・電気生理学的検査   | 4 整形外科の画像診断の種類と概略が説明できる。                       | 講義   |
|    | 8                | 関節鏡検査・超音波検査           | 5 整形外科領域の保存療法(薬物療法・包帯法・ギプス包帯)の種類、注意点と適応を示せる。   | 講義   |
|    | 9                | 保存療法・観血的治療 皮膚・関節の手術   | 6 骨・関節・軟部組織への観血療法と牽引療法の概略を説明できる。               | 講義   |
|    | 10               | 観血的治療 腱・神経・骨の手術       | 7 骨折の定義・症状・診断・治療・合併症が説明できる。                    | 講義   |
|    | 11               | 骨折総論・関節の損傷            | 8 捻挫・脱臼の損傷が説明できる。                              | 講義   |
|    | 12               | 1期期末(到達目標達成確認)試験      |  | 試験   |
| 2期 | 13               | 試験解説 スポーツ整形外科総論       | 1 スポーツと損傷及び障害との関連を説明できる。                       | 講義   |
|    | 14               | 代表的なスポーツ種目と特徴的な怪我     | 2 各スポーツの損傷を列挙できる。                              | 講義   |
|    | 15               | 学校体育の重症外傷・スポーツ外傷の特殊性  | 3 各損傷・障害への対応が説明できる。                            | 講義   |
|    | 16               | リハビリテーション総論①(変形)      | 1 変形(拘縮)・術後・上肢・スポーツのリハビリテーションについての概要や方法を説明できる。 | 講義   |
|    | 17               | リハビリテーション総論②(上肢・スポーツ) |  | 講義   |
|    | 18               | 感染性疾患①(骨髄炎)           | 1 主な感染性疾患を列挙できる。                               | 講義   |
|    | 19               | 感染性疾患②(結核・化膿性関節炎)     | 2 各疾患の特徴的な症状が説明できる。                            | 講義   |
|    | 20               | 骨腫瘍の診断・悪性腫瘍           | 3 各疾患の治療法が説明できる。                               | 講義   |
|    | 21               | 良性腫瘍・軟部腫瘍             | 1 主な骨・軟部組織腫瘍を列挙できる。                            | 講義   |
|    | 22               | 非感染性軟部・骨関節疾患①         | 2 各疾患の特徴的な症状が説明できる。                            | 講義   |
|    | 23               | 非感染性軟部・骨関節疾患②         | 3 各疾患の治療法が説明できる。                               | 講義   |
|    | 24               | 2期期末(到達目標達成確認)試験      |  | 試験   |
| 3期 | 25               | 試験解説 先天性骨系統疾患①        | 1 骨系統疾患の概略が説明できる。                              | 講義   |
|    | 26               | 先天性骨系統疾患②             | 2 治療法の概略が説明できる。                                | 講義   |
|    | 27               | 全身性の骨・軟部疾患            | 3 軟部組織疾患の概略が説明できる。                             | 講義   |
|    | 28               | 骨端症                   | 4 治療法の概略が説明できる。                                | 講義   |
|    | 29               | 末梢動脈疾患                | 1 骨端症の種類と発症部位、症状、鑑別、治療法が説明できる。                 | 講義   |
|    | 30               | 上肢・下肢の神経麻痺と絞扼性神経障害    | 1 末梢動脈疾患の概要が説明できる。                             | 講義   |
|    | 31               | 全身性神経・筋疾患・脊髄腫瘍・脊髄損傷   | 1 神経・筋系統疾患を挙げられる。                              | 講義   |
|    | 32               | 頸部・胸部・腰部の疾患           | 2 各疾患の症状を説明できる。                                | 講義   |
|    | 33               | 上肢の損傷                 | 3 関連する外傷との鑑別点が示せる。                             | 講義   |
|    | 34               | 下肢の損傷                 | 4 各疾患の治療法が説明できる。                               | 講義   |
|    | 35               | 3期期末(到達目標達成確認)試験      |  | 試験   |
| 36 | 3期期末試験の解説・解答 まとめ |                       | 講義   |      |
| 37 | 年度末試験            |                       | 試験   |      |

【分野】 専門基礎分野 疾病と傷害

【科目】 内科診断治療学

## 【基本情報】

|      |                |         |               |      |
|------|----------------|---------|---------------|------|
| 配当年次 | 2 学年           | 担当教員    | すぎやま ともひこ     |      |
| 単位数  | 3 単位           |         | 杉山 友彦 (実務経験有) |      |
| 開講学期 | 1 学期・2 学期・3 学期 | 授業形態・回数 | 講義            | 36 回 |

## 【授業情報】

|               |  |
|---------------|--|
| 授業概要          | 医師免許を有し、臨床現場での経験を活かし、主に内科学について教授する。学生はこの授業を通じて診察概論として医療面接・視診・触診・打診・聴診及び理学的検査の方法と各疾患におけるそれらの所見と重要な鑑別点を学習する。また、消化器疾患・呼吸器疾患・循環器疾患・血液疾患・代謝疾患・膠原病、内分泌疾患・腎、尿路疾患・遺伝性疾患・神経筋疾患等をジャンル別に、それに属する疾患の病因、臨床症状、検査所見、治療法の概要などを修得する。 |
| 授業の一般目標 (G10) | 医療従事者として日常遭遇しやすい内科領域の疾患の臨床症状を中心に理解できる。医療面接・視診・触診・打診・聴診及び身体計測法等について所見の取り方を知り診療録に記載ができる。代表的な疾患の主症状を知り、臨床検査の結果から種々の疾患の鑑別を行い説明ができる。また柔道整復の適応症であるかどうかの鑑別ができる。   |

## 【担当教員から】

|              |  |
|--------------|--|
| 教科書          | 一般臨床医学 医歯薬出版   |
| 参考書          | 内科学 (朝倉書店)<br>内科診断学  |
| 成績評価基準       | 定期試験：シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題 (レポート・小テスト等)：レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。   |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準 (評価割合)<br>期末 (到達目標達成確認) 試験成績 (年度末試験含む) --- 95%<br>(課題等を行わなかった場合は 100%)<br>課題等 ----- 5% (課題等を行った場合の加算割合)  |
| 履修の条件<br>留意点 | 期末 (到達目標達成確認) 試験、課題の評価を合計して 60% 以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門基礎分野・疾病と傷害・内科診断治療学の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の 70% 以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。   |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容 (担当者からのメッセージ)<br>○診察各論として、各疾患におけるそれらの所見と重要な鑑別点を講義していきます。疾患別に付随する解剖学・生理学的内容を把握しておいて下さい。<br>○授業中はノートをとるだけでなく、内容をよく理解しながら聞くこと。<br>○分からないことがあったときは、すぐに解決するようにする。協力は惜しみません。<br>○代表的な疾患の主症状を知り、柔道整復の適応症であるかどうかの鑑別ができることで必要になってくる学問です。予習、復習は欠かさないこと。 |
| オフィスアワー      | 授業開講日の 11:00~15:00 3F職員室   |



【授業計画】

| 学期 | 回数               | 講義内容                  | 到達目標 (SBOs)  | 講義形態  |    |
|----|------------------|-----------------------|--|---|----|
| 1期 | 1                | 診察の意義・診察法の種類と概要       | 1 診察の概要と意義・種類・評価・記録を説明できる。   | 講義  |    |
|    | 2                | 評価及び記録・問診・視診の意義       | 2 問診・視診の意義と方法を説明できる。   | 講義  |    |
|    | 3                | 体格・姿勢・栄養状態・精神状態       | 1 全身の視診項目と意義を説明できる。<br>2 栄養状態・精神状態・異常歩行の視診項目と意義を説明できる。   | 講義  |    |
|    | 4                | 異常運動・歩行・麻痺の種類と疾患      |  | 講義  |    |
|    | 5                | 局所の視診①                |  | 講義  |    |
|    | 6                | 局所の視診②                |  | 講義  |    |
|    | 7                | 打診(意義・方法・種類)          | 1 打診・聴診・触診の意義・方法・種類を説明できる。<br>2 肺野・心臓・腹部の聴診音と異常音を説明できる。<br>3 身体各部・筋・関節の触診点と所見を説明できる。   | 講義  |    |
|    | 8                | 聴診(意義・方法・種類)          |  | 講義  |    |
|    | 9                | 触診(意義・方法)、皮膚・筋肉の触診    |  | 講義  |    |
|    | 10               | 骨・関節、胸部、腹部、リンパ節の触診    |  | 講義  |    |
|    | 11               | 生命徴候・感覚検査             | 1 生命徴候の概要と正常値を示せる。<br>2 感覚検査の種類と意義を示せる。  | 講義  |    |
|    | 12               | 1期期末(到達目標達成確認)試験      |  | 試験  |    |
| 2期 | 13               | 試験解説 反射検査(種類・意義)      | 1 反射の種類と意義を説明できる。  | 講義  |    |
|    | 14               | 臨床症状①(発熱・出血傾向・リンパ節腫脹) | 1 発熱の概要と疾患が説明できる。<br>2 出血傾向の概要と疾患が説明できる。<br>3 リンパ節腫脹の概要が説明できる。<br>4 意識障害の概要と疾患が説明できる。<br>5 チアノーゼの概要が説明できる。<br>6 関節痛の概要と疾患が説明できる。<br>7 浮腫・体型の概要と疾患が説明できる。 | 講義  |    |
|    | 15               | 臨床症状②(意識障害・チアノーゼ)     |  | 講義  |    |
|    | 16               | 臨床症状③(関節痛・浮腫)         |  | 講義  |    |
|    | 17               | 臨床症状④(肥満・やせ)          |  | 講義  |    |
|    | 18               | 検査法                   |  | 1 各検査法を分類し説明できる。  | 講義 |
|    | 19               | 呼吸器疾患の概要              |  | 1 呼吸器疾患の症状と意義が示せる<br>2 肺感染症の種類と概略が説明できる。<br>3 気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患の概略が説明できる。<br>4 肺血栓塞栓症の概略が説明できる。<br>5 肺腫瘍の種類と概略を説明できる。<br>6 胸部にみる変形及び形成障害の概略を説明できる。<br>7 無気肺・自然気胸の概略が説明できる。     | 講義 |
|    | 20               | 肺感染症・呼吸器機能障害          |  |   | 講義 |
|    | 21               | 肺循環障害・肺腫瘍             | 講義   |   |    |
|    | 22               | 気管支、肺、胸郭系の変形と形成障害     | 講義   |   |    |
|    | 23               | 無気肺、自然気胸              | 講義   |   |    |
|    | 24               | 2期期末(到達目標達成確認)試験      |  | 試験  |    |
| 3期 | 25               | 試験解説 循環器疾患の概要・心臓の疾患   | 1 循環器疾患の症状と意義が示せる。<br>2 心疾患の概略が説明できる。<br>3 不整脈の種類と概略が説明できる。<br>4 動脈疾患の種類と概略を説明できる。<br>5 静脈疾患の種類と概略が説明できる。  | 講義  |    |
|    | 26               | 不整脈各論                 |  | 講義  |    |
|    | 27               | 血圧異常・動脈、静脈疾患・血管痙攣性疾患  |  | 講義  |    |
|    | 28               | 消化器疾患総論               |  | 1 消化器疾患の症状と意義が示せる。<br>2 食道癌の概略が説明できる。<br>3 胃疾患の種類と概略が説明できる。<br>4 腸疾患の種類と概略が説明できる。<br>5 肝疾患の種類と概略が説明できる。<br>6 胆道疾患の種類と概略が説明できる。<br>7 膵疾患の種類と概略が説明できる。<br>8 腹膜疾患の種類と概略が説明できる。 | 講義 |
|    | 29               | 食道疾患・胃疾患              |  |   | 講義 |
|    | 30               | 腸疾患                   | 講義   |   |    |
|    | 31               | 肝・胆道・膵・腹膜疾患の概要        | 講義   |   |    |
|    | 32               | 肝疾患                   | 講義   |   |    |
|    | 33               | 胆道疾患                  | 講義   |   |    |
|    | 34               | 膵疾患 腹膜疾患              | 講義   |   |    |
|    | 35               | 3期期末(到達目標達成確認)試験      |  |   | 試験 |
| 36 | 3期期末試験の解説・解答 まとめ |                       | 講義   |   |    |
| 37 | 年度末試験            |                       | 試験   |   |    |

【分野】 専門基礎分野 疾病と傷害

【科目】 外科診断治療学

## 【基本情報】

|      |                |         |              |      |
|------|----------------|---------|--------------|------|
| 配当年次 | 2 学年           | 担当教員    | きよみや としはる    |      |
| 単位数  | 3 単位           |         | 清宮 俊春（実務経験有） |      |
| 開講学期 | 1 学期・2 学期・3 学期 | 授業形態・回数 | 講義           | 36 回 |

## 【授業情報】

|               |  |
|---------------|--|
| 授業概要          | <p>医師免許を有し、臨床現場での経験を活かし、主に外科学について教授する。学生はこの授業を通じて、損傷、創傷、熱傷、炎症、腫瘍、ショック、輸血・輸液、滅菌・消毒、手術、麻酔、移植・免疫、出血・止血、心肺蘇生法などの外科的な基本事項を概括的に修得する。また、外科領域の疾患それぞれの疾患をジャンル別にまとめ外科的な立場からその症状や治療法について学び柔道整復師には禁忌症となっているが、日常業務において遭遇しやすい創傷や救急処置を必要とする外傷の対処法などを学ぶ。</p> |
| 授業の一般目標 (G10) | <p>損傷、外傷、炎症、腫瘍、ショック、輸血・輸液、滅菌・消毒、手術・麻酔、出血・止血、蘇生法などの外科的な基本事項が理解できる。<br/>日常業務において遭遇しやすい外科領域の疾患および柔道整復師には禁忌症となっている創傷などの臨床症状および経過、治療法などが理解できる。</p>  |

## 【担当教員から】

|   |  |
|---|--|
| 教科書   | 外科学概論 改訂第3版 (社) 全国柔道整復学校協会監修 南江堂   |
| 参考書   | 標準脳神経外科学 (医学書院) 標準外科学 (医学書院)   |
| 成績評価基準  | <p>定期試験: シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br/>課題 (レポート・小テスト等): レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。</p>   |
| 成績評価方法  | <p>成績評価の基準 (評価割合%)<br/>       期末 (到達目標達成確認) 試験成績 (年度末試験含む) ----- 95%<br/>       (課題等を行わなかった場合は100%)<br/>       課題等 ----- 5% (課題等を行った場合の加算割合)</p>   |
| 履修の条件<br>留意点  | <p>期末 (到達目標達成確認) 試験、課題の評価を合計して60%以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門基礎分野・疾病と傷害・外科診断治療学の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。</p>  |
| 担当教員  | <p>★授業時間外に必要な学習内容 (担当者からのメッセージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業中はノートをとるだけでなく、内容をよく理解しながら聞くこと。</li> <li>○分からないことがあったときは、すぐに解決するようにする。<br/>予習、復習は欠かさないこと。協力は惜しみません。</li> <li>○解剖学、生理学、病理学、一般臨床医学の科目と密接に関わってくるため、総合的に学習していくことが望ましい。</li> </ul> |
|  |  |
| オフィスアワー   | 授業開講日の13:20~15:00 3F職員室  |

【授業計画】

| 学期 | 回数               | 講義内容                | 到達目標 (SBOs)  | 講義形態 |
|----|------------------|---------------------|--|------|
| 1期 | 1                | 損傷の分類               | 1 損傷を分類する意義を説明できる。   | 講義   |
|    | 2                | 機械的損傷と治療の原則         | 2 機械的損傷非機械的損傷の分類と意義を説明できる。                                     | 講義   |
|    | 3                | 交通外傷の特徴             | 3 外傷の重症度の判定基準を説明できる。   | 講義   |
|    | 4                | 頭部・頸部・胸部・腹部外傷       | 4 バイタルサインの判定基準を説明できる。  | 講義   |
|    | 5                | 特殊な損傷               |  | 講義   |
|    | 6                | 創傷の分類・治癒過程          | 1 創傷治癒の遅延因子を説明できる。   | 講義   |
|    | 7                | 創傷の処置と感染予防          | 2 創傷の処置・治癒過程が説明できる。  | 講義   |
|    | 8                | 熱傷の原因と分類            | 1 熱傷の原因と分類を説明できる。  | 講義   |
|    | 9                | 熱傷の治療・全身管理・合併症      | 2 熱傷の治療と全身管理を説明できる。<br>3 合併症を列挙できる。                            | 講義   |
|    | 10               | 炎症                  | 1 炎症の定義を説明できる。   | 講義   |
|    | 11               | 全身感染症・外科感染症         | 2 感染発症のメカニズムを説明できる。<br>3 外科感染症の原因菌と症状・治療が説明できる。                | 講義   |
|    | 12               | 1期期末(到達目標達成確認)試験    |  | 試験   |
| 2期 | 13               | 試験解説 腫瘍の定義・分類       | 1 上皮性・非上皮性腫瘍が説明できる。<br>2 腫瘍の成因が説明できる。                          | 講義   |
|    | 14               | 良性腫瘍                | 3 良性腫瘍の種類・概略が説明できる。  | 講義   |
|    | 15               | 悪性腫瘍                | 4 悪性腫瘍の特徴・症状が説明できる。<br>5 腫瘍の診察の概要が説明できる。                       | 講義   |
|    | 16               | ショックの定義・分類          | 1 ショックの定義・分類が示せる。  | 講義   |
|    | 17               | ショックの症状・治療          | 2 ショックの症状と重症度が説明できる。<br>3 ショックの初期処置が説明できる。                     | 講義   |
|    | 18               | 輸血                  | 1 血液学の基礎が説明できる。  | 講義   |
|    | 19               | 一般輸液                | 2 輸血の種類・副作用を説明できる。<br>3 輸液の定義・目的・適応が示せる。                       | 講義   |
|    | 20               | 高カロリー輸液             | 4 輸液の種類と適応が説明できる。<br>5 輸液の注意・合併症が説明できる。                        | 講義   |
|    | 21               | 消毒と滅菌の必要性・種類        | 1 消毒の重要性と方法が説明できる。   | 講義   |
|    | 22               | 手術の切開法・止血・結紮・縫合術    | 1 手術手順の概要が説明できる。   | 講義   |
|    | 23               | 麻酔(意義・種類・全身麻酔・局所麻酔) | 1 麻酔の種類と作用を説明できる。<br>2 全身麻酔と局所麻酔を説明できる。                        | 講義   |
|    | 24               | 2期期末(到達目標達成確認)試験    |  | 試験   |
| 3期 | 25               | 試験解説 移植と免疫の意義・種類    | 1 移植の種類を列挙できる。   | 講義   |
|    | 26               | 移植の現状               | 2 移植の概要が説明できる。   | 講義   |
|    | 27               | 各種臓器移植              | 3 肝・腎・心臓移植の概要が説明できる。   | 講義   |
|    | 28               | 出血の種類・止血            | 1 出血の種類を分類できる。   | 講義   |
|    | 29               | 外出血・内出血の概要・止血法      | 2 外出血の種類と概要が説明できる。<br>3 内出血の種類と概要が説明できる。<br>4 止血法の種類と適応が説明できる。 | 講義   |
|    | 30               | 心肺蘇生法の意義と実際         | 1 一次救命処置(ABC)の説明ができる。  | 講義   |
|    | 31               | 救急蘇生法の連携            | 2 二次救命処置を挙げられる。  | 講義   |
|    | 32               | 脳神経の構造・頭蓋内の主要病態     | 1 主要な脳神経疾患の概略が説明できる。   | 講義   |
|    | 33               | 脳神経疾患の主要症状          | 2 脳腫瘍の種類と概略が説明できる。   | 講義   |
|    | 34               | 脳腫瘍 脳血管障害・頭部外傷      | 3 頭部外傷を含めた脳血管障害を挙げ概略の説明ができる。                                   | 講義   |
|    | 35               | 3期期末(到達目標達成確認)試験    |  | 試験   |
| 36 | 3期期末試験の解説・解答 まとめ |                     | 講義   |      |
| 37 | 年度末試験            |                     | 試験   |      |

【分野】 専門基礎分野 疾病と傷害

【科目】 人体機能回復論

## 【基本情報】

|      |             |         |              |      |
|------|-------------|---------|--------------|------|
| 配当年次 | 2 学年        | 担当教員    | そえだ しょういち    |      |
| 単位数  | 3 単位        |         | 添田 尚一（実務経験有） |      |
| 開講学期 | 1学期・2学期・3学期 | 授業形態・回数 | 講義           | 36 回 |

## 【授業情報】

|               |   |
|---------------|---|
| 授業概要          | 医師免許を有し、臨床現場での経験を活かし、主にリハビリテーション医学について教授する。学生はこの授業を通じて人体機能の中で重要な姿勢保持及び歩行に關与する筋等の組織の働き、異常姿勢・異常歩行が生じる組織異常との關連を修得する。具体的な内容として、リハビリテーションの定義と概念に始まり、目的、基礎、障害学、治療学および評価と診断、理学療法を学び、リハビリテーションの実際などを修得する。 |
| 授業の一般目標 (G10) | 人体機能・回復論の機能の部分では運動学での姿勢保持及び歩行に關与する筋等の組織の働きを理解し、異常姿勢・異常歩行が生じる組織異常との關連が理解できる。回復論の部分ではリハビリテーションの概念、障害の成因、評価法、運動器のリハビリテーションを中心としての障害からの回復過程と治療用機器及び使用法、それらを使った治療法が理解できる。                              |

## 【担当教員から】

|   |   |
|---|---|
| 教科書   | リハビリテーション医学 改訂第2版 (社) 全国柔道整復学校協会監修 南江堂  |
| 参考書   | 標準リハビリテーション医学 医学書院  |
| 成績評価基準  | 定期試験：シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題(レポート・小テスト等)：レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。   |
| 成績評価方法  | 成績評価の基準(評価割合(%))<br>期末(到達目標達成確認)試験成績(年度末試験含む) --- 95%<br>(課題等を行わなかった場合は100%)<br>課題等----- 5% (課題等を行った場合の加算割合)  |
| 履修の条件<br>留意点  | 期末(到達目標達成確認)試験、課題の評価を合計して60%以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門基礎分野・疾病と傷害・人体機能回復論の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。                      |
| 担当教員  | ★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ)<br>○授業中はノートをとるだけでなく、内容をよく理解しながら聞くこと。<br>○分からないことがあったときは、すぐに解決するようにする。<br>予習、復習は欠かさないこと。協力は惜しみません。<br>○病理学、一般臨床医学、外科学、整形外科の科目と密接に関わってくるため、総合的に学習していくことが望ましい。 |
|  |   |
| オフィスアワー   | 授業開講日の11:00~15:00 3F職員室   |

【授業計画】

| 学期 | 回数               | 講義内容                  | 到達目標 (SBOs)   | 講義形態  |
|----|------------------|-----------------------|---|---|
| 1期 | 1                | リハビリテーションの概念と歴史       | 1 リハビリテーションの定義・概念・歴史を示し、医学的リハビリテーションとリハビリテーション医学の関係を説明できる。<br>2 障害のレベルと相互関係の概略が説明できる。   | 講義  |
|    | 2                | 医学的リハビリテーション          |   | 講義  |
|    | 3                | 障害の分類と対応              |   | 講義  |
|    | 4                | 関節の運動・筋と作用            | 1 関節運動・筋作用が説明できる。<br>2 神経系による運動コントロールの概要が説明できる。<br>3 姿勢保持・歩行の機構が説明できる。<br>4 上肢・下肢・脊柱の運動と機能解剖が説明できる。                                 | 講義  |
|    | 5                | 運動の神経機構 (運動学)         |   | 講義  |
|    | 6                | 姿勢と歩行・上肢と下肢の運動と機能解剖   |   | 講義  |
|    | 7                | 関節拘縮・変形・筋萎縮・神経麻痺      |   | 1 機能障害について概要が説明できる。   |
|    | 8                | 治療の原則・拘縮治療・筋力増強訓練     | 1 運動障害、機能障害に対する治療の概略を説明できる。<br>2 治療アプローチの原則を障害レベル別に説明できる。   | 講義  |
|    | 9                | バイオフィードバック・痛みの治療      |   | 講義  |
|    | 10               | 患者のとらえ方・身体計測          | 1 障害モデル評価の意義を説明できる。<br>2 評価の意義を説明できる。<br>3 病歴聴取と障害評価が説明できる。<br>4 身体計測の意義を説明し実施できる。  | 講義  |
|    | 11               | 評価と診断(関節可動域・筋力・神経)    |   | 講義  |
|    | 12               | 1期期末(到達目標達成確認)試験      |   | 試験  |
| 2期 | 13               | 試験解説 小児運動発達の評価        |   | 1 小児運動発達の概要と評価法が説明できる。<br>2 協調性テストの意義を説明できる。<br>3 運動失調の種類と概略が説明できる。<br>4 失認・失行の意義と種類を示し評価法の概要を説明できる。<br>5 日常生活動作の評価を説明できる。<br>6 診断法について説明できる。 |
|    | 14               | 協調性テスト                | 講義  |   |
|    | 15               | 失認と失行の評価              | 講義  |   |
|    | 16               | 日常生活評価                | 講義  |   |
|    | 17               | 電気生理学的診断法・画像診断        | 講義  |   |
|    | 18               | 運動療法                  | 講義  |   |
|    | 19               | 物理療法(牽引療法含)           | 1 理学療法の定義・種類・適応を説明できる。<br>2 作業療法の概要と種類を説明できる。<br>3 装具の分類・目的・適応を説明できる。<br>4 義肢・歩行補助具・自助具・介助機器の分類・目的・適応を説明できる。<br>5 言語障害の分類と概要が説明できる。 | 講義  |
|    | 20               | 作業療法                  |   | 講義  |
|    | 21               | 上肢・下肢・体幹の装具           |   | 講義  |
|    | 22               | 義肢・移動補装具・自助具・介助機器     |   | 講義  |
|    | 23               | 言語療法・関連職種全般           |   | 講義  |
|    | 24               | 2期期末(到達目標達成確認)試験      | 試験  |   |
| 3期 | 25               | 試験解説 脳卒中のリハビリテーション    | 1 回復期別に概要が説明できる。  | 講義  |
|    | 26               | 脊髄損傷のリハビリテーション        | 1 回復期別に概要が説明できる。  | 講義  |
|    | 27               | 小児疾患のリハビリテーション        | 1 小児疾患の概要とリハビリテーションが説明できる。  | 講義  |
|    | 28               | 切断のリハビリテーション          | 1 切断のリハビリテーションを説明できる。<br>2 末梢神経損傷の分類とリハビリテーションが説明できる。<br>3 関節リウマチの概略とリハビリテーションが説明できる。   | 講義  |
|    | 29               | 末梢神経損傷のリハビリテーション      |   | 講義  |
|    | 30               | 関節リウマチのリハビリテーション      |   | 講義  |
|    | 31               | 腰痛・頸肩腕痛・五十肩のリハビリテーション | 1 腰痛・頸腕痛の原因疾患と発生機序及びリハビリテーションの概要が示せる。<br>2 五十肩・骨折の病態の概略とリハビリテーションが説明できる。  | 講義  |
|    | 32               | 骨折のリハビリテーション          |   | 講義  |
|    | 33               | 各疾患のリハビリテーション 福祉      | 1 心疾患と呼吸器疾患のリハビリテーションの概要を説明できる。   | 講義  |
|    | 34               | リハビリテーションと福祉          | 1 リハビリテーション関連法規の概要が示せる。   | 講義  |
|    | 35               | 3期期末(到達目標達成確認)試験      | 試験  |   |
| 36 | 3期期末試験の解説・解答 まとめ | 講義                    |   |   |
| 37 | 年度末試験            | 試験                    |   |   |

【分野】 専門分野 臨床柔道整復学

【科目】 上肢の損傷学 I

## 【基本情報】

|      |                |         |               |      |
|------|----------------|---------|---------------|------|
| 配当年次 | 2 学年           | 担当教員    | くどう だいすけ      |      |
| 単位数  | 3 単位           |         | 工藤 大介 (実務経験有) |      |
| 開講学期 | 1 学期・2 学期・3 学期 | 授業形態・回数 | 講義            | 36 回 |

## 【授業情報】

|               |  |
|---------------|--|
| 授業概要          | 接骨院勤務の経歴があり、その経験を活かし、主に上肢の損傷について教授する。学生はこの授業を通じて、上肢の骨折・脱臼をそれぞれ、発生機序と骨折や脱臼形態の関係などを修得する。<br>また、骨片転位のメカニズムを知り、骨折・脱臼の整復方法を検討し、起こりうる合併症を知りその対策と治療法について修得する。 |
| 授業の一般目標 (G10) | 骨折の発生機序・症状・施術法ならびに合併症や予後の概要を述べることができる。<br>脱臼の発生機序・症状・施術法ならびに合併症や予後の概要を述べるができる。<br>軟部組織損傷の発生機序・症状・施術法ならびに合併症や予後の概要を述べるができる。                             |

## 【担当教員から】

|              |  |
|--------------|--|
| 教科書          | 「柔道整復学・理論編」 改訂第 5 版 (社) 全国柔整学校協会監修 (株) 南江堂   |
| 参考書          | 「骨折・脱臼」改訂 3 版 富士川恭輔・鳥巢岳彦編 (株) 南江堂<br>「一人で学べる柔道整復理論」改訂第 3 版 学校法人呉竹学園編   |
| 成績評価基準       | 定期試験: シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題 (レポート・小テスト等): レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。   |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準 (評価割合 (%))<br>期末 (到達目標達成確認) 試験成績 (年度末試験含む) ----- 95 %<br>(課題等を行わなかった場合は 100 %)<br>課題等 ----- 5 % (課題等を行った場合の加算割合)   |
| 履修の条件<br>留意点 | 期末 (到達目標達成確認) 試験、課題の評価を合計して 60 % 以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門分野・臨床柔道整復学・上肢の損傷学 I の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の 70 % 以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。 |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容 (担当者からのメッセージ)<br>柔道整復学の各論 (上肢) となる科目です。原則として授業の復習を欠かさないこと。もし、分からないことがあったときは、すぐに解決するようにしてください。協力は惜しみません。<br>解剖学 (運動器) の内容を予習、復習し授業に臨むとより理解が深まります。              |
| オフィスアワー      | 授業開講日の 9 : 00 ~ 21 : 00 (3 階 教員室)  |



【授業計画】

| 学期 | 回数               | 講義内容                             | 到達目標 (SBOs)  | 講義形態  |    |
|----|------------------|----------------------------------|--|---|----|
| 1期 | 1                | 鎖骨骨折                             | 1 発生機序と症状を説明できる。<br>2 転位を理解し説明できる。<br>3 施術法を理解し説明できる。<br>4 合併症・予後を説明できる。<br>5 類似する損傷との鑑別ができる。<br>6 後遺症を理解し説明できる。 | 講義  |    |
|    | 2                | 鎖骨骨折                             |  | 講義  |    |
|    | 3                | 鎖骨骨折                             |  | 講義  |    |
|    | 4                | 肩鎖関節脱臼                           |  | 講義  |    |
|    | 5                | 胸鎖関節脱臼                           |  | 講義  |    |
|    | 6                | 肩甲骨骨折                            |  | 講義  |    |
|    | 7                | 上腕骨近位端部骨折 (概要・分類)                | 1 特徴・分類を理解する。  | 講義  |    |
|    | 8                | 上腕骨骨頭骨折                          | 1 発生機序と症状を説明できる。<br>2 転位を理解し説明できる。<br>3 施術法を理解し説明できる。<br>4 合併症・予後を説明できる。<br>5 類似する損傷との鑑別ができる。<br>6 後遺症を理解し説明できる。 | 講義  |    |
|    | 9                | 上腕骨解剖頸骨折                         |  | 講義  |    |
|    | 10               | 上腕骨外科頸骨折                         |  | 講義  |    |
|    | 11               | 上腕骨外科頸骨折                         |  | 講義  |    |
|    | 12               | 1期期末(到達目標達成確認)試験                 |  | 試験  |    |
| 2期 | 13               | 1期期末試験の解説・解答 近位骨端線離開             |  | 講義  |    |
|    | 14               | 上腕骨大結節・小結節骨折 肩関節脱臼               | 1 発生機序と症状を説明できる。<br>2 転位を理解し説明できる。<br>3 施術法を理解し説明できる。<br>4 合併症・予後を説明できる。<br>5 類似する損傷との鑑別ができる。<br>6 後遺症を理解し説明できる。 | 講義  |    |
|    | 15               | 肩関節脱臼                            |  | 講義  |    |
|    | 16               | 肩関節脱臼                            |  | 講義  |    |
|    | 17               | 肩関節脱臼                            |  | 講義  |    |
|    | 18               | 肩部軟部組織損傷 (肩関節周囲炎・腱板損傷)           |  | 1 発生機序と症状を理解し説明できる。<br>2 鑑別法や施術法を理解し説明できる。<br>3 徒手検査法を適切に実施できる。 | 講義 |
|    | 19               | 肩部軟部組織損傷 (腱板損傷・インピンジメント症候群)      |  |   | 講義 |
|    | 20               | 肩部軟部組織損傷 (腱板疎部・動揺性肩関節症)          | 講義   |   |    |
|    | 21               | 肩部軟部組織損傷 (SLAP損傷・ペネット損傷)         | 講義   |   |    |
|    | 22               | 肩部軟部組織損傷 (クワドリテラル症候群・上腕二頭筋長頭腱損傷) | 講義   |   |    |
|    | 23               | 肩部軟部組織損傷 (まとめ)                   | 講義   |   |    |
| 24 | 2期期末(到達目標達成確認)試験 |                                  | 試験   |   |    |
| 3期 | 25               | 2期期末試験の解説・解答 上腕骨骨幹部骨折            |  | 講義  |    |
|    | 26               | 上腕骨骨幹部骨折                         | 1 発生機序と症状を理解し説明できる。<br>2 鑑別法や施術法を理解し説明できる。   | 講義  |    |
|    | 27               | 上腕骨遠位端部骨折 (概要・分類)                | 1 特徴・分類を理解する。  | 講義  |    |
|    | 28               | 上腕骨顆上骨折                          | 1 発生機序と症状を説明できる。<br>2 転位を理解し説明できる。<br>3 施術法を理解し説明できる。<br>4 合併症・予後を説明できる。<br>5 類似する損傷との鑑別ができる。<br>6 後遺症を理解し説明できる。 | 講義  |    |
|    | 29               | 上腕骨顆上骨折                          |  | 講義  |    |
|    | 30               | 上腕骨外顆骨折                          |  | 講義  |    |
|    | 31               | 上腕骨内側上顆骨折                        |  | 講義  |    |
|    | 32               | 肘関節脱臼                            |  | 講義  |    |
|    | 33               | 肘関節脱臼                            |  | 講義  |    |
|    | 34               | 肘部軟部組織損傷                         | 1 発生機序と症状を理解し説明できる。<br>2 鑑別法や施術法を理解し説明できる。<br>3 徒手検査法を適切に実施できる。  | 講義  |    |
|    | 35               | 肘部軟部組織損傷                         |  | 講義  |    |
|    | 36               | 3期期末(到達目標達成確認)試験                 |  | 試験  |    |
|    | 37               | 年度末試験                            |  | 試験  |    |

【分野】 専門分野 臨床柔道整復学

【科目】 下肢の損傷学 I

## 【基本情報】

|      |                |         |              |      |
|------|----------------|---------|--------------|------|
| 配当年次 | 2 学年           | 担当教員    | はすだ つばさ      |      |
| 単位数  | 3 単位           |         | 荷田 翼 (実務経験有) |      |
| 開講学期 | 1 学期・2 学期・3 学期 | 授業形態・回数 | 講義           | 36 回 |

## 【授業情報】

|               |   |
|---------------|---|
| 授業概要          | 接骨院や整形外科勤務の経験があり、その経験を活かし、主に下肢の損傷について教授する。学生はこの授業を通じて、下肢の骨折・脱臼をそれぞれ、発生機序と骨折や脱臼形態の関係などを修得する。また、骨片転位のメカニズムを知り、骨折・脱臼の整復方法、起こりうる合併症を知りその対策と治療法について修得する。 |
| 授業の一般目標 (G10) | 骨折の発生機序・症状・施術法ならびに合併症や予後の概要を述べることができる。<br>脱臼の発生機序・症状・施術法ならびに合併症や予後の概要を述べることができる。<br>軟部組織損傷の発生機序・症状・施術法ならびに合併症や予後の概要を述べるができる。                        |

## 【担当教員から】

|              |  |
|--------------|--|
| 教科書          | 「柔道整復学・理論編」 改訂第 5 版 (社) 全国柔整学校協会監修 (株) 南江堂   |
| 参考書          | 「神中整形外科学」改訂 2 3 版 岩本幸英編 (株) 南江堂  |
| 成績評価基準       | 定期試験：シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題(レポート・小テスト等)：レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。  |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準 (評価割合 (%))<br>期末 (到達目標達成確認) 試験成績 (年度末試験含む) ——— 95 %<br>(課題等を行わなかった場合は 100 %)<br>課題等 ————— 5 % (課題等を行った場合の加算割合)   |
| 履修の条件<br>留意点 | 期末 (到達目標達成確認) 試験、課題の評価を合計して 60 % 以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門分野・臨床柔道整復学・下肢の損傷学 I の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の 70 % 以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。 |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容 (担当者からのメッセージ)<br>柔道整復学の各論 (下肢) となる科目です。原則として授業の復習を欠かさないこと。もし、分からないことがあったときは、すぐに解決するようにしてください。協力は惜しみません。<br>解剖学 (運動器) の内容を予習、復習し授業に臨むとより理解が深まります。              |
| オフィスアワー      | 授業開講日の 9 : 00 ~ 21 : 00 (3 階 教員室)  |



【授業計画】

| 学期 | 回数               | 講義内容                           | 到達目標 (SBOs)  | 講義形態   |
|----|------------------|--------------------------------|--|--|
| 1期 | 1                | 下肢帯骨折 (概要・分類)                  | 1 特徴・分類を理解する。  | 講義   |
|    | 2                | 骨盤骨折                           | 1 発生機序と症状を説明できる。<br>2 転位を理解し説明できる。<br>3 施術法を理解し説明できる。<br>4 合併症・予後を説明できる。<br>5 類似する損傷との鑑別ができる。<br>6 後遺症を理解し説明できる。 | 講義   |
|    | 3                | 骨盤骨折                           |  | 講義   |
|    | 4                | 骨盤骨折                           |  | 講義   |
|    | 5                | 大腿骨骨頭骨折                        |  | 講義   |
|    | 6                | 大腿骨頸部骨折                        |  | 講義   |
|    | 7                | 大腿骨頸部骨折                        |  | 講義   |
|    | 8                | 大転子・小転子骨折                      |  | 講義   |
|    | 9                | 転子窩骨折・転子貫通骨折                   |  | 講義   |
|    | 10               | 下肢帯の損傷 (概説)                    |  | 1 特徴・分類を理解する。<br>2 原因・症状を理解し説明できる。<br>3 治療の概要を理解できる。 |
|    | 11               | 股関節損傷                          | 講義   |  |
|    | 12               | 1期期末(到達目標達成確認)試験               |  | 試験   |
| 2期 | 13               | 1期期末試験の解説・解答 股関節損傷             |  | 講義   |
|    | 14               | 股関節脱臼                          | 1 発生機序と症状を説明できる。<br>2 転位を理解し説明できる。<br>3 施術法を理解し説明できる。<br>4 合併症・予後を説明できる。<br>5 類似する損傷との鑑別ができる。                    | 講義   |
|    | 15               | 股関節脱臼                          |  | 講義   |
|    | 16               | 股関節脱臼                          |  | 講義   |
|    | 17               | 股関節部疾患 (概要)                    | 1 特徴・分類を理解する。<br>2 原因・症状を理解し説明できる。<br>3 治療の概要を理解できる。   | 講義   |
|    | 18               | 股関節部疾患 (概要)                    |  | 講義   |
|    | 19               | 先天性股関節脱臼                       | 1 原因・症状を理解し説明できる。<br>2 治療の概要を理解できる。<br>3 外傷との重要な鑑別点が説明できる。   | 講義   |
|    | 20               | 大腿骨頭すべり症                       |  | 講義   |
|    | 21               | Perthes病                       |  | 講義   |
|    | 22               | 特発性大腿骨頭壊死                      |  | 講義   |
|    | 23               | 単純性股関節炎                        |  | 講義   |
|    | 24               | 2期期末(到達目標達成確認)試験               |  |  |
| 3期 | 25               | 大腿骨骨幹部骨折                       | 1 発生機序と症状を説明できる。<br>2 転位を理解し説明できる。<br>3 施術法を理解し説明できる。<br>4 合併症・予後を説明できる。<br>5 類似する損傷との鑑別ができる。<br>6 後遺症を理解し説明できる。 | 講義   |
|    | 26               | 大腿骨骨幹部骨折                       |  | 講義   |
|    | 27               | 大腿骨顆上骨折                        |  | 講義   |
|    | 28               | 大腿骨下端部骨端線離開                    |  | 講義   |
|    | 29               | 大腿骨顆部骨折                        |  | 講義   |
|    | 30               | 膝蓋骨骨折                          |  | 講義   |
|    | 31               | 膝関節脱臼                          | 講義   |  |
|    | 32               | 膝関節の損傷 (捻挫)                    | 1 発生機序と症状を理解し説明できる。<br>2 鑑別法や施術法を理解し説明できる。<br>3 徒手検査法を適切に実施できる。  | 講義   |
|    | 33               | 膝関節を構成する骨の形態的特徴と靭帯の形態と機能の特徴    |  | 講義   |
|    | 34               | 半月板の形態と機能の特徴と膝関節の運動に関する筋       |  | 講義   |
|    | 35               | 側副靭帯と十字靭帯・半月板損傷の検査法と固定法並びに治癒経過 | 講義   |  |
| 36 | 3期期末(到達目標達成確認)試験 |                                | 試験   |  |
| 37 | 年度末試験            |                                | 試験   |  |

【分野】 専門分野 臨床柔道整復学

【科目】 体幹の損傷学

## 【基本情報】

|      |                    |           |                                |      |
|------|--------------------|-----------|--------------------------------|------|
| 配当年次 | 2 学年               | 担当教員      | あさひな つねと ・ かわぐち ひろのぶ           |      |
| 単位数  | 3 単位               |           | 朝比奈 恒人 (実務経験有) ・ 川口 央修 (実務経験有) |      |
| 開講学期 | 1 学期 ・ 2 学期 ・ 3 学期 | 授業形態 ・ 回数 | 講義                             | 36 回 |

## 【授業情報】

|               |  |
|---------------|--|
| 授業概要          | 接骨院や整形外科勤務の経験があり、その経験を活かし、主に体幹の損傷について教授する。学生はこの授業を通じて、頭部外傷・体幹部の損傷など重大性を理解し、適切な応急処置および対応を修得する。また、発生機序と臨床所見、合併症についての理解も深める。                              |
| 授業の一般目標 (G10) | 頭部・顔面部損傷の発生機序・症状・施術法ならびに合併症や予後についての概要を述べることができる。<br>体幹部骨折の発生機序・症状・施術法ならびに合併症や予後についての概要を述べるができる。<br>鑑別を要する疾患に対して頸部・腰部・股関節部の症状・合併症ならびに予後についての概要を述べるができる。 |

## 【担当教員から】

|              |   |
|--------------|---|
| 教科書          | 「柔道整復学・理論編」 改訂第5版 (社) 全国柔整学校協会監修 (株) 南江堂  |
| 参考書          | 「神中整形外科学」改訂23版 岩本幸英編 (株) 南江堂  |
| 成績評価基準       | 定期試験: シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題 (レポート・小テスト等): レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。  |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準 (評価割合 (%))<br>期末 (到達目標達成確認) 試験成績 (年度末試験含む) ——— 95 %<br>(課題等を行わなかった場合は 100 %)<br>課題等 ————— 5 % (課題等を行った場合の加算割合)  |
| 履修の条件<br>留意点 | 期末 (到達目標達成確認) 試験、課題の評価を合計して 60 % 以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門分野・臨床柔道整復学・体幹の損傷学の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の 70 % 以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。 |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容 (担当者からのメッセージ)<br>柔道整復学の各論 (体幹) となる科目です。原則として授業の復習を欠かさないこと。もし、分からないことがあったときは、すぐに解決するようにしてください。協力は惜しみません。<br>解剖学 (運動器) の内容を予習、復習し授業に臨むとより理解が深まります。           |
| オフィスアワー      | 授業開講日の 9 : 00 ~ 21 : 00 (3階 教員室)  |



【授業計画】

| 学期 | 回数               | 講義内容                       | 到達目標 (SBOs)  | 講義形態  |    |
|----|------------------|----------------------------|--|---|----|
| 1期 | 1                | 頭部・顔面の損傷 概説 (脳振盪・脳圧迫症・脳挫傷) |  | 講義  |    |
|    | 2                | 頭蓋冠骨折                      | 1 発生機序と分類を説明できる。<br>2 症状を理解し説明できる。<br>3 転位を理解し説明できる。<br>4 施術法を理解し説明できる。<br>5 合併症・予後を説明できる。<br>6 類似する損傷との鑑別ができる。<br>7 後遺症を理解し説明できる。 | 講義  |    |
|    | 3                | 頭蓋底骨折                      |  | 講義  |    |
|    | 4                | 頭蓋底骨折                      |  | 講義  |    |
|    | 5                | 鼻骨・上顎骨骨折                   |  | 講義  |    |
|    | 6                | 上顎骨骨折                      |  | 講義  |    |
|    | 7                | 頬骨・下顎骨骨折                   |  | 講義  |    |
|    | 8                | 下顎骨骨折                      |  | 講義  |    |
|    | 9                | 顎関節脱臼                      |  | 講義  |    |
|    | 10               | 顎関節脱臼                      |  | 講義  |    |
|    | 11               | 顎関節症                       |  | 講義  |    |
|    | 12               | 1期期末(到達目標達成確認)試験           |  |   | 試験 |
| 2期 | 13               | 1期期末試験の解説・解答 環軸椎骨折         |  | 講義  |    |
|    | 14               | 頸椎椎体圧迫骨折                   | 1 発生機序と分類を説明できる。<br>2 症状を理解し説明できる。<br>3 施術法を理解し説明できる。<br>4 合併症・予後を説明できる。<br>5 後遺症を理解し説明できる。  | 講義  |    |
|    | 15               | 環軸椎脱臼及び脱臼骨折                |  | 講義  |    |
|    | 16               | その他頸椎脱臼及び脱臼骨折              |  | 講義  |    |
|    | 17               | 頸部の軟部組織損傷 (頸椎捻挫)           |  | 1 発生機序と症状を理解し説明できる。<br>2 鑑別法や施術法を理解し説明できる。<br>3 徒手検査法を適切に実施できる。 | 講義 |
|    | 18               | 頸部の軟部組織損傷 (頸椎捻挫)           |  |   | 講義 |
|    | 19               | 頸椎部の神経損傷                   | 講義   |   |    |
|    | 20               | 頸椎部の神経損傷                   | 講義   |   |    |
|    | 21               | 頸部疾患 (概要)                  | 1 発生原因や症状を理解し説明できる。<br>2 類似外傷との鑑別ができる。<br>3 予後・後遺症を説明できる。  | 講義  |    |
|    | 22               | 変形性頸椎症                     |  | 講義  |    |
|    | 23               | OPLLなどの頸部疾患                |  | 講義  |    |
|    | 24               | 2期期末(到達目標達成確認)試験           |  | 試験  |    |
| 3期 | 25               | 2期期末試験の解説・解答 胸骨骨折          |  | 講義  |    |
|    | 26               | 肋骨骨折                       | 1 発生機序と分類を説明できる。<br>2 症状を理解し説明できる。<br>3 施術法を理解し説明できる。<br>4 合併症・予後を説明できる。<br>5 後遺症を理解し説明できる。  | 講義  |    |
|    | 27               | 胸部の軟部組織損傷                  |  | 講義  |    |
|    | 28               | 胸・腰椎椎体圧迫骨折                 |  | 講義  |    |
|    | 29               | 胸・腰椎脱臼骨折                   |  | 講義  |    |
|    | 30               | 腰椎椎弓骨折                     |  | 講義  |    |
|    | 31               | 腰椎分離・こり症 無分離こり症            | 1 発生原因や症状を理解し説明できる。<br>2 類似外傷との鑑別ができる。<br>3 予後・後遺症を説明できる。  | 講義  |    |
|    | 32               | 腰部疾患 (概要)                  |  | 講義  |    |
|    | 33               | 腰部変形性脊椎症・腰部脊柱管狭窄症          |  | 講義  |    |
|    | 34               | 腰部捻挫                       | 1 発生機序と症状を理解し説明できる。<br>2 鑑別法や施術法を理解し説明できる。<br>3 予後を簡潔に説明できる。   | 講義  |    |
|    | 35               | その他鑑別を要する腰部の疾患             |  | 講義  |    |
| 36 | 3期期末(到達目標達成確認)試験 |                            | 試験   |   |    |
| 37 | 年度末試験            |                            | 試験   |   |    |

【分野】 専門分野 柔道整復実技

【科目】 総合柔道整復演習(ベッドサイド演習)

## 【基本情報】

|      |      |         |                              |      |
|------|------|---------|------------------------------|------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員    | ほんだ しゅうじ ・ はすだ つばさ           |      |
| 単位数  | 1 単位 |         | 本多 修二 (実務経験有) ・ 荷田 翼 (実務経験有) |      |
| 開講学期 | 後期   | 授業形態・回数 | 講義                           | 16 回 |

## 【授業情報】

|               |  |
|---------------|--|
| 授業概要          | 接骨院勤務の経歴があり、その経験を活かし、柔道整復師の職域が広がりつつある今、外傷に対する知識と処置の仕方を教授する。<br>学生はこの授業を通じて、様々な場で活躍できることを念頭に、好発する肋骨骨折・上肢の外傷・下肢の外傷に対し理解を深め、処置の仕方を習得する。 |
| 授業の一般目標 (G10) | ①体幹・上肢・下肢の体表解剖について理解できる。<br>②肋骨骨折・肘内障、第5中手骨頸部骨折、第2指PIP関節背側脱臼の処置ができる。<br>③下腿骨骨幹部骨折、アキレス腱断裂、膝関節内側側副靭帯損傷、足関節外側側副靭帯損傷の処置ができる。            |

## 【担当教員から】

|              |   |
|--------------|---|
| 教科書          | 柔道整復学・実技編 改訂版5版 南江堂   |
| 参考書          | 包帯固定学 (社) 全国柔整学校協会・南江堂  |
| 成績評価基準       | 定期試験: シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題(レポート・小テスト等): レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。<br>観察記録: 技能・態度・習慣を観察して適宜記録し判定資料とする。                               |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準(評価割合%)<br>期末(到達目標達成確認)試験成績 --- 90%<br>(課題等を行わなかった場合は95%)<br>観察記録 --- 5%<br>課題等 --- 5% (課題等を行った場合の加算割合)  |
| 履修の条件<br>留意点 | 期末(到達目標達成確認)試験、課題・観察記録の評価を合計して60%以上で履修とする。<br>この科目は専門分野・柔道整復実技・ベッドサイド演習(総合柔道整復演習)の単位として認定されます。【認定実技試験対象科目】なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。 |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ)<br>○解剖学・柔道整復学の内容を予習、復習し授業に臨むとより理解が深まる。<br>○体表解剖の理解が、臨床への基礎となる。<br>○分からないことは質問をし、なるべく疑問を持ったままにしないようにすること。<br>○各部位の固定具について興味を持ち、固定の仕方を練習すること。     |
| オフィスアワー      |   |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容                 | 到達目標 (SBOs)  | 講義形態 |
|----|----|----------------------|--|------|
| 後期 | 1  | ガイダンス                |  | 講義   |
|    | 2  | 体幹の体表解剖              | 1 体幹・上肢の骨のランドマークを体表から触察できる。  | 実技   |
|    | 3  | 上肢の体表解剖              | 2 体幹・上肢の筋を体表から触れることができる。   | 実技   |
|    | 4  | 肋骨骨折の固定法の実際          | 1 肋骨骨折に対する固定の意義を説明し、時間内に行うことができる。  | 実技   |
|    | 5  | 肘内障の診察及び整復法の実際       | 1 肘内障・第5指中手骨頸部骨折・手第2指PIP関節背側脱臼の概要と固定の意義を説明できる。<br>2 各外傷の固定を時間内に行うことができる。 | 実技   |
|    | 6  | 第5指中手骨頸部骨折の固定法の実際    |  | 実技   |
|    | 7  | 手第2指PIP関節背側脱臼の固定法の実際 |  | 実技   |
|    | 8  | 下肢の体表解剖              | 1 下肢の骨・筋を体表から触れることができる。  | 実技   |
|    | 9  | 下腿骨骨幹部骨折の固定法の実際      | 1 下腿骨骨幹部骨折・アキレス腱断裂の概要と固定の意義を説明できる。<br>2 クラメルを用い時間内に固定できる。                | 実技   |
|    | 10 | アキレス腱断裂の固定法の実際       |  | 実技   |
|    | 11 | 膝関節内側側副靭帯損傷の固定法の実際   | 1 膝関節内側側副靭帯損傷・足関節外側靭帯損傷の概要と固定の意義を説明できる。<br>2 テーピングを用い時間内に固定できる。          | 実技   |
|    | 12 | 足関節外側靭帯損傷の固定法の実際①    |  | 実技   |
|    | 13 | 足関節外側靭帯損傷の固定法の実際②    |  | 実技   |
|    | 14 | 実技(到達目標達成確認)試験       |  | 試験   |
|    | 15 | 実技(到達目標達成確認)試験       |  | 試験   |
|    | 16 | 実技(到達目標達成確認)試験       |  | 試験   |

【分野】 専門分野 柔道整復実技

【科目】 総合柔道整復演習(固定法演習)

## 【基本情報】

|      |      |         |  |      |
|------|------|---------|--|------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員    | ほんだ しゅうじ・はすだ つばさ・あさひな つねと                    |      |
| 単位数  | 1 単位 |         | 本多 修二・荷田 翼・朝比奈 恒人<br>(実務経験有) (実務経験有) (実務経験有) |      |
| 開講学期 | 後期   | 授業形態・回数 | 講義   | 16 回 |

## 【授業情報】

|                  |   |
|------------------|---|
| 授業概要             | 接骨院勤務の経歴があり、その経験を活かし、外傷に対する固定法を中心に教授する。学生はこの授業を通じて、固定法の原則や固定肢位を知ると共に、柔道整復師に特に関わりの深い上肢・下肢の固定法を中心として様々な固定材料を使用し実際の固定法を身につける。  |
| 授業の一般目標<br>(G10) | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 固定法の原則、目的を述べることができる。</li> <li>2 固定材料の種類を理解し、用途に合わせて使い分けすることができる。</li> <li>3 各関節の固定肢位、固定範囲、固定期間を説明できる。</li> <li>4 各種固定材料を使用し、鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼、肩関節前方脱臼、上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折、肘関節後方脱臼の整復及び固定が行える。</li> </ol> |

## 【担当教員から】

|              |  |
|--------------|--|
| 教科書          | 柔道整復理論編/実技編 改正第5版  |
| 参考書          | 包帯固定学 (社) 全国柔整学校協会・南江堂   |
| 成績評価基準       | <p>定期試験：シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。</p> <p>課題(レポート・小テスト等)：レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。</p> <p>観察記録：技能・態度・習慣を観察して適宜記録し判定資料とする。</p>  |
| 成績評価方法       | <p>成績評価の基準(評価割合(%))</p> <p>期末(到達目標達成確認)試験成績――― 90%</p> <p style="text-align: right;">(課題等を行わなかった場合は95%)</p> <p>観察記録――― 5%</p> <p>課題等――― 5% (課題等を行った場合の加算割合)</p>  |
| 履修の条件<br>留意点 | <p>期末(到達目標達成確認)試験、課題・観察記録の評価を合計して60%以上で履修とする。</p> <p>この科目は専門分野・柔道整復実技・固定法演習(総合柔道整復演習)の単位として認定されます。【認定実技試験対象科目】なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。</p>  |
| 担当教員         | <p>★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ)</p> <p>○一年次の復習も兼ねて行う科目なので自主的に手を動かして何回も繰り返すことが大事である。</p> <p>○授業中はノートをとるだけでなく、内容をよく理解しながら聞くこと。</p> <p>○分からないことがあったときは、すぐに解決するようにする。</p> <p>○柔道整復師にとって固定ができないことはあってはならないことです。</p> <p>○自分自身のために授業の予習・復習をして授業に臨むなど、積極的な学習姿勢が望まれます。</p> |
| オフィスアワー      |  |



ILLUSTRATION © ROBINSON

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容                  | 到達目標 (SBOs)                           | 講義形態 |
|----|----|-----------------------|---------------------------------------|------|
| 後期 | 1  | 固定材料の実際①(クラームル)       | 1 固定の定義・目的と疾患・年齢による固定の違いを説明できる。       | 実技   |
|    | 2  | 固定材料の実際②(厚紙副子、アルフェンス) | 2 クラームル、局所副子を作製できる。                   | 実技   |
|    | 3  | 認定実技審査の評価方法と実際        | 1 認定実技審査の概要が説明できる。                    | 実技   |
|    | 4  | 鎖骨骨折の診察及び整復法の実際       | 1 鎖骨骨折の概要・診察・整復の意義を述べ、動作を行うことができる。    | 実技   |
|    | 5  | 鎖骨骨折の固定法の実際           | 2 鎖骨骨折の固定の概要が説明でき、時間内に行うことができる。       | 実技   |
|    | 6  | 肩鎖関節脱臼の診察及び整復法の実際     | 1 肩鎖関節脱臼の概要・診察・整復の意義を述べ動作を行うことができる。   | 実技   |
|    | 7  | 肩鎖関節脱臼の固定法の実際         | 2 肩鎖関節脱臼の固定の概要が説明でき時間内に行うことができる。      | 実技   |
|    | 8  | 肩関節脱臼の診察及び整復法の実際      | 1 肩関節脱臼の概要・診察・整復の意義を述べ動作を行うことができる。    | 実技   |
|    | 9  | 肩関節脱臼の固定法の実際          | 2 肩関節脱臼の固定の概要が説明でき時間内に行うことができる。       | 実技   |
|    | 10 | 上腕骨外科頸骨折の診察及び整復法の実際   | 1 上腕骨外科頸骨折の概要・診察・整復の意義を述べ動作を行うことができる。 | 実技   |
|    | 11 | 上腕骨骨幹部骨折の固定法の実際       | 1 上腕骨骨幹部骨折の固定の概要が説明でき時間内に行うことができる。    | 実技   |
|    | 12 | 肘関節後方脱臼の診察及び整復法の実際    | 1 肘関節後方脱臼の概要・診察・整復の意義を述べ動作を行うことができる。  | 実技   |
|    | 13 | 肘関節後方脱臼の固定法の実際        | 2 肘関節後方脱臼の固定の概要が説明でき時間内に行うことができる。     | 実技   |
|    | 14 | まとめ                   |                                       |      |
|    | 15 | 実技期末(到達目標達成確認)試験      |                                       | 試験   |
|    | 16 | 実技期末(到達目標達成確認)試験      |                                       | 試験   |

【分野】 専門分野 柔道整復実技

【科目】 総合柔道整復演習(学究探求演習)

## 【基本情報】

|      |      |         |               |      |
|------|------|---------|---------------|------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員    | ほんだ しゅうじ      |      |
| 単位数  | 1 単位 |         | 本多 修二 (実務経験有) |      |
| 開講学期 | 前期   | 授業形態・回数 | 実習            | 16 回 |

## 【授業情報】

|               |   |
|---------------|---|
| 授業概要          | 接骨院勤務の経歴と医学会等での発表経験を活かし、主に研究に対しての作成法を教授する。学生はこの授業を通じて、自分の興味のあるテーマを決め、その物作りや研究に対して制作する。<br>その間の時間はすべて学生自身の時間であり、どのような方法で完成させようが、問わない。<br>最後に完成した発表内容や論文等をクラス内で発表する時間を設け、研究に対するプロセスを修得する。 |
| 授業の一般目標 (G10) | 自分自身で何か興味をもつ物作りや研究に対して目的、方法、考察、結果等の調べ方などを自然と身につけて、研究の重要性・必要性を認識し、医療等の発展に貢献できる。<br>また、他の教科、卒業後に対しても自身で勉強の仕方、意義、意欲を身につける。   |

## 【担当教員から】

|              |  |
|--------------|--|
| 教科書          |  |
| 参考書          |  |
| 成績評価基準       | 課題(論文・レポート・ポートフォリオ等)：ルーブリック評価を用いる。<br>観察記録：技能・態度・習慣を観察して適宜記録し判定資料とする。<br>発表：担当教員・聴講者からの評価表を判定資料とする。  |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準(評価割合%)<br>中間発表-----20%<br>最終発表-----50%<br>論文・ポートフォリオ-----30%   |
| 履修の条件<br>留意点 | 発表・課題・観察記録の評価を合計して60%以上で履修とする。<br>この科目は専門分野・柔道整復実技・学究探求演習(総合柔道整復演習)の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。    |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ)<br>○一年次からの知識や疑問に思ったことを自由に探究できる時間なので自主的に行動してください。<br>○授業中は自分自身の時間になりますので無駄にしないこと。<br>○自分自身のためにある科目です。<br>○積極的な学習姿勢が望まれます。 |
| オフィスアワー      |  |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容              | 到達目標 (SBOs)  | 講義形態  |
|----|----|-------------------|--|-------|
| 前期 | 1  | 題目の検討             | 1 題材について調べる際の目的や方法を身につけ、有用性を吟味し、科学的に検証できる。<br>2 自分自身で興味を持つ題材について探求心をもつことができる。<br>3 今後の学業に対して様々な観点から物事をみることができる。<br>4 調べたことに対し第三者の前で分かりやすく発表することができる。 | 講義・実習 |
|    | 2  | スケジュール作製          |  | 実習    |
|    | 3  | 作業の目的の考察          |  | 実習    |
|    | 4  | 学生個々の作業時間         |  | 実習    |
|    | 5  | 学生個々の作業時間         |  | 実習    |
|    | 6  | 学生個々の作業時間         |  | 実習    |
|    | 7  | 学生個々の作業時間         |  | 実習    |
|    | 8  | 作業の中間報告           |  | 発表    |
|    | 9  | 作業の中間報告           |  | 発表    |
|    | 10 | 学生個々の作業時間         |  | 実習    |
|    | 11 | 学生個々の作業時間         |  | 実習    |
|    | 12 | 学生個々の作業時間         |  | 実習    |
|    | 13 | 学生個々の作業時間         |  | 実習    |
|    | 14 | 論文・研究・作品等の発表      |  | 発表    |
|    | 15 | 論文・研究・作品等の発表      |  | 発表    |
|    | 16 | 論文・研究・作品等の発表 論文提出 |  | 発表    |

【分野】 専門分野 柔道整復実技

【科目】 総合柔道整復演習(医用画像演習)

## 【基本情報】

|      |      |         |               |      |
|------|------|---------|---------------|------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員    | かわぐち ひろのぶ     |      |
| 単位数  | 1 単位 |         | 川口 央修 (実務経験有) |      |
| 開講学期 | 前期   | 授業形態・回数 | 講義            | 16 回 |

## 【授業情報】

|               |  |
|---------------|--|
| 授業概要          | 放射線技師の資格も有し、整形外科勤務の経験があり、その経験を活かし、主に医用画像について教授する。X線の発見とその特性を利用した身体の内部構造を探る手段としての画像化に始まり、超音波を利用した画像化、核磁気共鳴に至る各種画像化技術についての理解を深め、放射線が人体に与える影響についても学び、その安全管理などを修得する。そして、身体の内部構造を観察するにあたり、3次元構造を2次元に表現するために必要な手段や、断層撮影の原理を学び、体表解剖と内部構造の関係についても修得する。 |
| 授業の一般目標 (G10) | 各種画像検査の概要とそのメカニズムを学習することで、放射線の人体への影響ならびに特性を学び、画像として得られる情報を正しく把握するための方法を解説できるようにする。その後、超音波や核磁気共鳴に関しても同様に学習し、各種断層撮影や特殊な撮影方法の原理を学び、解剖学との整合性においても解説できるようにする。   |

## 【担当教員から】

|              |  |
|--------------|--|
| 教科書          |  |
| 参考書          | 見て学ぶ放射線 通商産業研究社 医用画像検査技術学 南山堂<br>放射線生物学 丸善プラネット<br>放射線基礎医学 日本出版サービス<br>診療画像解剖学テキスト 文光堂   |
| 成績評価基準       | 定期試験:シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題(レポート・小テスト等):レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。<br>観察記録:技能・態度・習慣を観察して適宜記録し判定資料とする。   |
| 成績評価方法       | 定期試験:シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。<br>課題(レポート・小テスト等):レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。<br>観察記録:技能・態度・習慣を観察して適宜記録し判定資料とする。   |
| 履修の条件<br>留意点 | 成績評価の基準(評価割合%)<br>期末(到達目標達成確認)試験成績―― 90%<br>(課題等を行わなかった場合は95%)<br>観察記録―― 5%<br>課題等―― 5% (課題等を行った場合の加算割合)   |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ)<br>解剖学の知識と実際の画像との対比で前額面・矢状面・断層面のみならず3次元の身体の内部構造のイメージの認識を高めることを目的に興味を唆るように進めていきたいと考えている。また、超音波画像装置はこれからの接骨院においてスタンダードに利用されていくことが推測されます。しかしプローブの走査方法や画像の解析方法には慣れと経験が必要です。学生の頃に受講しておくことで、資格取得後の実際の臨床現場では一歩進んだ自信が得られることを期待します。<br>この科目の理解を深めるためには翌週の講義までに前回の内容を復習しておくことが望ましい。<br>課題の提出を求められた場合には期限を厳守してください。期限を過ぎた課題は受理しません。 |
| オフィスアワー      | 3F教員室  |



## 【授業計画】

| 学期        | 回数 | 講義内容                      | 到達目標 (SBOs)   | 講義形態 |
|-----------|----|---------------------------|---|------|
| <b>前期</b> | 1  | 医用画像の歴史と放射線の概念 X線の発見      | 1 画像検査機器の種類を挙げ放射線の定義を説明できる。                                       | 講義   |
|           | 2  | X線の発生とスペクトル 制動X線・特性X線の相違  | 1 単純X線発生装置の特徴、X線の種類と性質を説明できる。                                     | 講義   |
|           | 3  | 単純X線撮影装置によるX線の発生と写真効果     | 1 X線画像検査機器の構造を知り、その写真効果の原理を説明できる。                                 | 講義   |
|           | 4  | 上肢の撮影方法と画像の実際             | 1 各種上肢帯と自由上肢骨の撮影方法を実際の画像から説明できる。                                  | 講義   |
|           | 5  | 下肢の撮影方法と画像の実際             | 1 各種下肢帯と自由下肢骨の撮影方法を実際の画像から説明できる。                                  | 講義   |
|           | 6  | 体幹の撮影方法と画像の実際             | 1 頸椎・胸椎・腰椎・仙骨・尾骨の撮影方法を実際の画像から説明できる。                               | 講義   |
|           | 7  | アナログとデジタルならびにX線CTの構造と撮像原理 | 1 アナログとデジタルの利点や相違点、X線CTの歴史と撮像原理、X線CTの構造を説明できる。                    | 講義   |
|           | 8  | 超音波画像の概要（超音波実習）           | 1 超音波の特性ならびに運動器系への応用に関して適応を説明できる。                                 | 企業連携 |
|           | 9  | 超音波画像の実際（超音波実習）           |   | 企業連携 |
|           | 10 | CT画像の撮影法と実際               | 1 各部位のCT画像を説明できる。<br>2 アーチファクトの実際と理由を説明できる。                       | 講義   |
|           | 11 | 核磁気共鳴画像の基礎と検査方法           | 1 核磁気共鳴の概要と撮像に必要な静磁場強度とラーモア周波数の関係ならびに各種アーチファクトと原因となる磁性体について説明できる。 | 講義   |
|           | 12 | MRIの画像の撮影法と実際             | 1 MRIの撮像方法と画像を説明できる。  | 講義   |
|           | 13 | MRIの画像の撮影法と実際             |   | 講義   |
|           | 14 | 核医学検査と放射線治療の概要            | 1 核医学ならびに放射線治療について説明できる。  | 講義   |
|           | 15 | 期末(到達目標達成確認)評価            | 1 各単元の総復習を行い、上肢・下肢・頭部ならびに体幹の撮像方法と画像を再確認しさらに、CTとMRIの撮像方法と画像を再確認する。 | 試験   |
|           | 16 | まとめ                       |   | 講義   |

【分野】 専門分野 臨床実習

【科目】 臨床実習(学内実習 I)

## 【基本情報】

|      |      |         |                  |      |
|------|------|---------|------------------|------|
| 配当年次 | 2 学年 | 担当教員    |                  |      |
| 単位数  | 1 単位 |         | 附属クリニック・附属施術所指導者 |      |
| 開講学期 | 前期   | 授業形態・回数 | 実習               | 23 回 |

## 【授業情報】

|               |   |
|---------------|---|
| 授業概要          | 認定された実習施設において臨床実習指導者が、臨床現場での実習を教授する。患者に対する接遇、安全性・清潔保持の重要性を附属クリニックや付属施術所の実習を通して体験する。健康保険証の取り扱い・施術適応等の学習、請求書作成業務・窓口業務を実習を通して学習する。クリニックの医師や勤務柔道整復師と患者の関わりを通じて柔道整復の対象となる業務を理解し、対象に即した業務を実習の中で体験する。見学実習を主とするが、患者に対しての施術方法、徒手検査法、物理療法機器の機能・適応・使用方法などを実習を通して理解を深め、専門職としての柔道整復師の役割や責任について考える。 |
| 授業の一般目標 (GIO) | 臨床現場で患者の状態に即した対応ができる。柔道整復の臨床現場で必要な救急の知識及び技能を修得する。医師ならびにコ・メディカル・勤務柔道整復師の実態を知る。   |

## 【担当教員から】

|              |   |
|--------------|---|
| 教科書          |   |
| 参考書          |   |
| 成績評価基準       | 1) 実習実技：シラバスで明示した到達目標を基本とし、第三者（実習指導者）が、客観的に達成できているかを評価する。<br>2) 実習レポート：ルーブリック評価を用いて評価する。<br>3) 観察記録：技能・態度・習慣を観察して適宜記録し判定資料とする。  |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準（評価割合％）<br>実習実技・観察記録----- 30％<br>実習レポート----- 70％   |
| 履修の条件<br>留意点 | 実習実技・観察記録・実習レポートの評価を合計して60％以上で履修とする。<br>この科目は専門分野・臨床実習・臨床実習 I の単位として認定されます。なお、本科目は、実習の100％の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、実習の出欠には充分注意してください。   |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）<br>学内でのクリニック、施術所での実習を行う際の目的を明確にし、実際の業務内容と柔道整復師を目指す者として今後必要となるものは何かを見つけ、認識してもらう事が必要となります。<br>また、将来を見据えて、臨床実習指導者の指導により様々なことを経験、吸収し、自身の柔道整復師観を形成して下さい。 |
| オフィスアワー      |   |



【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容               | 到達目標 (SBOs)                                | 講義形態  |
|----|----|--------------------|--|-------|
| 前期 | 1  | 患者に対する態度 安全性・清潔保持  | 1 患者に不快感を与えない態度がとれる。                       | 講義    |
|    | 2  | 患者対応の実際 (リハビリ室)    | 1 整形外科医の業務を認識出来る。                          | 実習    |
|    | 3  | 患者対応の実際 (整形外科・X線室) | 2 コ・メディカルの業務を認識出来る。<br>3 他の医療従事者の業務を認識出来る。 | 実習    |
|    | 4  | 肩関節の構造と機能・肩関節の体表解剖 | 1 肩関節の構造と運動を説明できる。<br>2 肩関節の体表解剖として触知できる。  | 講義・実習 |
|    | 5  | 肩関節疾患の実際           | 3 肩の疾患で正しい検査法ができる。                         | 実習    |
|    | 6  | 肘関節の構造と機能・肘関節の体表解剖 | 1 肘関節の構造と運動を説明できる。                         | 講義・実習 |
|    | 7  | 肘関節疾患の実際           | 2 肘関節の体表解剖として触知できる。<br>3 肘の疾患で正しい検査法ができる。  | 実習    |
|    | 8  | 手関節の構造と機能・手関節の体表解剖 | 1 手関節の構造と運動を説明できる。                         | 講義・実習 |
|    | 9  | 手関節疾患の実際           | 2 手関節の体表解剖として触知できる。<br>3 手の疾患で正しい検査法ができる。  | 実習    |
|    | 10 | 膝関節の構造と機能・膝関節の体表解剖 | 1 膝部を中心に体表解剖ができる。                          | 講義・実習 |
|    | 11 | 膝関節疾患の実際           | 2 膝関節疾患の診察法・徒手検査法を理解し適切に行える。               | 実習    |
|    | 12 | 足関節の構造と機能・足関節の体表解剖 | 1 足関節の構造が説明できる。                            | 講義・実習 |
|    | 13 | 足関節疾患の実際           | 2 足関節の体表解剖として触知できる。<br>3 足関節のテーピング固定ができる。  | 実習    |
|    | 14 | 体幹の構造と機能・体幹の体表解剖   | 1 体幹部の体表解剖として触知できる。                        | 講義・実習 |
|    | 15 | 体幹疾患の実際            | 2 体幹部疾患の診察法・徒手検査法を理解し適切に行える。               | 実習    |
|    | 16 | 後療法の種類とその特徴        | 1 後療法の種類と特徴が説明できる。                         | 講義・実習 |
|    | 17 | 手技療法の実際            | 2 各療法の応用と禁忌を説明ができる。<br>3 機器の使用方法を説明ができる。   | 実習    |
|    | 18 | 徒手筋力検査法の説明・実技      | 1 徒手筋力検査法の意義と目的が説明できる。                     | 講義・実習 |
|    | 19 | 徒手筋力検査法の説明・実技      | 2 検査実施上の注意事項を説明できる。                        | 実習    |
|    | 20 | 厚紙副子・不可塑性ギプス副子     | 1 各々の固定材料の使用方法を説明・実施できる。                   | 講義・実習 |
|    | 21 | 可塑性ギプス副子           | 2 各々の固定材料の特徴を説明できる。                        | 実習    |
|    | 22 | 石膏ギプスの実際           | 3 各固定材料に適した外傷や部位を理解する。                     | 実習    |
|    | 23 | 不可塑性キャストの実際        | 4 各固定材料を目的に応じて加工し、安全に取り外しをすることができる。        | 実習    |

【分野】 専門分野 臨床実習

【科目】 臨地実習Ⅱ(事業所実習Ⅱ)

## 【基本情報】

|      |       |         |              |      |
|------|-------|---------|--------------|------|
| 配当年次 | 2 学年  | 担当教員    |              |      |
| 単位数  | 1 単位  |         | 各事業所の臨床実習指導者 |      |
| 開講学期 | 前期・後期 | 授業形態・回数 | 実習           | 23 回 |

## 【授業情報】

|               |   |
|---------------|---|
| 授業概要          | 認定された実習施設において臨床実習指導者が、臨床現場での実習を教授する。全体として患者に対する接遇、安全性・清潔保持の重要性を各実習先事業所の実習を通して体験する。事業所に実習に行く形態をとり、自分自身の将来像の形成にも役立てる。 |
| 授業の一般目標 (G10) | 実際の臨床現場で習熟した医師や柔道整復師の患者の状態に即した対応を見学し、専門的思考過程を展開する経験を知る。柔道整復の臨床現場で必要な救急の知識及び技能を修得する。医師・開業柔道整復師の実態を知り、自身の柔道整復師観を形成する。 |

## 【担当教員から】

|              |  |
|--------------|--|
| 教科書          |  |
| 参考書          |  |
| 成績評価基準       | 1) 事業所評価：シラバスで明示した到達目標を基本とし、第三者（実習指導者）が、客観的に達成できているかを実習評価表の項目に則り評価する。<br>2) 実習レポート・デイリーノート・ポートフォリオ：ルーブリック評価を用いて評価する。   |
| 成績評価方法       | 成績評価の基準（評価割合(%)）<br>事業所評価表----- 50%<br>実習レポート----- 30%<br>デイリーノート・ポートフォリオ----- 20%   |
| 履修の条件<br>留意点 | 事業所評価・実習レポート・デイリーノート・ポートフォリオの評価を合計して60%以上で履修とする。この科目は専門分野・臨床実習・臨地実習Ⅱの単位として認定されます。なお、本科目は、実習の100%の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、実習の出欠には充分注意してください。                                |
| 担当教員         | ★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）<br>外部の事業所に出向く際の目的を明確にし、実際の業務内容と柔道整復師を目指す者として今後必要となるものは何かを見つけ、認識してもらう事が必要となります。また、将来を見据えて、各事業所の臨床実習指導者の指導により様々なことを経験、吸収し、自身の柔道整復師観を形成して下さい。 |
| オフィスアワー      |  |



【授業計画】

| 学期       | 回数 | 講義内容                 | 到達目標 (SBOs)  | 講義形態 |
|----------|----|----------------------|--|------|
| 前期<br>後期 | 1  | 患者対応の実際Ⅲ (各事業所臨地実習Ⅲ) | 1 実習先へ出向く際の目的を明確化できる。<br>2 時間の管理が出来る。<br>3 柔道整復師を目指す者としてふさわしい身なり、行動ができる。<br>4 各事業所スタッフや患者と良好な人間関係を築くことが出来る。<br>5 困難な問題は指導者に適切に相談することができる。<br>6 守秘義務・個人情報の管理が出来る。<br>7 診療前の準備が出来る。<br>8 受付業務の流れが分かる。<br>9 診療業務の補助が出来る。<br>10 患者とのコミュニケーションがとれる。<br>11 患者の安全を確保する方法を示せる。 | 実習   |
|          | 2  | 患者対応の実際Ⅲ (各事業所臨地実習Ⅲ) |  | 実習   |
|          | 3  | 患者対応の実際Ⅲ (各事業所臨地実習Ⅲ) |  | 実習   |
|          | 4  | 患者対応の実際Ⅲ (各事業所臨地実習Ⅲ) |  | 実習   |
|          | 5  | 患者対応の実際Ⅲ (各事業所臨地実習Ⅲ) |  | 実習   |
|          | 6  | 患者対応の実際Ⅲ (各事業所臨地実習Ⅲ) |  | 実習   |
|          | 7  | 患者対応の実際Ⅲ (各事業所臨地実習Ⅲ) |  | 実習   |
|          | 8  | 患者対応の実際Ⅲ (各事業所臨地実習Ⅲ) |  | 実習   |
|          | 9  | 患者対応の実際Ⅲ (各事業所臨地実習Ⅲ) |  | 実習   |
|          | 10 | 患者対応の実際Ⅲ (各事業所臨地実習Ⅲ) |  | 実習   |
|          | 11 | 患者対応の実際Ⅲ (各事業所臨地実習Ⅲ) |  | 実習   |
|          | 12 | 患者対応の実際Ⅲ (各事業所臨地実習Ⅲ) |  | 実習   |
|          | 13 | 患者対応の実際Ⅲ (各事業所臨地実習Ⅲ) |  | 実習   |
|          | 14 | 患者対応の実際Ⅲ (各事業所臨地実習Ⅲ) |  | 実習   |
|          | 15 | 患者対応の実際Ⅲ (各事業所臨地実習Ⅲ) |  | 講義   |
|          | 16 | 患者対応の実際Ⅲ (各事業所臨地実習Ⅲ) |  | 実習   |
|          | 17 | 患者対応の実際Ⅲ (各事業所臨地実習Ⅲ) |  | 実習   |
|          | 18 | 患者対応の実際Ⅲ (各事業所臨地実習Ⅲ) |  | 実習   |
|          | 19 | 患者対応の実際Ⅲ (各事業所臨地実習Ⅲ) |  | 実習   |
|          | 20 | 患者対応の実際Ⅲ (各事業所臨地実習Ⅲ) |  | 実習   |
|          | 21 | 患者対応の実際Ⅲ (各事業所臨地実習Ⅲ) |  | 実習   |
|          | 22 | 患者対応の実際Ⅲ (各事業所臨地実習Ⅲ) |  | 実習   |
|          | 23 | 患者対応の実際Ⅲ (各事業所臨地実習Ⅳ) |  | 実習   |

|     |          |
|-----|----------|
| 科目  | 人体構造機能学  |
| 学年  | I部 柔整科3年 |
| 期   | 1期       |
| 単位数 | 1        |
| 担当  | 林 孝宗     |

### 講義の目的

・人体の構造および機能について担当教員より教授する。

#### 一般目標

○1年2年で学習してきた各器官・器官系の細かな構造と構成およびその機能と調節機序との関連性を結びつけて整理する。人体を総合的に理解し、正常な状態と異常な状態との違いを理解していく。

#### 個別目標

- 1) 人体の構造を総括的に熟知する。
- 2) 人体の機能を総括的に熟知する。
- 3) 人体構造と機能とを関連づける。
- 4) 人体構造の全体像を把握し、各器官・器官系を系統的に理解し、説明できる。
- 5) 各器官・器官系の調節機序を理解し、説明できる。
- 6) 各単元の復習を行い、人体の構造と機能を総括的に理解できる。

### 成績評価方法

#### 評価評価の方法と基準

定期試験:シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。

課題(レポート・小テスト等):レポートであればルーブリック評価を用い、

小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。

成績評価の基準 (評価割合(%))

- ・期末(到達目標達成確認)試験成績-----95% (課題等を行わなかった場合は100%)
- ・課題等-----5% (課題等を行った場合の加算割合)

#### 出題方針

○教科書の内容を中心に、教材プリントなどから出題する。

#### 範囲 (予定)

1学期期末:解剖・生理の基礎、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、運動器系

### 履修の条件・留意点

○期末(到達目標達成確認)試験、課題の評価を合計して60%以上で履修とする。

この科目は専門基礎分野・人体の構造と機能・人体構造機能学の単位として認定されます。

なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。

### 教科書・参考書

人体系統解剖学 (南山堂) 吉川文雄 スネル 一臨床解剖学一  
生理学 (南江堂) 根来英雄・貴邑富久子著 生理学 真島 標準生理学 本郷他  
新生理学上下巻 問田他 神経生理学 内園他

### 授業時間外に必要な学習内容

○予習→授業→復習のサイクルを守るように。

○授業では、ノートをとるだけでなく、話を良く聞くこと。

○柔道整復科の最も基本となる科目であるため、解剖学と生理学とを統括し、授業の予習・復習をして授業に望むなど、積極的な学習姿勢が望まれます。

講義の内容・日程

| 回  | 講 義 内 容          | 講義形態 |
|----|------------------|------|
| 1  | 解剖・生理の基礎         | 講義   |
| 2  | 循環器系             | 講義   |
| 3  | 呼吸器系             | 講義   |
| 4  | 消化器系             | 講義   |
| 5  | 泌尿生殖器系           | 講義   |
| 6  | 内分泌系             | 講義   |
| 7  | 感覚器系             | 講義   |
| 8  | 中枢神経             | 講義   |
| 9  | 末梢神経             | 講義   |
| 10 | 運動器系             | 講義   |
| 11 | 運動器系             | 講義   |
| 12 | 1期期末(到達目標達成確認)試験 |      |

|     |              |
|-----|--------------|
| 科目  | 関係法規         |
| 学年  | I部 柔整科3年     |
| 期   | 1学期          |
| 単位数 | 1            |
| 担当  | 山口 嘉 (実務経験有) |

### 講義の目的

・接骨院勤務の経歴があり、臨床現場での経験を活かして、主に柔道整復師法について教授する。

#### 一般目標

○柔道整復に関係する法律を理解し、適切な柔道整復業務が行えるようにする。また、柔道整復との連携が必要な医療関係職種に関する法律も併せて理解し、業務分担・境界域を熟知し業務の円滑な運営にしする人格形成を計る。

#### 個別目標

- 1) 法の概要を知り、憲法・法律・政令・省令・条例・規則などの関係を理解できる。
- 2) 柔道整復師法の内容を理解し、他の医療関連法律との関係を説明できる。
- 3) 医療法・医師法・歯科医師法などの概略を説明できる。
- 4) 社会保険関連法規の概略を理解し、保険取り扱いの重要性を熟知する。

### 成績評価方法

#### 評価評価の方法と基準

定期試験:シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。

課題(レポート・小テスト等):レポートであればルーブリック評価を用い、

小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。

成績評価の基準 (評価割合(%))

- ・ 期末(到達目標達成確認)試験成績----- 95% (課題等を行わなかった場合は100%)
- ・ 課題等----- 5% (課題等を行った場合の加算割合)

#### 出題方針

○授業時間内の内容を中心に出題する。

#### 範囲 (予定)

1学期期末:法律~柔道整復師法(業務)

### 履修の条件・留意点

○期末(到達目標達成確認)試験、課題の評価を合計して60%以上で履修とする。

この科目は専門基礎分野・保健医療福祉と柔道整復の理念・関係法規の単位として認定されます。

なお、本科目の定期試験受験の為に、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。

### 教科書・参考書

関係法規 全国柔道整復学校協会編

柔整師必携(社)日本柔道整復師会編

### 授業時間外に必要な学習内容

- 柔道整復師に関係する法律を知る学問です。予習、復習は欠かせないこと。
- 授業中はノートをとるだけでなく、内容をよく理解しながら聞くこと。
- 分からないことがあったときは、すぐに解決するようにする。協力は惜しみません。
- 関係法規に関しての大まかな知識や概念を把握できるように、積極的な学習姿勢が望まれます。

講義の内容・日程

| 回  | 講 義 内 容             | 講義形態 |
|----|---------------------|------|
| 1  | 法について               | 講義   |
| 2  | 柔道整復師法（総則）          | 講義   |
| 3  | 柔道整復師法（免許）          | 講義   |
| 4  | 柔道整復師法（試験）          | 講義   |
| 5  | 柔道整復師法（業務）          | 講義   |
| 6  | 柔道整復師法（養成施設と指定試験機関） | 講義   |
| 7  | 柔道整復師法（施術所）         | 講義   |
| 8  | 柔道整復師法（罰則）          | 講義   |
| 9  | 医療関係法規              | 講義   |
| 10 | 衛生関係法規              | 講義   |
| 11 | 社会保険関係法規            | 講義   |
| 12 | 1期期末(到達目標達成確認)試験    |      |

|     |              |
|-----|--------------|
| 科目  | 柔道Ⅱ          |
| 学年  | I部 柔整科3年     |
| 期   | 前期           |
| 単位数 | 1            |
| 担当  | 工藤 大介（実務経験有） |

### 講義の目的

・柔道整復師免許を有し、柔道の経験を活かして、柔道について教授する。

#### 一般目標

- 形を用いて柔道の理合いを追求する。  
攻撃および防御の練習により技の理合いを理解できるようにする。

#### 個別目標

- 1) 技の成り立ち、崩し、作り、体を理解し、形を行うことができる。
- 2) 投げ技の正しい組み方、姿勢、吊り手、引き手、体裁きについて理解し、行うことができる。
- 3) 打ち込み練習、約束乱取り（固め技を含めて）を通し、柔道の理合いを理解し、行うことができる。

### 成績評価方法

#### 評価評価の方法と基準

期末試験：シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。

観察記録：技能・態度・習慣を観察して適宜記録し判定資料とする。

成績評価の基準（評価割合(%)）

- ・ 期末(到達目標達成確認)試験成績----- 95%
- ・ 観察記録----- 5%

#### 出題方針

○授業時間内の内容を中心に行う。

#### 範囲（予定）

前期期末：礼法～投げの形

### 履修の条件・留意点

○期末(到達目標達成確認)試験、課題の評価を合計して60%以上で履修とする。

この科目は専門基礎分野・保健医療福祉と柔道整復の理念・柔道実技Ⅱの単位として認定されます。

なお、本科目の定期試験受験の為に、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。

### 教科書・参考書

柔道の形（橋本親著）・寝技で勝つ柔道（柏崎克彦著）

投げの形（講道館）DVD

### 授業時間外に必要な学習内容

○柔道整復術を学ぶ上での基礎となる科目です。ケガをしないようよく準備運動を行い、身体を暖めてから実技にはいるようにすること。授業の予習、復習を欠かさないこと。

○授業中はふざけたりせず、集中して行うこと。

○分からないことがあったときは、すぐに解決するようにする。協力は惜しみません。

○柔道整復師にとってこの科目ができないことはあってはならないことです。

自分自身のために授業の予習・復習をして授業に臨むなど、積極的な学習姿勢が望まれます。

講義の内容・日程

| 回  | 講 義 内 容            | 講義形態 |
|----|--------------------|------|
| 1  | 礼法（立礼・座礼・拝礼）       | 実技   |
| 2  | 受身（後ろ受身・横受身・前回り受身） | 実技   |
| 3  | 投げ技（くずしとつくり・投げと受身） | 実技   |
| 4  | 背負い投げ（打ち込み・乱取り）    | 実技   |
| 5  | 体落とし・大外刈（打ち込み 乱取り） | 実技   |
| 6  | 腰技（打ち込み 乱取り）       | 実技   |
| 7  | 捨身技（打ち込み ・乱取り）     | 実技   |
| 8  | 抑え技（袈裟固め・肩固め・）     | 実技   |
| 9  | 抑え技（上四方固め・横四方固め）   | 実技   |
| 10 | 約束乱取り              | 実技   |
| 11 | 投げの形（礼法・間合い）       | 実技   |
| 12 | 投げの形（手技）           | 実技   |
| 13 | 投げの形（腰技）           | 実技   |
| 14 | 投げの形（足技）           | 実技   |
| 15 | 総合演習（礼法・投げの形）      | 実技   |
| 16 | 前期期末実技(到達目標達成確認)試験 |      |

|     |                  |
|-----|------------------|
| 科目  | 柔道整復と基礎医学(人体構造学) |
| 学年  | I部 柔整科3年         |
| 期   | 2・3期             |
| 単位数 | 2                |
| 担当  | 本多 修二(実務経験有)     |

### 講義の目的

・接骨院勤務の経歴があり、その経験を活かして、柔道整復に関わる人体の構造について教授する。

#### 一般目標

○1年2年で学習してきた各器官・器官系の細かな構造と構成およびその機能と調節機序との関連性を結びつけて整理する。人体を総合的に理解し、正常な状態と異常な状態との違いを理解していく。

#### 個別目標

- 1) 人体の構造を総括的に熟知する。
- 2) 人体の機能を総括的に熟知する。
- 3) 人体構造と機能とを関連づける。
- 4) 人体構造の全体像を把握し、各器官・器官系を系統的に理解し、説明できる。
- 5) 各器官・器官系の調節機序を理解し、説明できる。
- 6) 各単元の復習を行い、人体の構造と機能を総括的に理解できる。

### 成績評価方法

#### 評価評価の方法と基準

定期試験:シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。

課題(レポート・小テスト等):レポートであればルーブリック評価を用い、

小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。

成績評価の基準(評価割合(%))

- ・期末(到達目標達成確認)試験成績-----95%(課題等を行わなかった場合は100%)
- ・課題等-----5%(課題等を行った場合の加算割合)

#### 出題方針

○授業時間内の内容を中心に行う。

#### 範囲(予定)

- 2学期期末:全範囲(解剖学)
- 3学期期末:全範囲(解剖学)

### 履修の条件・留意点

○期末(到達目標達成確認)試験、課題の評価を合計して60%以上で履修とする。

この科目は専門分野・基礎柔道整復学・柔道整復と基礎医学の単位として認定されます。

なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。

### 教科書・参考書

神中整形外科学(天児 民和)、標準整形外科、新盤整形外科学・外傷学(東他)、  
骨関節の外傷(ワトソン・ジョーンズ)  
人体系統解剖学(吉川 文雄)  
基礎運動学

### 授業時間外に必要な学習内容

- 予習→授業→復習のサイクルを守るように。
- 授業では、ノートをとるだけでなく、話を良く聞くこと。
- 柔道整復科の最も基本となる科目であるため、解剖学と生理学とを統括し、授業の予習・復習をして授業に望むなど、積極的な学習姿勢が望まれます。

講義の内容・日程

| 回  | 講義内容                      | 講義形態 |
|----|---------------------------|------|
| 1  | 解剖基礎                      | 講義   |
| 2  | 解剖基礎                      | 講義   |
| 3  | 循環器系                      | 講義   |
| 4  | 循環器系                      | 講義   |
| 5  | 呼吸器系                      | 講義   |
| 6  | 呼吸器系                      | 講義   |
| 7  | 消化器系                      | 講義   |
| 8  | 消化器系                      | 講義   |
| 9  | 泌尿生殖器系                    | 講義   |
| 10 | 泌尿生殖器系                    | 講義   |
| 11 | 内分泌系                      | 講義   |
| 12 | 2期期末(到達目標達成確認)試験 (一次卒業試験) |      |
| 13 | 内分泌系                      | 講義   |
| 14 | 感覚器系                      | 講義   |
| 15 | 感覚器系                      | 講義   |
| 16 | 中枢神経                      | 講義   |
| 17 | 中枢神経                      | 講義   |
| 18 | 末梢神経                      | 講義   |
| 19 | 末梢神経                      | 講義   |
| 20 | 運動器系                      | 講義   |
| 21 | 運動器系                      | 講義   |
| 22 | 運動器系                      | 講義   |
| 23 | 運動器系                      | 講義   |
| 24 | 3期期末(到達目標達成確認)試験 (二次卒業試験) |      |

|     |                  |
|-----|------------------|
| 科目  | 柔道整復と基礎医学(人体機能学) |
| 学年  | I部 柔整科3年         |
| 期   | 2・3期             |
| 単位数 | 2                |
| 担当  | 中村 尚志(実務経験有)     |

### 講義の目的

・接骨院や整形外科勤務の経験があり、その経験を活かし、柔道整復に関わる人体の機能について教授する。

#### 一般目標

- 1年2年で学習してきた各器官・器官系の細かな構造と構成およびその機能と調節機序との関連性を結びつけて整理する。特に柔道整復師として必要な筋骨格器系を中心に運動するためには不可欠な神経系・循環器系および呼吸器系の機能を理解する。人体を総合的に理解し、正常な状態と異常な状態との違いを理解していく。

#### 個別目標

- 1) 人体の構造を総括的に熟知する。
- 2) 人体の機能を総括的に熟知する。
- 3) 人体構造と機能とを関連づける。
- 4) 人体構造の全体像を把握し、各器官・器官系を系統的に理解し、説明できる。
- 5) 各器官・器官系の調節機序を理解し、説明できる。
- 6) 各単元の復習を行い、人体の構造と機能を総括的に理解できる。

### 成績評価方法

#### 評価評価の方法と基準

定期試験:シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。

課題(レポート・小テスト等):レポートであればルーブリック評価を用い、

小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。

成績評価の基準(評価割合(%))

- ・期末(到達目標達成確認)試験成績-----95%(課題等を行わなかった場合は100%)
- ・課題等-----5%(課題等を行った場合の加算割合)

#### 出題方針

○授業時間内の内容を中心に行う。

#### 範囲(予定)

- 2学期期末:全範囲(生理学)  
3学期期末:全範囲(生理学)

### 履修の条件・留意点

○期末試験、課題の評価を合計して60%以上で履修とする。

この科目は専門分野・基礎柔道整復学・柔道整復と基礎医学の単位として認定されます。

なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。

### 教科書・参考書

神中整形外科学(天児 民和)、標準整形外科、新盤整形外科学・外傷学(東他)、  
骨関節の外傷(ワトソン・ジョーンズ) 人体系統解剖学(吉川 文雄)  
基礎運動学 生理学(真島) 標準生理学(本郷他)

### 授業時間外に必要な学習内容

- 予習→授業→復習のサイクルを守るように。
- 授業では、ノートをとるだけでなく、話を良く聞くこと。
- 柔道整復科の最も基本となる科目であるため、解剖学と生理学とを統括し、授業の予習・復習をして授業に望むなど、積極的な学習姿勢が望まれます。

講義の内容・日程

| 回  | 講義内容                      | 講義形態 |
|----|---------------------------|------|
| 1  | 解剖・生理の基礎                  | 講義   |
| 2  | 解剖・生理の基礎                  | 講義   |
| 3  | 循環器系                      | 講義   |
| 4  | 循環器系                      | 講義   |
| 5  | 呼吸器系                      | 講義   |
| 6  | 呼吸器系                      | 講義   |
| 7  | 消化器系                      | 講義   |
| 8  | 消化器系                      | 講義   |
| 9  | 泌尿生殖器系                    | 講義   |
| 10 | 泌尿生殖器系                    | 講義   |
| 11 | 内分泌系                      | 講義   |
| 12 | 2期期末(到達目標達成確認)試験 (一次卒業試験) |      |
| 13 | 内分泌系                      | 講義   |
| 14 | 感覚器系                      | 講義   |
| 15 | 感覚器系                      | 講義   |
| 16 | 中枢神経                      | 講義   |
| 17 | 中枢神経                      | 講義   |
| 18 | 末梢神経                      | 講義   |
| 19 | 末梢神経                      | 講義   |
| 20 | 運動器系                      | 講義   |
| 21 | 運動器系                      | 講義   |
| 22 | 運動器系                      | 講義   |
| 23 | 運動器系                      | 講義   |
| 24 | 3期期末(到達目標達成確認)試験 (二次卒業試験) |      |

|     |                  |
|-----|------------------|
| 科目  | 柔道整復と基礎医学(健康の意義) |
| 学年  | I部 柔整科3年         |
| 期   | 2・3期             |
| 単位数 | 2                |
| 担当  | 山口 嘉(実務経験有)      |

### 講義の目的

・接骨院勤務の経歴があり、その経験を活かし、柔道整復に関わる衛生学・公衆衛生学について教授する。

#### 一般目標

- 1年次に学んだ衛生学・公衆衛生学の復習および新法施行による改正点を中心に講義を行う。
- 柔道整復師として、日常業務を安全かつ衛生的に遂行する上での規準・規定を理解する。
- 日常生活で健康を維持、増進するために意義のある事項を知る。

#### 個別目標

- 1) WHOの健康の定義、国際障害分類を挙げ、それぞれのステージ分類における健康的な生活を説明できる。
- 2) 疾病の予防、感染の予防について理解し、説明することができる。
- 3) 消毒法について理解し実際に行うことができる。
- 4) 環境保健について現代における問題点をあげることができ、その解決法を述べることができる。
- 5) 母子保健、学校保健、産業保健についてそれぞれの特徴を理解し説明できる。
- 6) 衛生行政と保険医療制度の問題点をあげることができ、その解決法を述べることができる。

### 成績評価方法

#### 評価評価の方法と基準

定期試験:シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。

課題(レポート・小テスト等):レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。

成績評価の基準(評価割合(%))

- ・期末(到達目標達成確認)試験成績-----95%(課題等を行わなかった場合は100%)
- ・課題等-----5%(課題等を行った場合の加算割合)

#### 出題方針

○教科書の内容を中心に、教材プリントなどから出題する。

#### 範囲(予定)

- 2学期:全範囲(衛生学)
- 3学期:全範囲(衛生学)

### 履修の条件・留意点

○期末(到達目標達成確認)試験、課題の評価を合計して60%以上で履修とする。

この科目は専門分野・基礎柔道整復学・柔道整復と基礎医学の単位として認定されます。

なお、本科目の定期試験受験の為に、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。

### 教科書・参考書

衛生学・公衆衛生学 改訂第5版 柔道整復学校協会監修 南江堂  
国民衛生の動向 財団法人 厚生統計協会

### 授業時間外に必要な学習内容

- 病理学、一般臨床医学、外科学の科目と密接に関わってくるため、総合的に学習していくことが望ましい。
- 最終学年度の総まとめです。分からないことがあったときは、すぐ解決するようにする。

講義の内容・日程

| 回  | 講義内容                      | 講義形態 |
|----|---------------------------|------|
| 1  | 衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動       | 講義   |
| 2  | 健康の概念                     | 講義   |
| 3  | 疾病予防と健康管理                 | 講義   |
| 4  | 感染症の予防                    | 講義   |
| 5  | 消毒 I                      | 講義   |
| 6  | 消毒 II                     | 講義   |
| 7  | 環境保健 I                    | 講義   |
| 8  | 環境保健 II                   | 講義   |
| 9  | 環境保健 III                  | 講義   |
| 10 | 環境保健 III                  | 講義   |
| 11 | 環境保健 IV                   | 講義   |
| 12 | 2期期末(到達目標達成確認)試験 (一次卒業試験) |      |
| 13 | 母子保健                      | 講義   |
| 14 | 学校保健                      | 講義   |
| 15 | 産業保健                      | 講義   |
| 16 | 成人・老人保健                   | 講義   |
| 17 | 精神保健                      | 講義   |
| 18 | 生活環境                      | 講義   |
| 19 | 地域保健と国際保健                 | 講義   |
| 20 | 食品衛生活動                    | 講義   |
| 21 | 衛生行政と保険医療の制度 I            | 講義   |
| 22 | 衛生行政と保険医療の制度 II           | 講義   |
| 23 | 疫学                        | 講義   |
| 24 | 3期期末(到達目標達成確認)試験 (二次卒業試験) |      |

|     |              |
|-----|--------------|
| 科目  | 上肢の損傷学Ⅱ      |
| 学年  | I部 柔整科3年     |
| 期   | 1・2・3期       |
| 単位数 | 3            |
| 担当  | 工藤 大介（実務経験有） |

### 講義の目的

・接骨院勤務の経歴があり、その経験を活かし、主に上肢の損傷について教授する。

#### 一般目標

○上肢の骨折それぞれの発生機序と骨折形態の関係を理解し、それぞれの骨片転位のメカニズムを知り、骨折整復の方法を検討する。また、体幹損傷の症状も含め理解し診断ができるようにする。  
起りうる合併症を知り、その対策と治療法について理解を深める。

#### 個別目標

- 1) 前腕近位骨の骨折の発生機序・症状・施術法ならびに合併症や予後についての概要を述べることができる。
- 2) 前腕骨幹部部の骨折の発生機序・症状・施術法ならびに合併症や予後についての概要を述べることができる。
- 3) 前腕遠位端の骨折・脱臼の発生機序・症状・施術法ならびに合併症や予後についての概要を述べるができる。
- 4) 手指部の骨折・脱臼の発生機序・症状・施術法ならびに合併症や予後についての概要を述べることができる。
- 5) 柔道整復学における体幹の損傷の発生機序・症状・施術法ならびに合併症や予後についての概要を述べるができる。

### 成績評価方法

#### 評価評価の方法と基準

定期試験:シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。

課題(レポート・小テスト等):レポートであればルーブリック評価を用い、

小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。

成績評価の基準 (評価割合(%))

- ・ 期末(到達目標達成確認)試験成績-----95% (課題等を行わなかった場合は100%)
- ・ 課題等-----5% (課題等を行った場合の加算割合)

#### 出題方針

○授業時間内の内容を中心に行う。

#### 範囲 (予定)

- 1 学期期末: 前腕近位端部骨折～前腕遠位端部骨折
- 2 学期期末: 全範囲 (柔道整復学)
- 3 学期期末: 全範囲 (柔道整復学)

### 履修の条件・留意点

○期末(到達目標達成確認)試験、課題の評価を合計して60%以上で履修とする。

この科目は専門分野・臨床柔道整復学・上肢の損傷学Ⅱの単位として認定されます。

なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。

### 教科書・参考書

柔道整復学理論編

神中整形外科学 (天児 民和)・新版整形外科学・外傷学 (東 博彦他)・

骨・関節の外傷 (ワトソンジョーンズ・柏木 大治訳)、一人で学べる柔整理論 (呉竹学園編)

### 授業時間外に必要な学習内容

○柔道整復学の各論 (上肢) となる科目です。授業の予習、復習を欠かさないこと。

○授業中はノートをとるだけでなく、内容をよく理解しながら聞くこと。

○柔道整復師にとってこの科目ができないことはあってはならないことです。

自分自身のために授業の予習・復習をして授業に臨むなど、積極的な学習姿勢が望まれます。

## 講義の内容・日程

| 回  | 講義内容                                     | 講義形態 |
|----|--|------|
| 1  | 前腕骨近位端部骨折の概要と分類                          | 講義   |
| 2  | 橈骨頭・頸部骨折の発生機序と症状・施術法と予後                  | 講義   |
| 3  | 肘頭骨折の発生機序と症状・施術法と予後                      | 講義   |
| 4  | 橈骨骨幹部単独骨折の症状と施術法ならびに合併症と予後               | 講義   |
| 5  | 尺骨骨幹部単独骨折の症状と施術法ならびに合併症と予後               | 講義   |
| 6  | Monteggia 骨折の発生機序と症状・施術法と予後              | 講義   |
| 7  | Galeazzi 骨折の発生機序と症状・施術法と予後               | 講義   |
| 8  | 前腕両骨骨幹部骨折の発生機序と分類・症状・合併症と後遺症・予後          | 講義   |
| 9  | 前腕骨遠位端部骨折の概要・発生機序・症状・施術法                 | 講義   |
| 10 | Colles 骨折の整復法・Colles 骨折の固定法              | 講義   |
| 11 | Smith 骨折発生機序・症状・整復・固定法・予後・治療上の留意点        | 講義   |
| 12 | 1 期期末(到達目標達成確認)試験                        |      |
| 13 | Barton 骨折の整復・固定法・その他の遠位端部骨折整復・固定法 1      | 講義   |
| 14 | その他の遠位端部骨折整復・固定法 2・前腕骨遠位端部骨折治療上の注意       | 講義   |
| 15 | 手部骨折の概要・舟状骨骨折の整復・固定法・舟状骨骨折の合併症・後遺症       | 講義   |
| 16 | 手根骨骨折の概要・手関節の脱臼の概説・発生機序・分類・整復法・固定法       | 講義   |
| 17 | 手根骨脱臼・発生機序、分類、特徴・整復法・固定法                 | 講義   |
| 18 | 中手骨基部骨折の発生機序・分類・症状・整復・固定法                | 講義   |
| 19 | Bennet 骨折の整復・固定法・特殊な治療法・Bennet 骨折の観血的治療法 | 講義   |
| 20 | 中手骨頸部・骨幹部骨折の整復・固定法・観血的治療法                | 講義   |
| 21 | 手指損傷の概要・指骨骨折の整復法・固定法                     | 講義   |
| 22 | 中手指節関節・指節間関節脱臼・発生機序・分類・整復法・固定法           | 講義   |
| 23 | 手指部の軟部組織の概説・発生機序、分類、特徴                   | 講義   |
| 24 | 2 期期末(到達目標達成確認)試験 (一次卒業試験)               |      |
| 25 | 体幹の損傷 1                                  | 講義   |
| 26 | 体幹の損傷 2                                  | 講義   |
| 27 | 体幹の損傷 3                                  | 講義   |
| 28 | 体幹の損傷 4                                  | 講義   |
| 29 | 体幹の損傷 5                                  | 講義   |
| 30 | 上肢の損傷 1                                  | 講義   |
| 31 | 上肢の損傷 2                                  | 講義   |
| 32 | 上肢の損傷 3                                  | 講義   |
| 33 | 上肢の損傷 4                                  | 講義   |
| 34 | 上肢の損傷 5                                  | 講義   |
| 35 | 上肢の損傷 6                                  | 講義   |
| 36 | 3 期期末(到達目標達成確認)試験 (二次卒業試験)               |      |

|     |              |
|-----|--------------|
| 科目  | 下肢の損傷学Ⅱ      |
| 学年  | I部 柔整科3年     |
| 期   | 1・2・3期       |
| 単位数 | 3            |
| 担当  | 川口 央修（実務経験有） |

### 講義の目的

・接骨院や整形外科勤務の経歴があり、その経験を活かし、主に下肢の損傷について教授する。

#### 一般目標

- 下肢の骨折それぞれの発生機序と骨折形態の関係を理解し、それぞれの骨片転位のメカニズムを知り、骨折整復の方法を検討する。また、総論も含め骨折・脱臼症状を理解し診断ができるようにする。  
起こりうる合併症を知り、その対策と治療法について理解を深める。

#### 個別目標

- 1) 下腿骨近位端部骨折の発生機序・症状・施術法ならびに合併症や予後についての概要を述べることができる。
- 2) 下腿骨骨幹部骨折の発生機序・症状・施術法ならびに合併症や予後についての概要を述べることができる。
- 3) 下腿骨遠位端部骨折の発生機序・症状・施術法ならびに合併症や予後についての概要を述べることができる。
- 4) 足部骨折の発生機序・症状・施術法ならびに合併症や予後についての概要を述べることができる。
- 5) 下腿の損傷の発生機序・症状・施術法ならびに合併症や予後についての概要を述べることができる。
- 6) 柔道整復学総論における分類を述べることができる。

### 成績評価方法

#### 評価評価の方法と基準

定期試験:シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。

課題(レポート・小テスト等): レポートであればルーブリック評価を用い、

小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。

成績評価の基準 (評価割合(%))

- ・ 期末(到達目標達成確認)試験成績----- 95% (課題等を行わなかった場合は100%)
- ・ 課題等----- 5% (課題等を行った場合の加算割合)

#### 出題方針

- 授業時間内の内容を中心に行う。

#### 範囲 (予定)

- 1 学期期末: 脛骨顆部骨折～果部骨折
- 2 学期期末: 全範囲 (柔道整復学)
- 3 学期期末: 全範囲 (柔道整復学)

### 履修の条件・留意点

- 期末(到達目標達成確認)試験、課題の評価を合計して60%以上で履修とする。

この科目は専門分野・臨床柔道整復学・下肢の損傷学Ⅱの単位として認定されます。

なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。

### 教科書・参考書

柔道整復学理論編

神中整形外科学 (天児 民和)

新版整形外科学・外傷学 (東 博彦他)

骨・関節の外傷 (ワトソンジョーンズ・柏木 大治訳)

関節の生理学 (カパンディ)

### 授業時間外に必要な学習内容

- 柔道整復学の各論 (下肢) となる科目です。授業の予習、復習を欠かさないこと。

- 授業中はノートをとるだけでなく、内容をよく理解しながら聞くこと。

- 柔道整復師にとってこの科目ができないことはあってはならないことです。

自分自身のために授業の予習・復習をして授業に臨むなど、積極的な学習姿勢が望めます。

## 講義の内容・日程

| 回  | 講義内容                                | 講義形態 |
|----|-------------------------------------|------|
| 1  | 脛骨顆部骨折の発生機序と分類及び症状                  | 講義   |
| 2  | 脛骨顆部骨折の施術法、合併症、後遺症、予後               | 講義   |
| 3  | 顆間隆起骨折の発生機序と分類及び症状、施術法、合併症、後遺症、予後   | 講義   |
| 4  | 脛骨結節骨折 発生機序と分類及び症状、施術法、合併症、後遺症、予後   | 講義   |
| 5  | 腓骨頭骨折 発生機序と症状・施術法と予後                | 講義   |
| 6  | 下腿骨骨幹部骨折の発生機序と分類、下腿両骨骨折の発生機序と分類及び症状 | 講義   |
| 7  | 施術法、合併症、後遺症、予後、脛骨単独骨折施術法、合併症、後遺症、予後 | 講義   |
| 8  | 腓骨単独骨折・下腿骨果上骨折の発生機序、症状、施術法、予後       | 講義   |
| 9  | 下腿骨遠位端部骨折(果部骨折)の発生機序と分類             | 講義   |
| 10 | 下腿骨遠位端部骨折(果部骨折)の症状、施術法、合併症、後遺症、予後   | 講義   |
| 11 | 三果部骨折の発生機序と分類症状、施術法、合併症後遺症、予後       | 講義   |
| 12 | 1期期末(到達目標達成確認)試験                    |      |
| 13 | 足部脱臼の症状・施術法・合併症・後遺症及び予後             | 講義   |
| 14 | 距腿関節脱臼の発生機序と分類・距骨脱臼の発生機序と分類         | 講義   |
| 15 | 距骨骨折の発生機序と分類及び症状、施術法、合併症、後遺症、予後     | 講義   |
| 16 | 踵骨骨折の発生機序と分類、合併症、後遺症、予後             | 講義   |
| 17 | その他の足根骨骨折の発生機序と分類・症状と施術法合併症、後遺症、予後  | 講義   |
| 18 | 中足骨骨折の発生機序・症状                       | 講義   |
| 19 | 中足骨骨折の施術法・予後                        | 講義   |
| 20 | 趾骨骨折の施術法、合併症・後遺症、予後                 | 講義   |
| 21 | 下腿部肉離れの治療法・足関節の軟部組織損傷・足関節捻挫         | 講義   |
| 22 | アキレス腱損傷の概説・発生機序と分類・症状・固定法・治療法       | 講義   |
| 23 | 足部の軟部組織の概説・発生機序と分類及び施術法             | 講義   |
| 24 | 2期期末(到達目標達成確認)試験 (一次卒業試験)           |      |
| 25 | 柔道整復学総論 1                           | 講義   |
| 26 | 柔道整復学総論 2                           | 講義   |
| 27 | 柔道整復学総論 3                           | 講義   |
| 28 | 柔道整復学総論 4                           | 講義   |
| 29 | 柔道整復学総論 5                           | 講義   |
| 30 | 下肢の損傷 1                             | 講義   |
| 31 | 下肢の損傷 2                             | 講義   |
| 32 | 下肢の損傷 3                             | 講義   |
| 33 | 下肢の損傷 4                             | 講義   |
| 34 | 下肢の損傷 5                             | 講義   |
| 35 | 下肢の損傷 6                             | 講義   |
| 36 | 3期期末(到達目標達成確認)試験 (二次卒業試験)           |      |

|     |                |
|-----|----------------|
| 科目  | 柔道整復と臨床医学（病理学） |
| 学年  | I部 柔整科3年       |
| 期   | 1・2・3期         |
| 単位数 | 3              |
| 担当  | 山崎 智久（実務経験有）   |

### 講義の目的

・接骨院勤務の経歴があり、その経験を活かし、柔道整復に関わる病理学について教授する。

#### 一般目標

○病理学とは疾病の成り立ちを理解する学問である。それゆえ医学の一番中心となる学問とも言える。  
「柔道整復と病理学」の内容は他の科目と関連させながら病態を理解し、なおかつ運動器の病理についても学習するものであり、免疫異常、アレルギー、腫瘍、先天性異常、運動器の病理、脳死の判定基準の各分野について学ぶ。

#### 個別目標

- 1) 免疫の仕組みやアレルギーのI～V型について説明できる。
- 2) 腫瘍の定義・腫瘍細胞や良性と悪性の違い、発生の機構、診断・治療・分類を説明できる。
- 3) 先天性異常の原因・種類について理解できる。
- 4) 先天性骨系統疾患・骨の萎縮・肥大・循環障害・代謝異常疾患・炎症・組織球増殖症・腫瘍について疾病名や原因・特徴などを説明できる。
- 5) 関節の先天性異常や代謝障害・炎症・リウマチ・変形性関節症・腫瘍について疾病名や原因・特徴などを説明できる。
- 6) 脳死の判定基準を説明できる。

### 成績評価方法

#### 評価評価の方法と基準

定期試験:シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。

課題(レポート・小テスト等):レポートであればルーブリック評価を用い、

小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。

成績評価の基準 (評価割合(%))

- ・ 期末(到達目標達成確認)試験成績----- 95% (課題等を行わなかった場合は100%)
- ・ 課題等----- 5% (課題等を行った場合の加算割合)

#### 出題方針

○授業時間内の内容を中心

#### 範囲 (予定)

- 1 学期期末:骨・軟骨の構造・先天性疾患～脳死の判定基準
- 2 学期期末:全範囲 (病理学)
- 3 学期期末:全範囲 (病理学)

### 履修の条件・留意点

○期末(到達目標達成確認)試験、課題の評価を合計して60%以上で履修とする。

この科目は専門分野・基礎柔道整復学・柔道整復と臨床医学の単位として認定されます。

なお、本科目の定期試験受験の為に、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。

### 教科書・参考書

病理学 高橋 徹著 金原出版、病理学概論 関根一郎著 医歯薬出版

解剖学教科書、生理学教科書、

### 授業時間外に必要な学習内容

- 人体の正常な構造と機能を学習し、異常が起きたときに人体に及ぼす影響、疾病の成り立ちを知る学問です。予習、復習は欠かさないこと。
- 柔道整復と病理学は臨床に通じる病理学として、内科学、外科学、整形外科、臨床柔道整復学等の臨床科目や、他の基礎医学系科目との関連を重視して、病気に関しての大まかな知識や概念を把握できるように、積極的な学習姿勢が望まれます。

講義の内容・日程

| 回  | 講 義 内 容                   | 講義形態 |
|----|---------------------------|------|
| 1  | 骨・軟骨の構造・先天性疾患             | 講義   |
| 2  | 骨の萎縮と肥大・骨の循環障害            | 講義   |
| 3  | 骨の代謝異常疾患・炎症               | 講義   |
| 4  | 組織球増殖症・腫瘍                 | 講義   |
| 5  | 関節の構造・先天性異常・代謝障害・炎症       | 講義   |
| 6  | リウマチとその類縁疾患               | 講義   |
| 7  | 変形性関節症・腫瘍                 | 講義   |
| 8  | 骨格筋の循環障害                  | 講義   |
| 9  | 退行性病変・重症筋無力症              | 講義   |
| 10 | 骨格筋の炎症・腫瘍                 | 講義   |
| 11 | 脳死の判定基準                   | 講義   |
| 12 | 1期期末(到達目標達成確認)試験          |      |
| 13 | 病理学の意義                    | 講義   |
| 14 | 疾病の一般                     | 講義   |
| 15 | 病因Ⅰ                       | 講義   |
| 16 | 病因Ⅱ                       | 講義   |
| 17 | 退行性病変Ⅰ                    | 講義   |
| 18 | 退行性病変Ⅱ                    | 講義   |
| 19 | 循環障害Ⅰ                     | 講義   |
| 20 | 循環障害Ⅱ                     | 講義   |
| 21 | 進行性病変Ⅰ                    | 講義   |
| 22 | 進行性病変Ⅱ                    | 講義   |
| 23 | 進行性病変Ⅲ                    | 講義   |
| 24 | 2期期末(到達目標達成確認)試験 (一次卒業試験) |      |
| 25 | 炎症Ⅰ                       | 講義   |
| 26 | 炎症Ⅱ                       | 講義   |
| 27 | 免疫異常Ⅰ                     | 講義   |
| 28 | 免疫異常Ⅱ                     | 講義   |
| 29 | アレルギーⅠ                    | 講義   |
| 30 | アレルギーⅡ                    | 講義   |
| 31 | 腫瘍Ⅰ                       | 講義   |
| 32 | 腫瘍Ⅱ                       | 講義   |
| 33 | 腫瘍Ⅲ                       | 講義   |
| 34 | 先天性異常Ⅰ                    | 講義   |
| 35 | 先天性異常Ⅱ                    | 講義   |
| 36 | 3期期末(到達目標達成確認)試験 (二次卒業試験) |      |

|     |                  |
|-----|------------------|
| 科目  | 柔道整復と臨床医学(整形外科学) |
| 学年  | I部 柔整科3年         |
| 期   | 1・2・3期           |
| 単位数 | 3                |
| 担当  | 有沢 治(実務経験有)      |

### 講義の目的

・医師免許を有し、臨床現場での経験を活かして、主に整形外科学について教授する。

#### 一般目標

○柔道整復は外傷による運動器損傷を取り扱うことを業務としている。これに対して広く運動器疾患を取り扱うのが整形外科学である。本科目では外傷以外の運動器疾患の診断と治療を中心とし、その類似性と相違について理解できる。併せて、外傷による運動器損傷についての整形外科的治療法を理解できることも目標とする。

#### 個別目標

- 1) 四肢循環障害の疾患概念・分類・症状・診断・鑑別について理解し、説明できる。
- 2) 神経・筋の系統疾患の特徴・症状等の概要を知り、外傷との鑑別でき、さらに一次的な対応をするための知識を得る。
- 3) 体幹の疾患の特徴・症状等の概要を知り、外傷との鑑別及び一次的な対応をするための知識を得る。
- 4) 整形外科領域における肩甲帯および上肢の疾患の特徴・症状・一般的治療法等の概要を知り、外傷との鑑別及び一次的な対応をするための知識を得る。
- 5) 整形外科領域における骨盤および下肢の疾患の特徴・症状・一般的治療法等の概要を知り、外傷との鑑別及び一次的な対応をするための知識を得る。

### 成績評価方法

#### 評価評価の方法と基準

定期試験:シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。

課題(レポート・小テスト等):レポートであればルーブリック評価を用い、

小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。

成績評価の基準(評価割合(%))

- ・期末(到達目標達成確認)試験成績-----95%(課題等を行わなかった場合は100%)
- ・課題等-----5%(課題等を行った場合の加算割合)

#### 出題方針

○授業時間内の内容を中心に出题する。

#### 範囲(予定)

- 1学期期末:四肢循環障害～体幹の疾患
- 2学期期末:全範囲(整形外科学)
- 3学期期末:全範囲(整形外科学)

### 履修の条件・留意点

○期末(到達目標達成確認)試験、課題の評価を合計して60%以上で履修とする。

この科目は専門分野・臨床柔道整復学・柔道整復と臨床医学の単位として認定されます。

なお、本科目の定期試験受験の為に、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。

### 教科書・参考書

標準整形外科学 医学書院・神中整形外科学(天児 民和)・整形外科学・外傷学(森崎 直木)  
骨・関節の外傷(ワトソンジョーンズ・柏木 大治訳)

### 授業時間外に必要な学習内容

○運動器損傷を取り扱う柔道整復師にとって整形外科学の知識は必要不可欠です。

予習、復習は欠かさないこと。

○授業中はノートをとるだけでなく、内容をよく理解しながら聞くこと。

○整形外科学では運動器損傷に対する治療法の柔道整復との相違点の学習、それぞれの疾患の特徴や症状・診断・治療などの理解を深めることを望みます。

講義の内容・日程

| 回  | 講義内容                      | 講義形態 |
|----|---------------------------|------|
| 1  | 末梢動脈疾患                    | 講義   |
| 2  | レイノー症候群                   | 講義   |
| 3  | 深部静脈血栓症                   | 講義   |
| 4  | 静脈瘤                       | 講義   |
| 5  | 上肢の神経麻痺と絞扼性神経障害           | 講義   |
| 6  | 下肢の神経麻痺と絞扼性神経障害           | 講義   |
| 7  | 腕神経叢損傷・分娩麻痺               | 講義   |
| 8  | 全身性神経・筋疾患                 | 講義   |
| 9  | 脊髄腫瘍・脊髄損傷                 | 講義   |
| 10 | 頸部の疾患                     | 講義   |
| 11 | 胸部の疾患・腰部の疾患               | 講義   |
| 12 | 1期期末(到達目標達成確認)試験          |      |
| 13 | 肩・肩甲帯の損傷                  | 講義   |
| 14 | 上腕・肘関節の損傷                 | 講義   |
| 15 | 前腕の損傷                     | 講義   |
| 16 | 手関節の損傷                    | 講義   |
| 17 | 手・手指の損傷                   | 講義   |
| 18 | 骨盤・股関節の骨折の手術              | 講義   |
| 19 | 骨盤・股関節の損傷                 | 講義   |
| 20 | 大腿・膝関節の骨折の手術              | 講義   |
| 21 | 大腿・膝関節の損傷                 | 講義   |
| 22 | 下腿・足関節の骨折の手術              | 講義   |
| 23 | 下腿・足関節の損傷・足・足指の疾患         | 講義   |
| 24 | 2期期末(到達目標達成確認)試験 (一次卒業試験) |      |
| 25 | 骨・関節・筋・靭帯・腱の基礎知識          | 講義   |
| 26 | 整形外科診察法Ⅰ                  | 講義   |
| 27 | 整形外科検査法Ⅱ                  | 講義   |
| 28 | 保存療法・観血的療法                | 講義   |
| 29 | 骨折総論・関節の損傷                | 講義   |
| 30 | スポーツ整形外科総論                | 講義   |
| 31 | 各種リハビリテーション               | 講義   |
| 32 | 疾患別各論Ⅰ                    | 講義   |
| 33 | 疾患別各論Ⅱ                    | 講義   |
| 34 | 身体部位別各論Ⅰ                  | 講義   |
| 35 | 身体部位別各論Ⅱ                  | 講義   |
| 36 | 3期期末(到達目標達成確認)試験 (二次卒業試験) |      |

|     |                |
|-----|----------------|
| 科目  | 柔道整復と臨床医学（内科学） |
| 学年  | I部 柔整科3年       |
| 期   | 1・2・3期         |
| 単位数 | 3              |
| 担当  | 杉山 友彦（実務経験有）   |

### 講義の目的

・医師免許を有し、臨床現場での経験を活かして、主に内科学について教授する。

#### 一般目標

○診察概論として医療面接・視診・触診・打診・聴診及び理学的検査の方法と各疾患におけるそれらの所見と重要な鑑別点を学習する。消化器疾患・呼吸器疾患・循環器疾患・血液疾患・代謝疾患・膠原病、内分泌疾患・腎、尿路疾患・遺伝性疾患・神経筋疾患等をジャンル別に、それに属する疾患の病因、臨床症状、検査所見、治療法の概要などを学ぶ。

#### 個別目標

- 1) 血液疾患・腎・尿路疾患・神経疾患・感染症・性病・リウマチ性疾患・膠原病・遺伝性結合組織疾患環境要因による疾患の概要、診断、治療を理解し、説明できる。
- 2) 身体各部の視診・打診・聴診項目と代表的な疾患と臨床所見の関係を知る。
- 3) 主な呼吸器疾患・循環器疾患・消化器疾患・肝・胆・膵疾患・代謝・栄養疾患・内分泌疾患等の主要症状・主要所見・症状・診断・治療を理解できる。

### 成績評価方法

#### 評価評価の方法と基準

定期試験:シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。

課題(レポート・小テスト等):レポートであればルーブリック評価を用い、

小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。

成績評価の基準 (評価割合(%))

- ・期末(到達目標達成確認)試験成績-----95% (課題等を行わなかった場合は100%)
- ・課題等-----5% (課題等を行った場合の加算割合)

#### 出題方針

○授業時間内の内容を中心

### 範囲 (予定)

- 1 学期期末:糖代謝異常～脊髄腫瘍・感染性疾患(とくに髄膜炎)
- 2 学期期末:全範囲 (一般臨床医学)
- 3 学期期末:全範囲 (一般臨床医学)

### 履修の条件・留意点

○期末(到達目標達成確認)試験、課題の評価を合計して60%以上で履修とする。

この科目は専門分野・臨床柔道整復学・柔道整復と臨床医学の単位として認定されます。

なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。

### 教科書・参考書

内科学 (朝倉書店) 内科診断学

### 授業時間外に必要な学習内容

- 診察概論として医療面接・視診・触診・打診・聴診及び理学的検査の方法を例示し、各疾患におけるそれらの所見と重要な鑑別点を講義していきます。疾患別に付随する解剖学・生理学的内容を把握しておいて下さい。
- 授業中はノートをとるだけでなく、内容をよく理解しながら聞くこと。
- 代表的な疾患の主症状を知り、柔道整復の適応症であるかどうかの鑑別ができることで必要になってくる学問です。予習、復習は欠かさないこと。

## 講義の内容・日程

| 回  | 講 義 内 容                          | 講義形態 |
|----|----------------------------------|------|
| 1  | 糖代謝異常・脂質代謝異常                     | 講義   |
| 2  | 尿酸代謝・その他の代謝異常                    | 講義   |
| 3  | 内分泌疾患の概要                         | 講義   |
| 4  | 間脳・下垂体機能障害                       | 講義   |
| 5  | 副甲状腺疾患                           | 講義   |
| 6  | 副腎疾患                             | 講義   |
| 7  | 血液・造血器疾患                         | 講義   |
| 8  | 腎・尿路疾患                           | 講義   |
| 9  | 神経疾患の概要                          | 講義   |
| 10 | 脳血管障害                            | 講義   |
| 11 | 脊髄腫瘍・感染性疾患(とくに髄膜炎)               | 講義   |
| 12 | 1期期末(到達目標達成確認)試験                 |      |
| 13 | 痴呆性疾患・基底核変性疾患・運動ニューロン疾患          | 講義   |
| 14 | 末梢神経疾患・脱髄疾患・筋疾患・頸椎疾患             | 講義   |
| 15 | 感染症                              | 講義   |
| 16 | 性病                               | 講義   |
| 17 | リウマチ性疾患・膠原病                      | 講義   |
| 18 | 遺伝性結合組織疾患                        | 講義   |
| 19 | 環境要因による疾患                        | 講義   |
| 20 | 呼吸器疾患                            | 講義   |
| 21 | 循環器疾患                            | 講義   |
| 22 | 消化器疾患                            | 講義   |
| 23 | 肝・胆・膵疾患                          | 講義   |
| 24 | 2期期末(到達目標達成確認)試験 (一次卒業試験)        |      |
| 25 | 代謝・栄養疾患                          | 講義   |
| 26 | 内分泌疾患 I                          | 講義   |
| 27 | 内分泌疾患 II                         | 講義   |
| 28 | 血液疾患                             | 講義   |
| 29 | 腎・尿路疾患                           | 講義   |
| 30 | 神経疾患                             | 講義   |
| 31 | 感染・性病                            | 講義   |
| 32 | リウマチ性疾患・アレルギー性疾患・免疫不全症、環境因子による疾患 | 講義   |
| 33 | 総論 I                             | 講義   |
| 34 | 総論 II                            | 講義   |
| 35 | 総論 III                           | 講義   |
| 36 | 3期期末(到達目標達成確認)試験 (二次卒業試験)        |      |

|     |                |
|-----|----------------|
| 科目  | 柔道整復と臨床医学（外科学） |
| 学年  | I部 柔整科3年       |
| 期   | 1・2・3期         |
| 単位数 | 3              |
| 担当  | 添田 尚一（実務経験有）   |

### 講義の目的

・医師免許を有し、臨床現場での経験を活かして、主に外科学について教授する。

#### 一般目標

- 日常業務において遭遇しやすい外科領域の疾患および柔道整復師には禁忌症となっている創傷などの臨床症状および経過、治療法などが理解できる。
- 2年次で勉強した内容をふまえて各診療科目ごとの疾患について理解できる。
- 総論、各論の復習ができ、他の教科との総合的な学習ができる。

### 個別目標

- 1) 各領域ごとの疾患について、原因・症状・検査・診断・治療・予後などについて説明できる。
- 2) 損傷・創傷・熱傷・外科的感染症・腫瘍・ショック・輸血・輸液・消毒・滅菌・麻酔・移植出血・心肺蘇生法の説明ができる。

### 成績評価方法

#### 評価評価の方法と基準

定期試験:シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。

課題(レポート・小テスト等):レポートであればルーブリック評価を用い、

小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。

成績評価の基準 (評価割合(%))

- ・期末(到達目標達成確認)試験成績----- 95% (課題等を行わなかった場合は100%)
- ・課題等----- 5% (課題等を行った場合の加算割合)

#### 出題方針

○教科書の内容を中心に、教材プリントなどから出題する。

#### 範囲 (予定)

- 1学期:各論 胸壁・呼吸器疾患～心臓・脈管疾患
- 2学期:全範囲 (外科学)
- 3学期:全範囲 (外科学)

### 履修の条件・留意点

○期末(到達目標達成確認)試験、課題の評価を合計して60%以上で履修とする。

この科目は専門分野・臨床柔道整復学・柔道整復と臨床医学の単位として認定されます。

なお、本科目の定期試験受験の為に、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。

### 教科書・参考書

外科学概論 改訂第3版 (社)全国柔道整復学校協会監修 南江堂

### 授業時間外に必要な学習内容

- 予習→授業→復習のサイクルを守るように。
- 授業では、ノートをとるだけでなく、話を良く聞くこと。
- 各疾患におけるそれらの所見と重要な鑑別点を講義していきます。疾患別に付随する解剖学・生理学的内容を把握しておいて下さい。

## 講義の内容・日程

| 回  | 講義内容                      | 講義形態 |
|----|---------------------------|------|
| 1  | 胸壁・呼吸器疾患：構造 問診と身体所見       | 講義   |
| 2  | 胸壁・呼吸器疾患：症状 検査 手術         | 講義   |
| 3  | 胸壁・呼吸器疾患：胸壁・肺・縦隔疾患各論      | 講義   |
| 4  | 胸壁・呼吸器疾患：胸部損傷             | 講義   |
| 5  | 乳腺疾患：構造 診断 乳腺疾患各論         | 講義   |
| 6  | 甲状腺・頸部疾患：甲状腺疾患            | 講義   |
| 7  | 甲状腺・頸部疾患：頸部疾患             | 講義   |
| 8  | 心臓・脈管疾患：構造 検査法 手術法        | 講義   |
| 9  | 心臓・脈管疾患：先天性心疾患・弁膜症        | 講義   |
| 10 | 心臓・脈管疾患：心筋症・虚血性心疾患        | 講義   |
| 11 | 心臓・脈管疾患：動脈疾患・静脈疾患         | 講義   |
| 12 | 1期期末(到達目標達成確認)試験          |      |
| 13 | 腹部疾患：消化器の解剖生理             | 講義   |
| 14 | 腹部疾患：腹部外科疾患の主な症状          | 講義   |
| 15 | 腹部疾患：消化器疾患に対する主な検査        | 講義   |
| 16 | 腹部疾患：代表的腹部外科疾患            | 講義   |
| 17 | 腹部疾患：胆・肝・膵疾患              | 講義   |
| 18 | 腹部疾患：その他の腹部外科疾患           | 講義   |
| 19 | 損傷                        | 講義   |
| 20 | 創傷                        | 講義   |
| 21 | 熱傷                        | 講義   |
| 22 | 炎症と外科感染症                  | 講義   |
| 23 | ショック                      | 講義   |
| 24 | 2期期末(到達目標達成確認)試験 (一次卒業試験) |      |
| 25 | 輸血の復習 消毒と滅菌               | 講義   |
| 26 | 手術                        | 講義   |
| 27 | 麻酔                        | 講義   |
| 28 | 移植と免疫                     | 講義   |
| 29 | 出血と止血                     | 講義   |
| 30 | 心肺蘇生法                     | 講義   |
| 31 | 脳神経外科疾患                   | 講義   |
| 32 | 胸壁・呼吸器疾患                  | 講義   |
| 33 | 乳腺疾患 甲状腺疾患                | 講義   |
| 34 | 心臓・脈管疾患                   | 講義   |
| 35 | 腹部疾患                      | 講義   |
| 36 | 3期期末(到達目標達成確認)試験 (二次卒業試験) |      |

|     |                              |
|-----|------------------------------|
| 科目  | 柔道整復と臨床医学(リハビリテーション)         |
| 学年  | I部 柔整科3年                     |
| 期   | 1・2・3期                       |
| 単位数 | 3                            |
| 担当  | 村瀬 訓生(実務経験有)<br>赤岡 志穂(実務経験有) |

### 講義の目的

- ・医師免許を有し、臨床現場での経験を活かして、主にリハビリテーション医学について教授するとともに、柔道整復師免許を有し、臨床現場での経験を活かして、主にリハビリテーション医学について教授する。

#### 一般目標

- リハビリテーションと柔道整復との関わりは密接であり、他の科目も含めた総合的な疾病の理解ができる。

#### 個別目標

- 1) リハビリテーションの定義と概念及び主要目的を説明できる。
- 2) 障害のレベルを示し相互関係の概略が説明できる。
- 3) 運動に関与する器官の概要・運動コントロール機構の概要を説明できる。
- 4) 関節拘縮の発生機序・関節の変形について概要が説明できる。
- 5) 筋萎縮の発生機序・分類について、神経麻痺の分類と障害について概略が説明できる。
- 6) 運動障害の原因部位と評価手段、リハビリテーション治療の概要を説明できる。
- 7) 理学療法(定義・適応・実施過程)と運動療法・物理療法(種類・適応・期待される効果)を知る。
- 8) 装具の分類・使用目的・適応を説明できる。関連職種の資格と役割を知る。
- 9) 関連職種の資格と役割を説明できる。
- 10) 各疾患の分類・障害種類・リハビリテーションの概略を説明できる。

### 成績評価方法

#### 評価評価の方法と基準

定期試験:シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。

課題(レポート・小テスト等):レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。

成績評価の基準(評価割合(%))

- ・期末(到達目標達成確認)試験成績-----95%(課題等を行わなかった場合は100%)
- ・課題等-----5%(課題等を行った場合の加算割合)

#### 出題方針

- 教科書の内容を中心に、教材プリントなどから出題する。

#### 範囲(予定)

- 1学期:動脈硬化～環境変化の運動への影響
- 2学期:全範囲(リハビリテーション医学)
- 3学期:全範囲(リハビリテーション医学)

### 履修の条件・留意点

- 期末(到達目標達成確認)試験、課題の評価を合計して60%以上で履修とする。

この科目は専門分野・臨床柔道整復学・柔道整復と臨床医学の単位として認定されます。

なお、本科目の定期試験受験の為に、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。

### 教科書・参考書

リハビリテーション 改訂第2版 (社)全国柔道整復学校協会監修 南江堂

### 授業時間外に必要な学習内容

- 第三次予防であるリハビリテーションの重要性を理解し、今日の生活習慣病予防や治療、また介護予防・高齢者のより高い生活の質を保つためのイチジョとなる運動療法の役割を理解し、より社会にでてから実践的な視野を深める。

## 講義の内容・日程

| 回  | 講義内容  | 講義形態 |
|----|---|------|
| 1  | 動脈硬化と運動療法   | 講義   |
| 2  | 虚血性心疾患の病態、診断、治療                                       | 講義   |
| 3  | 心臓リハビリテーション   | 講義   |
| 4  | 末梢動脈疾患に対するリハビリテーション                                   | 講義   |
| 5  | 脳血管障害のリハビリテーション                                       | 講義   |
| 6  | 廃用症候群と理学・運動療法   | 講義   |
| 7  | 脊髄損傷、作業療法と装具  | 講義   |
| 8  | 日常生活動作、中枢性運動障害の評価                                     | 講義   |
| 9  | 身体活動量の評価方法  | 講義   |
| 10 | 運動による健康障害   | 講義   |
| 11 | 環境変化の運動への影響   | 講義   |
| 12 | 1期期末(到達目標達成確認)試験                                      |      |
| 13 | リハビリテーションの歴史と目的 障害の分類と対応                              | 講義   |
| 14 | 基礎力学(運動学)   | 講義   |
| 15 | 運動の神経機構(運動学)  | 講義   |
| 16 | 姿勢(運動学)   | 講義   |
| 17 | 歩行(運動学)   | 講義   |
| 18 | 関節拘縮・変形 筋萎縮 神経麻痺治療の原則 拘縮治療<br>筋力増強訓練 バイオフィードバック 痛みの治療 | 講義   |
| 19 | 患者のとらえ方 身体計測 関節可動域 徒手筋力テスト                            | 講義   |
| 20 | 中枢性運動障害の評価 小児運動発達の評価 協調性テスト                           | 講義   |
| 21 | 失認と失行の評価 日常生活評価 電気生理学的診断法 画像診断                        | 講義   |
| 22 | 運動療法 作業療法 物理療法(牽引療法含) 上肢・下肢・体幹の装具                     | 講義   |
| 23 | 歩行補装具 義肢 車椅子 自助具 介助機器 言語療法                            | 講義   |
| 24 | 2期期末(到達目標達成確認)試験(一次卒業試験)                              |      |
| 25 | リハビリテーション関連職種   | 講義   |
| 26 | 脳卒中のリハビリテーション   | 講義   |
| 27 | 脊髄損傷のリハビリテーション  | 講義   |
| 28 | 小児疾患のリハビリテーション  | 講義   |
| 29 | 切断 末梢神経損傷 関節リウマチのリハビリテーション                            | 講義   |
| 30 | 腰痛・頸肩腕痛・五十肩のリハビリテーション                                 | 講義   |
| 31 | 骨折のリハビリテーション  | 講義   |
| 32 | 心疾患 呼吸器疾患のリハビリテーション                                   | 講義   |
| 33 | 老人のリハビリテーション  | 講義   |
| 34 | リハビリテーションの演習問題  | 講義   |
| 35 | リハビリテーションの演習問題  | 講義   |
| 36 | 3期期末(到達目標達成確認)試験(二次卒業試験)                              |      |

|     |               |
|-----|---------------|
| 科目  | 臨床的治療法        |
| 学年  | I部 柔整科3年      |
| 期   | 前期            |
| 単位数 | 1             |
| 担当  | 朝比奈 恒人（実務経験有） |

### 講義の目的

・接骨院や整形外科勤務の経験があり、その経験を活かし、主に臨床的な治療法について教授する。

#### 一般目標

- 臨床上遭遇する機会の多い損傷に対しそれぞれに即した治療法を選択し実施することができる。  
特に遭遇頻度の高い損傷に関しては、整復動作、固定具の制作、装着が的確に実施できる能力を養う。  
固定具装着時に起こり得る障害が想定でき、予防のための処置が的確に行え、障害が起こった後の処置が的確に行える能力を養う。

#### 個別目標

- 1) 上肢の骨関節損傷それぞれについて損傷を想定し、実際の整復動作を実施できる。
- 2) 下肢の骨関節損傷それぞれについて損傷を想定し、実際の整復動作を実施できる。

### 成績評価方法

#### 評価評価の方法と基準

期末試験：シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。

観察記録：技能・態度・習慣を観察して適宜記録し判定資料とする。

成績評価の基準（評価割合(%)）

- ・期末(到達目標達成確認)試験成績----- 95%
- ・観察記録----- 5%

#### 出題方針

○授業時間内の内容を中心に行う。

#### 範囲（予定）

前期期末：Colles 骨折～足関節外側靭帯損傷の固定法

### 履修の条件・留意点

- 期末(到達目標達成確認)試験、課題の評価を合計して60%以上で履修とする。  
この科目は専門分野・柔道整復実技・臨床的治療法の単位として認定されます。  
なお、本科目の定期試験受験の為に、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。

### 教科書・参考書

柔道整復学（実技編）・包帯の巻き方・柔道整復実技（呉竹学園編）

### 授業時間外に必要な学習内容

- 臨床現場において遭遇する機会の多い上肢・下肢の外傷を中心に整復法や固定法を行う科目です。  
自主的に手を動かして何回も繰り返すことが大事であり授業の予習、復習を欠かさないこと。  
○授業中はノートをとるだけでなく、内容をよく理解しながら聞くこと。  
○実際の臨床現場において基となる技術を習得し、自分自身のために授業の予習・復習をして授業に臨むなど、積極的な学習姿勢が望まれます。

講義の内容・日程

| 回  | 講義内容                                | 講義形態 |
|----|-------------------------------------|------|
| 1  | Colles 骨折の診察及び整復法の実際                | 実技   |
| 2  | Colles 骨折の固定法の実際(クラメル副子と局所副子・三角巾固定) | 実技   |
| 3  | 肩腱板損傷の診察及び検査法の実際                    | 実技   |
| 4  | 上腕二頭筋長頭腱損傷の診察及び検査法の実際               | 実技   |
| 5  | ハムストリングス損傷(肉離れ)の診察及び検査法の実際          | 実技   |
| 6  | 大腿四頭筋打撲の診察及び検査法の実際                  | 実技   |
| 7  | 膝関節側副靭帯損傷の診察及び検査法の実際                | 実技   |
| 8  | 膝関節十字靭帯損傷の診察及び検査法の実際                | 実技   |
| 9  | 膝関節半月板損傷の診察及び検査法の実際                 | 実技   |
| 10 | 下腿三頭筋損傷(肉離れ)の診察及び検査法の実際             | 実技   |
| 11 | 足関節外側靭帯損傷の診察及び検査法の実際                | 実技   |
| 12 | 足関節外側靭帯損傷の固定法の実際(局所副子固定)            | 実技   |
| 13 | 各種損傷①                               | 実技   |
| 14 | 各種損傷②                               | 実技   |
| 15 | 前期実技(到達目標達成確認)試験                    |      |
| 16 | 前期実技(到達目標達成確認)試験                    |      |

|     |                                 |
|-----|---------------------------------|
| 科 目 | 総合柔道整復演習<br>(運動機能に基づく整復法演習)     |
| 学 年 | I 部 柔整科 3 年                     |
| 期   | 後 期                             |
| 単位数 | 1                               |
| 担 当 | 朝比奈 恒人 (実務経験有)<br>中村 尚志 (実務経験有) |

### 講義の目的

・接骨院や整形外科勤務の経歴があり、その経験を活かし、主に運動機能に基づく整復法について教授する。

#### 一般目標

- 柔道整復業務における各疾患の診察及び整復法の実技を修得する。  
運動器の構造・機能は柔道整復との関わりは密接であり、他の科目も含めた総合的な疾病の理解ができるようになる。

#### 個別目標

- 1) 整復法の実技を実践できる。
- 2) 身体運動の表し方を示せる。
- 3) 身体運動と力学を理解できる。
- 4) 姿勢・歩行の機能が分かる。
- 5) 運動発達・運動学習が分かる。

### 成績評価方法

#### 評価評価の方法と基準

定期試験:シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。

課題(レポート・小テスト等): レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。

観察記録: 技能・態度・習慣を観察して適宜記録し判定資料とする。

成績評価の基準 (評価割合(%))

- ・ 期末(到達目標達成確認)試験成績----- 90% (課題等を行わなかった場合は95%)
- ・ 観察記録----- 5%
- ・ 課題等----- 5% (課題等を行った場合の加算割合)

#### 出題方針

○授業時間内の内容を中心に行う。

#### 範囲 (予定)

後期期末: 全範囲 (運動学)

### 履修の条件・留意点

○期末(到達目標達成確認)試験、課題の評価を合計して60%以上で履修とする。

この科目は柔道整復実技の単位として認定されます。

なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。

### 教科書・参考書

柔道整復学 (理論編)・(実技編)・包帯の巻き方・柔道整復実技 (呉竹学園編)  
運動学 改訂第3版 (社) 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社

### 授業時間外に必要な学習内容

- 実技に関しては自主的に手を動かして何回も繰り返すことが大事であり授業の予習、復習を欠かさないこと。
- 座学に関しては自分の分からない所を理解できる様に何回も繰り返し学習することが大事であり授業の予習、復習を欠かさないこと。
- 分からないことがあったときは、すぐに解決するようにする。協力は惜しみません。

講義の内容・日程

| 回  | 講 義 内 容                    | 講義形態 |
|----|----------------------------|------|
| 1  | 上肢の疾患に対する整復法 1             | 実技   |
| 2  | 上肢の疾患に対する整復法 2             | 実技   |
| 3  | 上肢の疾患に対する整復法 3             | 実技   |
| 4  | 下肢の疾患に対する整復法 1             | 実技   |
| 5  | 下肢の疾患に対する整復法 2             | 実技   |
| 6  | 運動学の目的・運動の表し方              | 講義   |
| 7  | 身体運動と力学                    | 講義   |
| 8  | 運動器の構造と機能                  | 講義   |
| 9  | 神経の構造と機能                   | 講義   |
| 10 | 運動感覚                       | 講義   |
| 11 | 反射と随意運動                    | 講義   |
| 12 | 四肢と体幹の運動                   | 講義   |
| 13 | 姿勢                         | 講義   |
| 14 | 歩行                         | 講義   |
| 15 | 運動発達・運動学習                  | 講義   |
| 16 | 後期(到達目標達成確認)試験 (一次・二次卒業試験) |      |

|     |                         |
|-----|-------------------------|
| 科目  | 総合柔道整復演習<br>(柔道整復の基本概念) |
| 学年  | I部 柔整科3年                |
| 期   | 後期                      |
| 単位数 | 1                       |
| 担当  | 赤岡 志保 (実務経験有)           |

### 講義の目的

・接骨院の経歴があり、その経験を活かし、主に柔道整復の基本概念について教授する。

#### 一般目標

○柔道における礼節や受け身の実技を修得する。

また、柔道整復に關係する法律を理解し、適切な柔道整復業務が行えるようにする。

#### 個別目標

- 1) 柔道の礼節・受け身などの実技を実践できる。
- 2) 法の概要を知り、憲法・法律・政令・省令・条例・規則などの關係を理解できる。
- 3) 柔道整復師法の内容を理解し、他の医療関連法律との關係を説明できる。
- 4) 医療法・医師法・歯科医師法などの概略を説明できる。
- 5) 社会保険関連法規の概略を理解し、保険取り扱いの重要性を熟知する。

### 成績評価方法

#### 評価評価の方法と基準

定期試験:シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。

課題(レポート・小テスト等):レポートであればルーブリック評価を用い、

小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。

観察記録:技能・態度・習慣を観察して適宜記録し判定資料とする。

成績評価の基準 (評価割合(%))

- ・ 期末(到達目標達成確認)試験成績----- 90% (課題等を行わなかった場合は95%)
- ・ 観察記録----- 5%
- ・ 課題等----- 5% (課題等を行った場合の加算割合)

#### 出題方針

○授業時間内の内容を中心に行う。

#### 範囲 (予定)

後期期末:全範囲 (関係法規)

### 履修の条件・留意点

○期末(到達目標達成確認)試験、課題の評価を合計して60%以上で履修とする。

この科目は柔道整復実技の単位として認定されます。

なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。

### 教科書・参考書

柔道の形 (橋本親著)・寝技で勝つ柔道 (柏崎克彦著)

投げの形 (講道館) DVD

関係法規 全国柔道整復学校協会編

柔整師必携 (社) 日本柔道整復師会編

### 授業時間外に必要な学習内容

○実技に関しては自主的に手を動かして何回も繰り返すことが大事であり授業の予習、復習を欠かさないこと。

○座学に関しては自分の分からない所を理解できる様に何回も繰り返し学習することが大事であり授業の予習、復習を欠かさないこと。

○分からないことがあったときは、すぐに解決するようにする。協力は惜しみません。

講義の内容・日程

| 回  | 講 義 内 容                   | 講義形態 |
|----|---------------------------|------|
| 1  | 礼法（立礼・座礼・拝礼）              | 実技   |
| 2  | 受身（後ろ受身・横受身・前回り受身）        | 実技   |
| 3  | 投げの形①                     | 実技   |
| 4  | 投げの形②                     | 実技   |
| 5  | 投げの形③                     | 実技   |
| 6  | 柔道整復師法（総則）                | 講義   |
| 7  | 柔道整復師法（免許）                | 講義   |
| 8  | 柔道整復師法（試験）                | 講義   |
| 9  | 柔道整復師法（業務）                | 講義   |
| 10 | 柔道整復師法（養成施設と指定試験機関）       | 講義   |
| 11 | 柔道整復師法（施術所）               | 講義   |
| 12 | 柔道整復師法（罰則）                | 講義   |
| 13 | 医療関係法規                    | 講義   |
| 14 | 衛生関係法規                    | 講義   |
| 15 | 社会保険関係法規                  | 講義   |
| 16 | 後期(到達目標達成確認)試験（一次・二次卒業試験） |      |

|     |                 |
|-----|-----------------|
| 科目  | 臨床実習            |
| 学年  | I部 柔整科3年        |
| 期   | 前期              |
| 単位数 | 1               |
| 担当  | 附属施術所指導者（実務経験有） |

### 講義の目的

- ・柔道整復師免許を有するものが、臨床現場での実習を教授する。

#### 一般目標

- 臨床現場で患者の状態に即した対応ができる。柔道整復の臨床現場に必要な救急の知識及び技能を修得する。

#### 個別目標

- 1) 各関節の構造と運動を説明できる。
- 2) 各関節の体表解剖として触知できる。
- 3) 各関節の疾患で正しい検査法ができる。
- 4) 徒手筋力検査法の意義と目的が説明できる。
- 6) 検査実施上の注意事項を説明できる。
- 7) 各々の固定材料の使用方法を説明・実施できる。

### 成績評価方法

#### 評価評価の方法と基準

- 1) 実習実技：シラバスで明示した到達目標を基本とし、第三者（実習指導者）が、客観的に達成できているかを評価する。
- 2) 実習レポート：ルーブリック評価を用いて評価する。
- 3) 観察記録：技能・態度・習慣を観察して適宜記録し判定資料とする。

#### 成績評価の基準（評価割合(%)）

|           |           |
|-----------|-----------|
| 実習実技・観察記録 | ----- 30% |
| 実習レポート    | ----- 70% |

#### 出題方針

- 実習時間内の内容を中心に行う。

#### 範囲（予定）

### 履修の条件・留意点

- 実習実技・観察記録・実習レポートの評価を合計して60%以上で履修とする。  
この科目は専門分野・臨床実習・臨床実習Iの単位として認定されます。  
なお、本科目は、実習の100%の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、実習の出欠には充分注意してください。

### 教科書・参考書

柔道整復学（理論編）・（実技編）・包帯の巻き方・柔道整復実技（呉竹学園編）

### 授業時間外に必要な学習内容

- 施術所での実習を行う際の目的を明確にし、実際の業務内容と柔道整復師を目指す者として今後必要となるものは何かを見つけ、認識してもらうことが必要となります。  
また、将来を見据えて、臨床実習指導者の指導により様々なことを経験、吸収し、自身の柔整師観を形成して下さい。

講義の内容・日程

| 回  | 講義内容               | 講義形態  |
|----|--------------------|-------|
| 1  | 患者に対する態度 安全性・清潔保持  | 講義    |
| 2  | 患者対応の実際            | 実習    |
| 3  | 患者対応の実際            | 実習    |
| 4  | 肩関節の構造と機能・肩関節の体表解剖 | 講義・実習 |
| 5  | 肩関節疾患の実際           | 実習    |
| 6  | 肘関節の構造と機能・肘関節の体表解剖 | 講義・実習 |
| 7  | 肘関節疾患の実際           | 実習    |
| 8  | 手関節の構造と機能・手関節の体表解剖 | 講義・実習 |
| 9  | 手関節疾患の実際           | 実習    |
| 10 | 膝関節の構造と機能・膝関節の体表解剖 | 講義・実習 |
| 11 | 膝関節疾患の実際           | 実習    |
| 12 | 足関節の構造と機能・足関節の体表解剖 | 講義・実習 |
| 13 | 足関節疾患の実際           | 実習    |
| 14 | 体幹の構造と機能・体幹の体表解剖   | 講義・実習 |
| 15 | 体幹疾患の実際            | 実習    |
| 16 | 後療法の種類とその特徴        | 講義・実習 |
| 17 | 手技療法の実際            | 実習    |
| 18 | 徒手筋力検査法の説明・実技      | 講義・実習 |
| 19 | 徒手筋力検査法の説明・実技      | 実習    |
| 20 | 厚紙副子・不可塑性ギプス副子     | 講義・実習 |
| 21 | 可塑性ギプス副子           | 実習    |
| 22 | 石膏ギプスの実際           | 実習    |
| 23 | 不可塑性キャストの実際        | 実習    |